

# 令和6年度 福井県 子育て意識調査

## 1. 調査目的

福井県の結婚や出生行動の現状を理解する。また、現在行っている少子化・子育て支援施策に対する住民の方の評価を調査することで、政策評価を行う。詳細な調査を行うことにより、福井県が抱えている少子化の現状を詳細に知り、今後の政策ニーズを考察し、現在の政策の見直しや施策提言に繋げる。

## 2. 調査設計

(1) 調査対象：令和6年11月1日現在、20～40代の男女

(2) 対象人数：

福井県在住 4,400人（有効回答数 1,975人）

(3) 選定方法：市町村別人口を考慮した上で、住民基本台帳から無作為抽出

(4) 調査方法：対象者に郵送により依頼文を配布し、対象者は依頼文記載のQRコードからオンラインで回答。回答期間中に督促を一回実施

(5) 調査時期：2024年12月10日～12月31日

## 3. 分析担当者

山口慎太郎（東京大学 大学院経済学研究科 教授）

茂木良平（ボンペウ・ファブラ大学 政治社会科学学部 研究員、南デンマーク大学 人口学センター 助教）

## 調査結果の概要

結婚に対するイメージは、結婚経験の有無によって異なる傾向が見られた。結婚未経験者の方が、「親や周囲を安心させる」「義務や責任、世間体」といった社会的規範に関する意識や、「負担や苦労」といった側面を挙げる割合が高かった。

こどもや子育てに対するイメージについては、全体の7割以上がポジティブな印象を持っており、大きな男女差は見られなかった。理想のこども数は「2人」が最も多く、次いで「3人」と答えた人が多かった。特に女性では、「2人」と「3人」の割合がほぼ同じだった。一方で、「理想のこども数は0人」と回答した割合は、男性6%、女性3%にとどまり、

未婚者や無子の既婚者の中でも、意図的にこどもを持たないと考える人は少数派であることが示唆された。

また、約3割の人が「3年以内にこどもを持つこと」に対して前向きな意向を持ち、そのうち15%強は「3年以内にこどもを持ちたい」と具体的に考えていた。

以上の結果から、県民が自身の理想とするこども数を実現できれば、出生率の向上が期待できることが示唆される。

福井県在住者が理想のこども数を実現する際に直面する課題として、本調査から以下の3点が浮かび上がった。

### (1) 現状の施策の認知度向上

福井県の子育て支援や環境に対する県民の満足度は、非常に高いことが明らかになった。約半数の人が県の子育て支援に満足しており、7割の人が「福井県は子育てしやすい」と感じている。特に、支援の充実度や施設の整備を評価する声が多く、満足している人の6割強が「子育て支援や施設が充実している」と考えていた。また、15%強の人が「他地域と比べて優れている」と評価し、同じく15%前後の人が「子育て支援に関わる職員の対応が良い」と感じている。

しかし、一方で満足していない人も一定数存在する。その理由として、3割強の人が「子育て支援の充実度が不十分」と感じていることが挙げられる。また、満足度には「ふく育」県という言葉の認知度が影響を与えている可能性がある。調査によると、「ふく育」県という言葉の認知度（少なくとも聞いたことがある）は7割を超えるものの、その意味を理解している人は2割前後にとどまる。特に、こどもがいない層では認知度がさらに低下する傾向にある。このように、子育て支援に対する満足度の低さには、施策の認知不足が関係していると考えられる。

実際、満足度が低い人の2割前後が「情報不足のために制度を十分に活用できていない」と感じており、支援制度が整っていたとしても、それが十分に伝わっていない可能性がある。福井県実施する14の独自の少子化対策施策のうち、認知度が半数を超えているものは男性で4つ、女性で5つのみだった。この傾向はこどもがいる回答者に限定しても同様にみられた。昨年度の調査と比べると、女性において不妊治療の助成制度の認知度に改善が見られた。

「情報不足のために制度を十分に活用できていない」例として「こども医療費無料化」に関する施策を見てみる。認知に限らず、利用したことがないケースは男性の35%、女性の28%、こどもがいる人のみに限定しても男性で31%、女性で26%もいた。こどもがいて、「制度の内容は知っているが、利用したことはない」回答者のうち、男性の5割、女性の7割の人が「制度の対象ではないから」と回答している。制度対象になっているのは、福井県のほとんどの市区町村で18歳以下のこどもとなっており、「制度の対象ではないから」と回答している人のうち末子が19歳以上の人は10%だった。「制度の内容は知っているが、

利用したことはない」と回答しているのは 96 ケースと少ないため、解釈には注意が必要だが、「制度を知っている」と思っている人も、正しい情報でない可能性がある。

つまり、福井県の子育て支援の充実度をより多くの人に実感してもらうためには、普段から施策の点検・改善を行いつつも、現在実施している施策の認知度を高め、利用者を増やすことが重要であるといえる。

こどもがいる人についてみると、福井県が実施する子育て支援サービスを知る際の主な情報源としては、「家族・親族」と「友人・知人」が最も多く、次いで「自治体が発行するリーフレットや自治体窓口」、その後に「新聞・テレビ」が続くことが明らかになった。

年収や居住形態別で分析しても、同様の傾向が見られた。市役所・町役場の窓口も重要な情報源となっており、直接的な対面での情報提供が果たす役割の大きさが示唆される。年齢による顕著な差は見られなかった。

以上の結果を踏まえると、自治体の子育て支援に関する情報を発信する際には、対面での相談機会や紙媒体の活用が重要であると考えられる。具体的には、人が集まる公共施設や商業施設に、独自施策の情報や福井県全体の子育て支援情報をわかりやすくまとめた冊子を設置することが効果的であると考えられる。また企業の人事部や保育士に施策を周知してもらうことも有効と考えられる。短期的なスパンでの施策の認知度向上には、こうした既存の媒体をより積極的に用いることがより有効であろう。一方で、今後の技術革新や情報入手ルートのトレンドを注視し、デジタル媒体の活用を視野に入れることを怠ってはならないだろう。

さらに、自治体のホームページや SNS が十分に活用されていない現状を踏まえると、これらのツールの認知度を高める対策も中期的には実施してもよいかもしれない。その際には例えば、リーフレットや窓口対応の際にオンライン情報の存在を周知することや、SNS 上で親しみやすいコンテンツ（動画や実際の支援事例の紹介）を発信することで、徐々に活用を促進していくことが考えられる。まずは、自治体のホームページに記載されている子育て支援に関する情報を整理し、利用者にとって見やすくわかりやすくすることが求められるだろう。

また、福井県は多世代家族が全国平均と比べて高いことで知られ、本調査でもこどもがいる回答者のうち約 45% が 3 世代同居・近居（30 分以内に在住）である。子育て支援サービスを知る際の主な情報源として「家族・親族」が最多だったことを考えると、子育て世代だけでなく、祖父母世代への情報提供も福井県の独自施策を流布する上で、重要な手段である。

## **(2) 家庭内ジェンダーギャップの是正**

多くの家庭で、理想とする家事・育児分担は「夫婦で 5 : 5」であることが明らかになった。特に、夫婦ともに正社員として働く家庭ではその傾向が顕著であり、約 6 割が「5 : 5」を理想と考えている。一方で、夫婦ともに正社員ではない家庭では、この割合が 4 割程度に減少する。

しかし、実際の分担状況を見ると、「5:5」を実現できていると回答したのは、男性で2割、女性で1割と低い水準にとどまる。さらに、家事・育児の負担については、男性の7割、女性の8割以上が「妻の方が多い」と認識しており、男女間で家事・育児分担に差があることが示唆される。

以上の傾向は、昨年度の調査と同様だが、家事・育児分担は「夫婦で5:5」とする男性が50%だったのに対し、本年度の調査では57%であることから、男性のジェンダー観に改善が見られることを示唆している。また、実際の家事・育児分担においても、男女ともに前年度に比べて若干の増加が見られる。

こうしたギャップがあるものの、現在の分担状況に対する満足度は比較的高く、男性では82%、女性では57%が満足していると回答している。しかし、女性の満足度が男性よりも大幅に低いことから、過度な負担が女性に偏っている可能性がうかがえる。

では、なぜ理想と現実には大きな差が生じるのか。その最大の要因として挙げられたのが「家事・育児をしやすい労働環境の整備が不十分である」という点である。労働日数に目を向けると、こどもがいる男性の23%、女性の10%が週6~7日勤務している。また、法定労働時間である8時間を超えて働く人の割合は、男性で44%、女性で11%にのぼる。このような長時間労働や週末出勤の影響が、家庭内の分担の理想実現を妨げる大きな要因となっている。

また、家事・育児の分担方法について最も多かったのは、「自然と決まった」というパターンであり、約半数がこの方法で分担している。しかし、この方法を選んだ人の満足度は、他の方法に比べると低い傾向にある。例えば、「お互いができるときにできることをする」と回答した人のうち、分担に満足している割合は8割前後であったのに対し、「自然と決まった」と回答した人の満足度は男性で8割強、女性では58%にとどまった。これは、「お互いができるときにできることをする」人は、夫婦ともに家事・育児に対してオーナーシップを持っているため、そのことが満足度につながっているかもしれない。

家事・育児分担の理想と現実のギャップを埋めることが、家庭内の子育て環境向上につながると考える人は9割近くに達している。しかし、現状では多くの家庭で理想の分担が実現できていない。まずは「その都度できることをする」という意識を持ち、柔軟な分担を心がけることが、男女間の家事・育児負担の不均衡を是正する第一歩となるだろう。このような小さな積み重ねが、最終的には理想の家事・育児分担の実現につながると期待される。

### (3) 労働環境の改善

(2) で見た、家庭内ジェンダーギャップを生み出している最大の要因として挙げられたのが「家事・育児をしやすい労働環境の整備が不十分である」という点である。

しかし、職場において子育てへの理解が十分にあると考えている人の割合は、男女ともに約8割と高かった。理解があると回答した人のうち、「こどもの世話等を理由に、仕事を休

んだり早退・遅刻したりしても快く対応してくれる雰囲気があるから」と答えた人は6割前後で最も多かった。

一方で、「育児休業などの制度が整っているから」と回答した人は男性で16%にとどまる。また、平均して週6～7日働いている人の割合は、こどもがいる男性で23%、女性で10%であった。さらに、法定労働時間である8時間を超えて、平均9時間以上働いている人の割合は、こどもがいる男性で44%、女性で11%にのぼった。

以上から、育休や時短勤務などの制度の充実、労働時間や労働日数の削減といった日常的な育児支援よりも、こどもの病気など突発的な事態に対する、会社の柔軟な対応や子育てへの理解を念頭に置いて回答していることが示唆される。

しかし、これは、制度の充実や勤務時間の改善を希望していないことを意味しない。例えば、育児休業の必要性を感じない男性が約2割おり、育児休業などの制度が十分に整備されていないことに気づいていない可能性もある。

第1子出生時に育児休業を取得した女性の割合は78%であったのに対し、男性は25%にとどまった。男性育休が促進されてきた近年（過去4年以内）に出産した人に限定しても、男性の育休取得率は42%であり、女性の87%と比較すると半分以下にとどまっている。

育休を取得した男性の中でも、取得日数が2週間未満であるケースが最も多く、十分な日数を取得できているとは言い難い。しかし、前年度の同調査では第1子出生時の男性の育休取得率が8%であったことを踏まえると、この数年で大幅な増加が見られる。こうした傾向は、就業形態や世帯年収の違いによっても大きな変化は見られなかった。

今後こどもを持った場合に、1ヶ月以上の育休を取得したいと考えている人の割合は、男性で76%、女性で95%にのぼる。上述した男性の育休取得率の低さは、意図して育休をしないことによるものではなく、取得したいができない人が多いことが示唆される。1ヶ月以上の育休を希望しない理由として、男性では「収入が減少する」「職場に迷惑をかけたくない」「育休の必要性を感じない」といった回答が多かった。

休取得中は給与の代わりに育児休業給付金が支給される。この給付金の額は育休取得が180日までは休業開始時の賃金の67%、180日後は50%となる（令和7年4月より最初の1ヶ月は80%になる）。

なお、給付金は非課税であり、社会保険料は被保険者本人負担分及び事業主負担分ともに免除されるため、最初の半年は手取りの8割ほどを受け取れる計算になる。そのため、収入の減少を理由に挙げた人については、育休制度の内容や給付金に関する理解が十分でない可能性が考えられる。

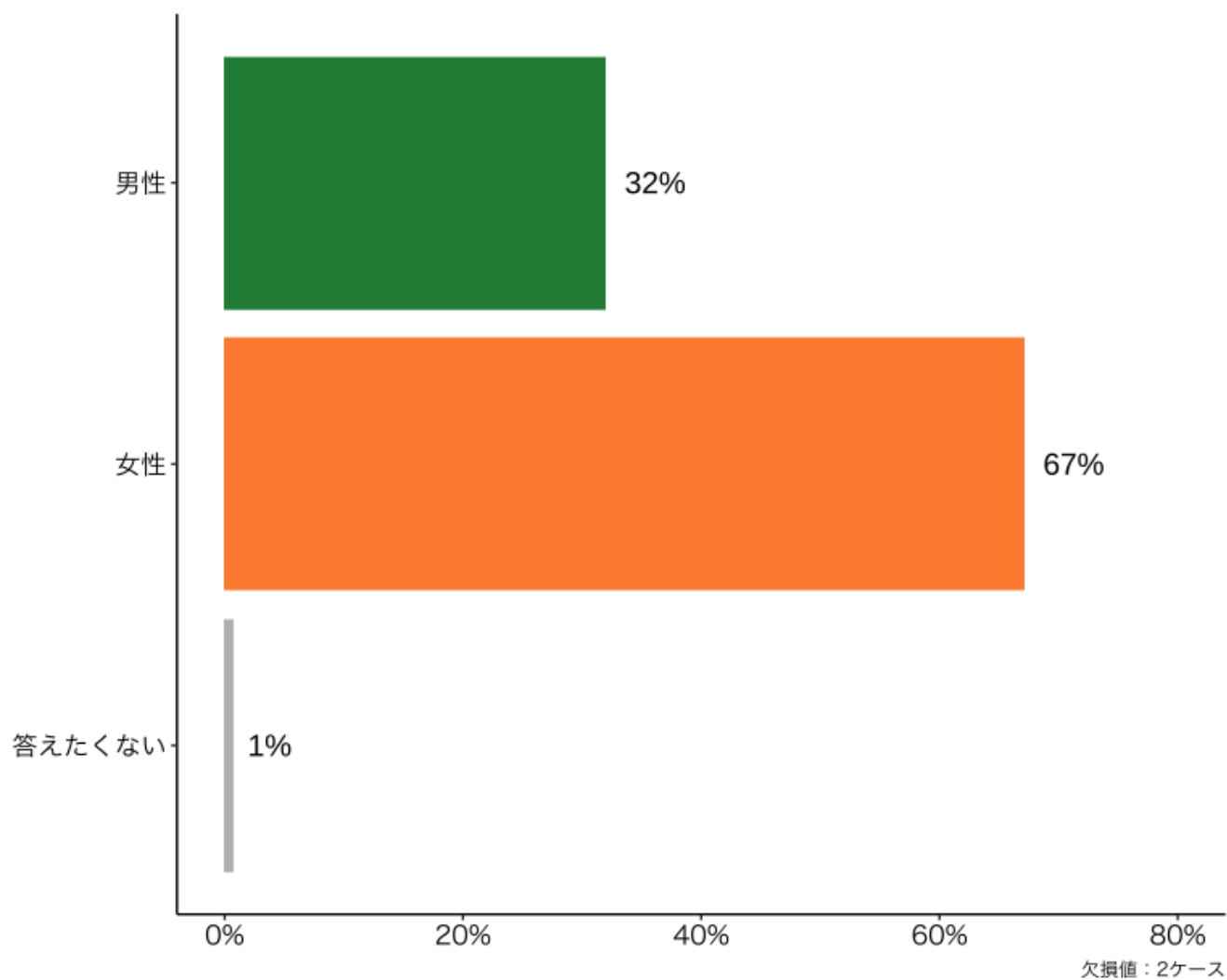
また職場を理由に挙げた人は、育休の許可や申請手続きのハードルの高さ、業務の引き継ぎの難しさを課題として指摘している。「必要性を感じない」と回答した人については、出

産後の女性の身体的・精神的な負担や育児の大変さに関する認識が十分に浸透していない可能性があり、こうした点についての情報発信や啓発が必要である。

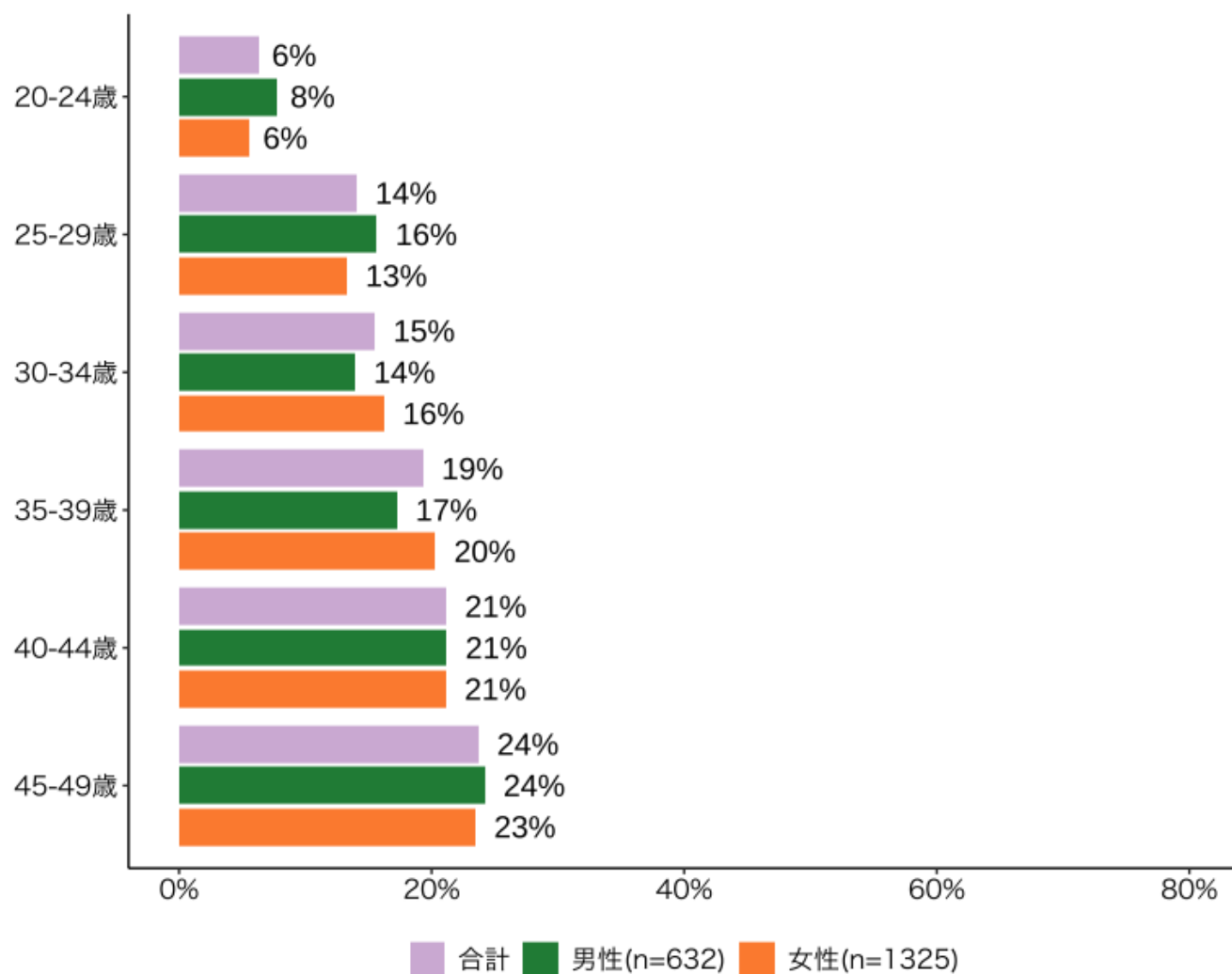
## 調査結果

### 1. 回答者の属性に関すること

問1 性別【全員回答、必須】

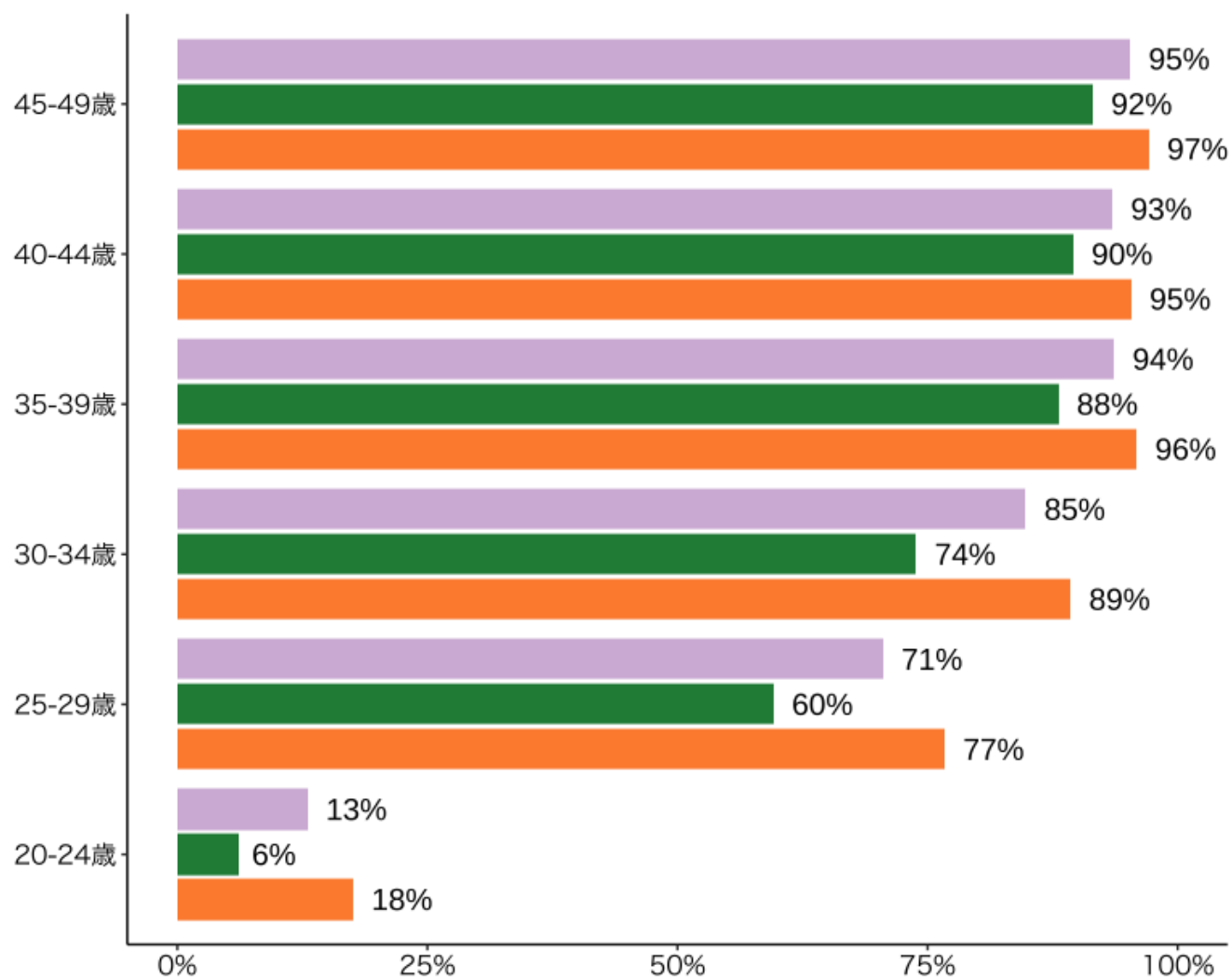


問2 年齢【全員回答、必須】

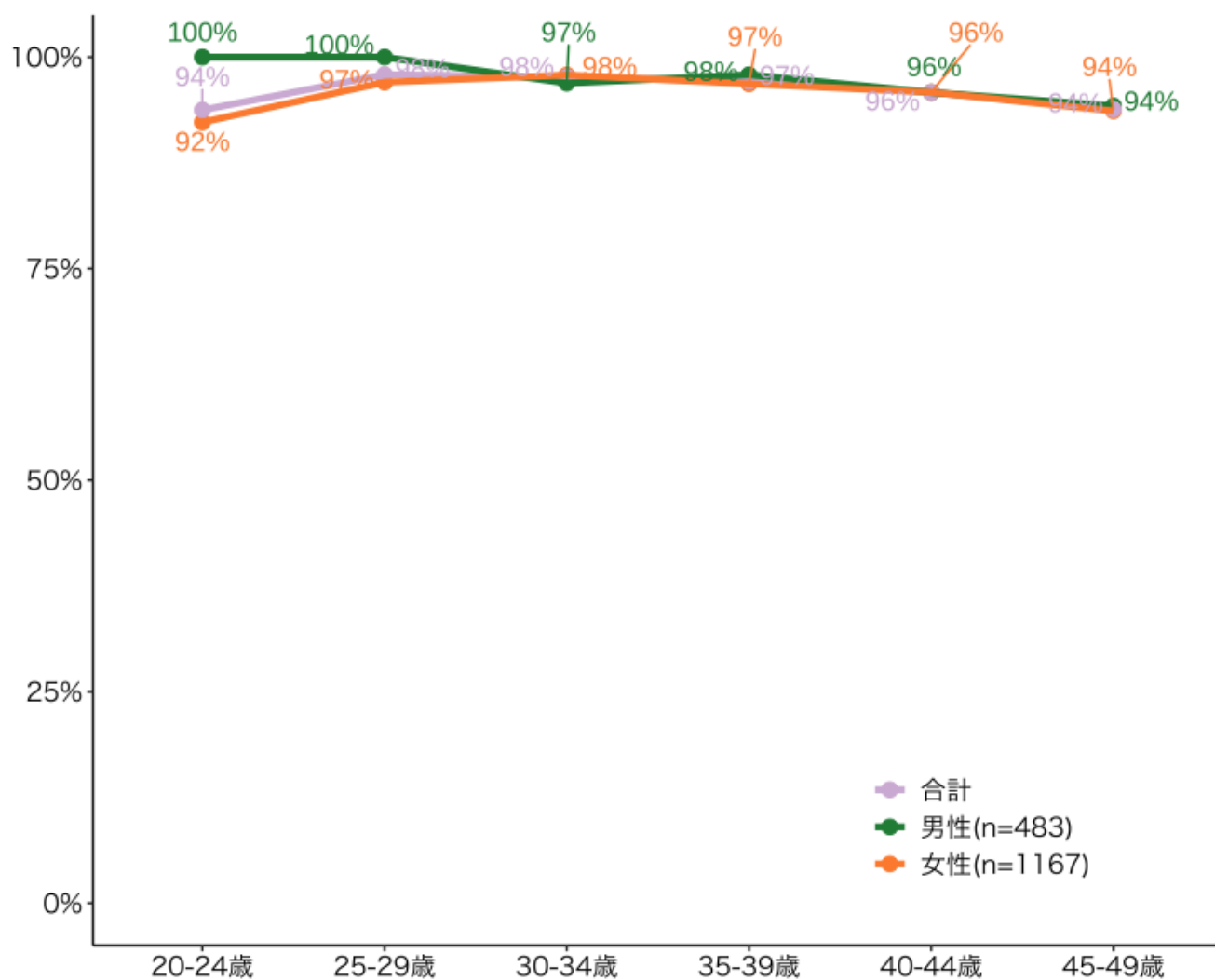




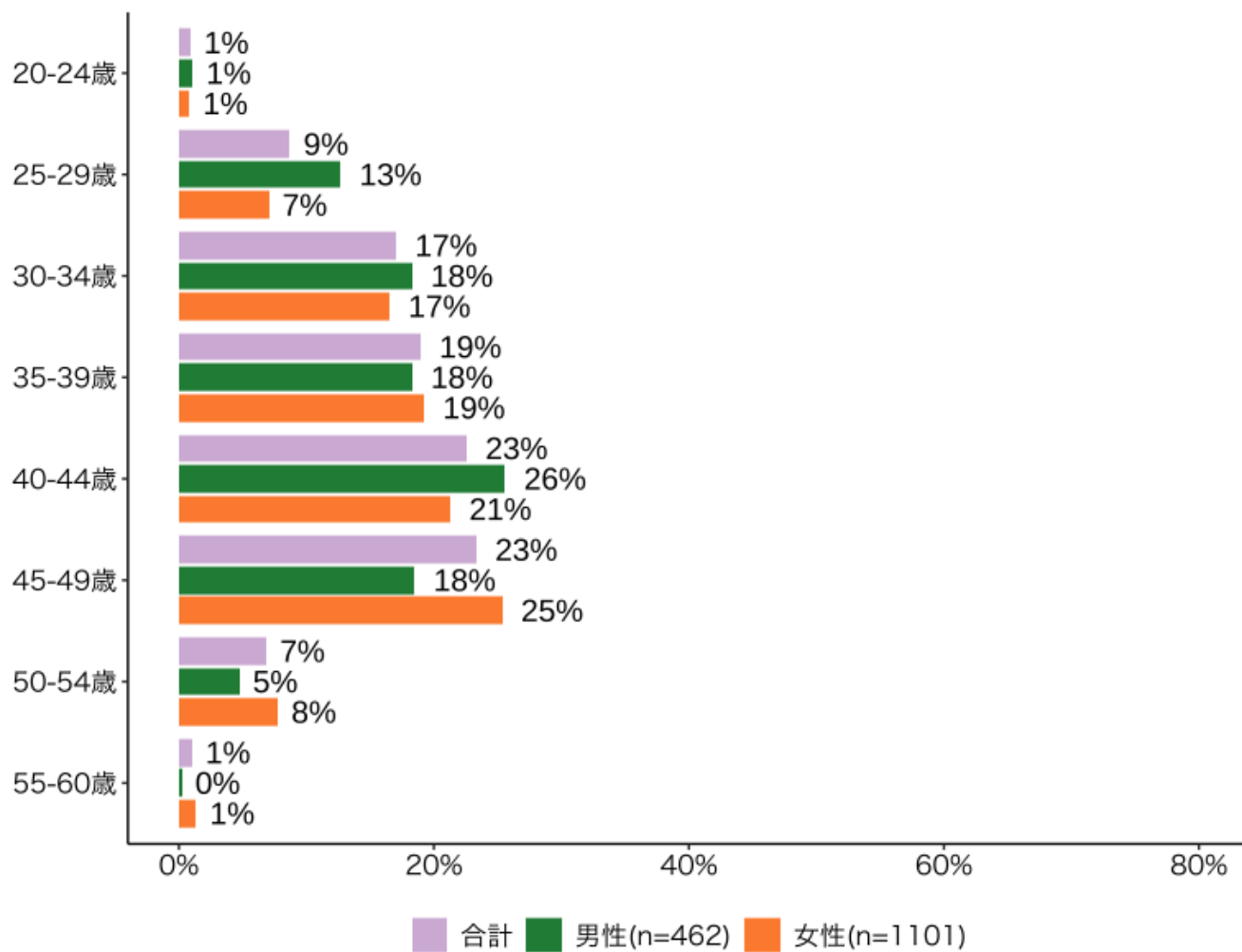
問4 結婚の有無【全員回答、必須】



問5 現在、配偶者がいますか【問4で「①結婚している or 結婚したことがある」と回答した方のみ】

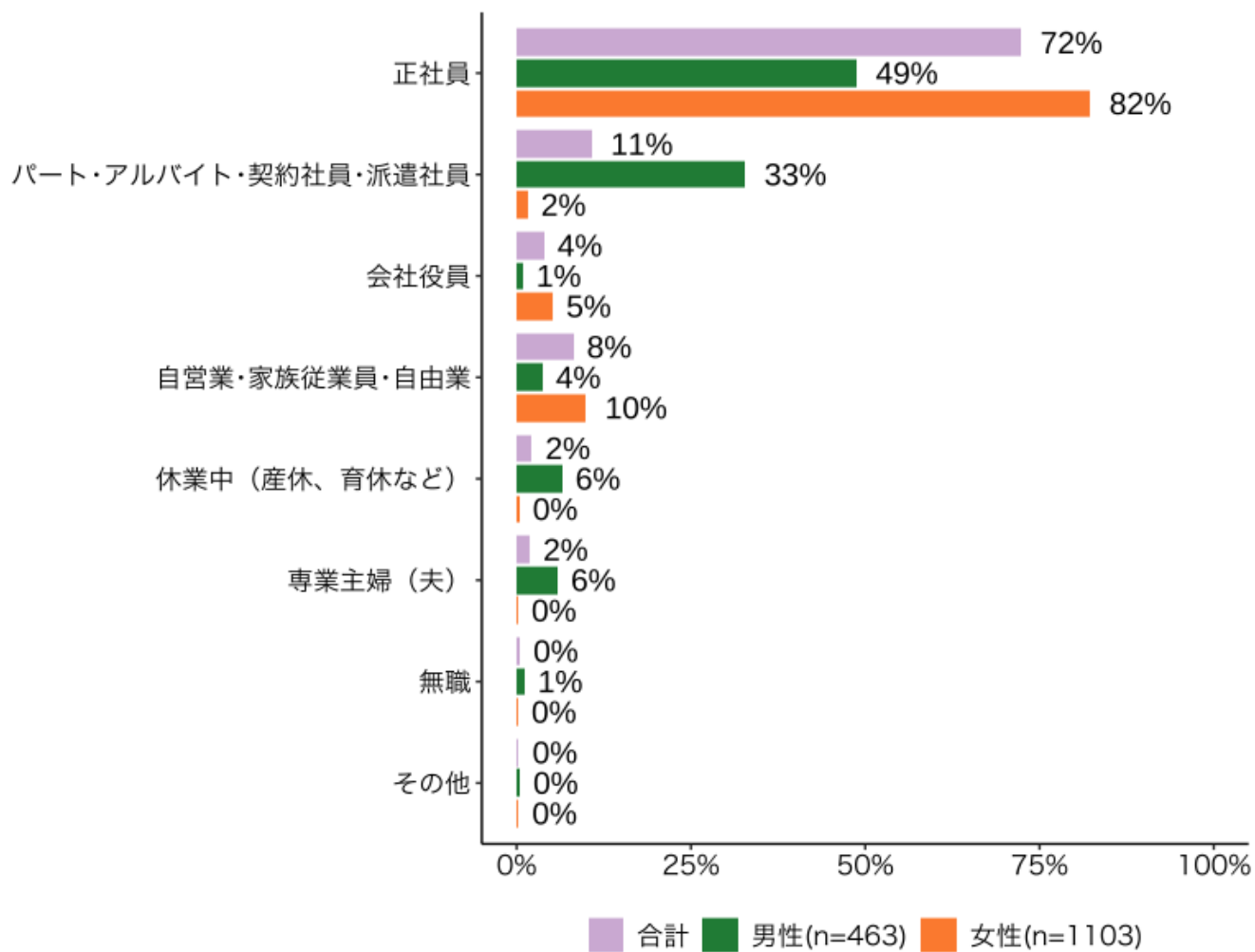


問6 配偶者の年齢【問5で①と回答した方のみ】



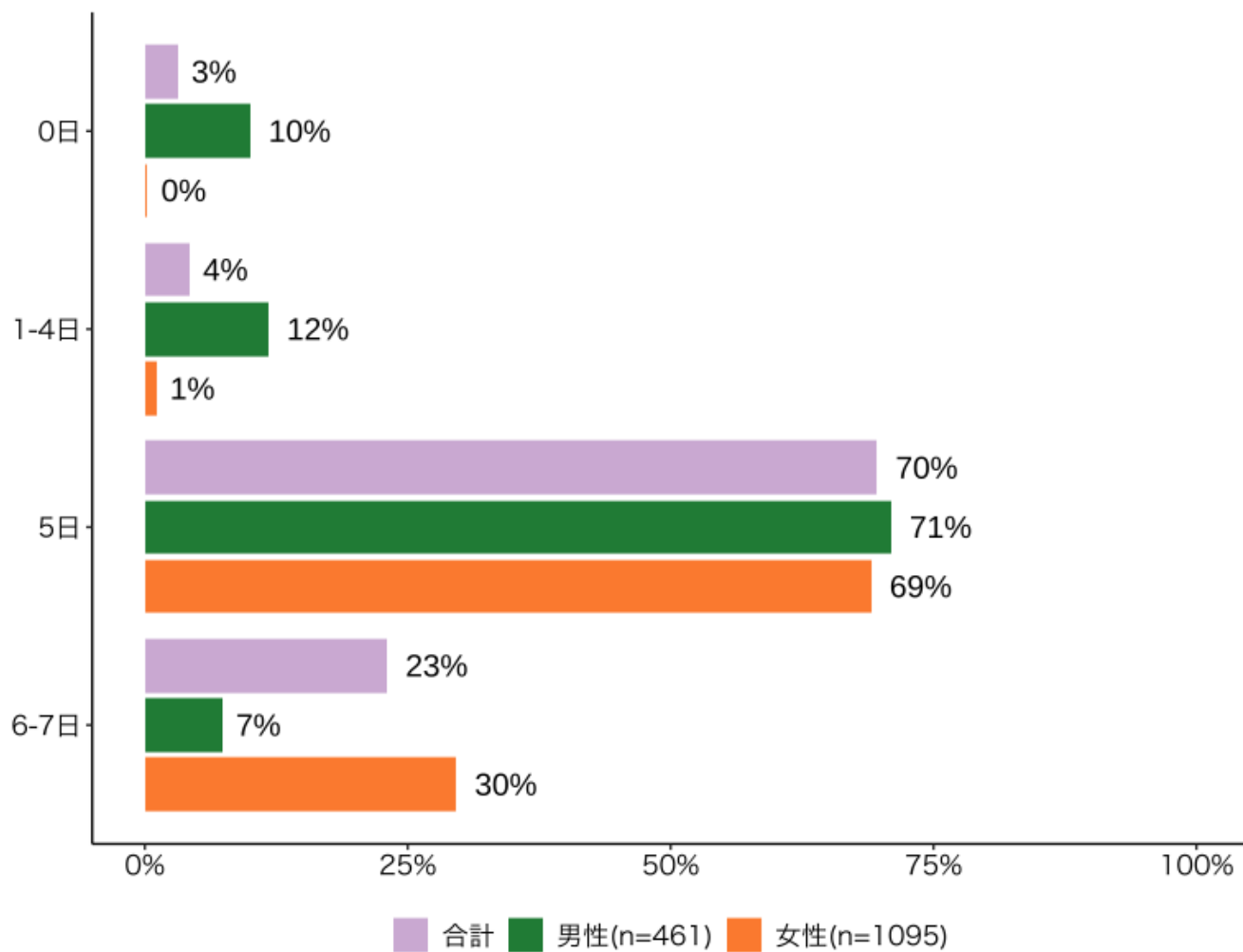
欠損値：男性に3ケース; 女性に7ケース

問7 配偶者の就労形態【問5で①と回答した方のみ】



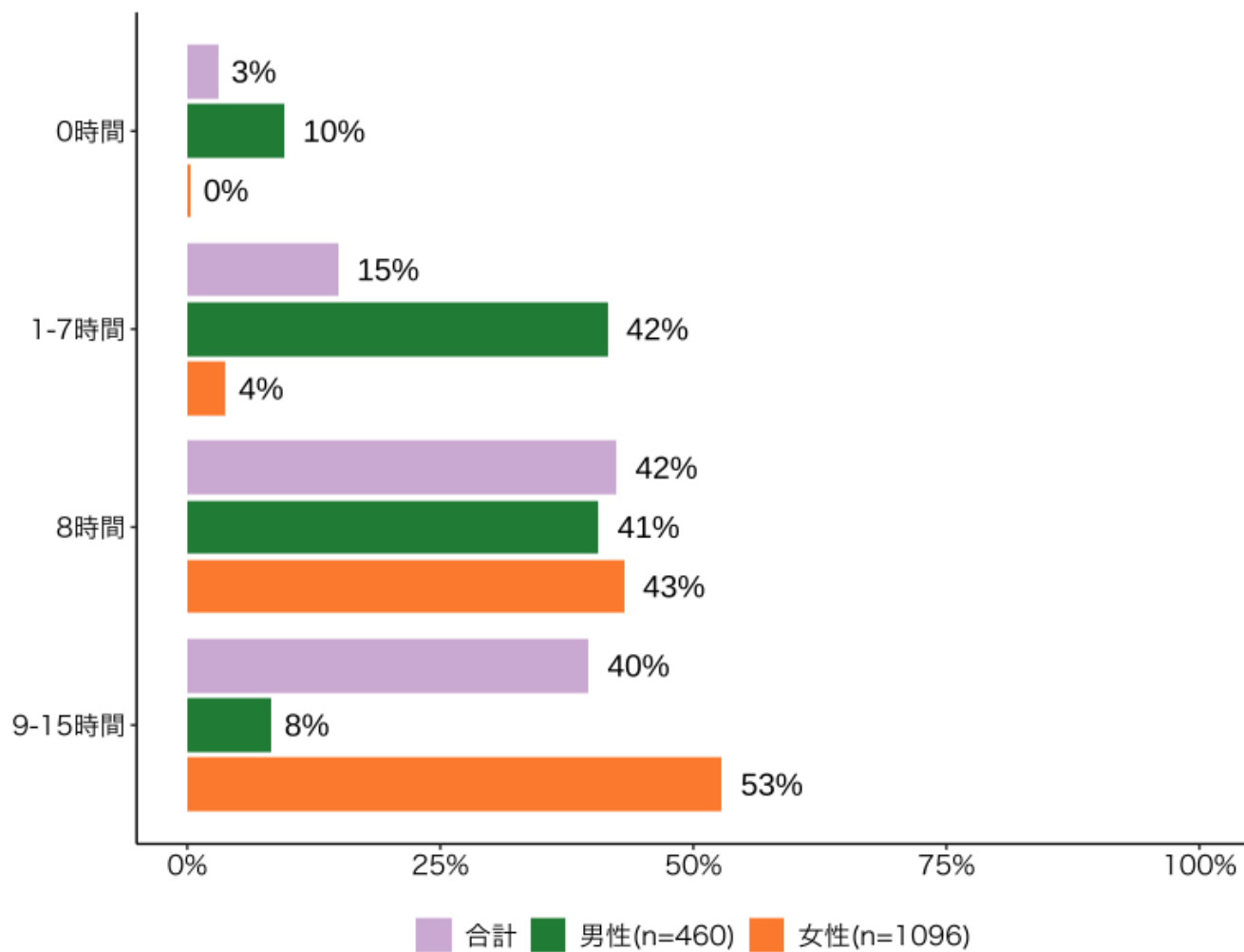
欠損値：男性に2ケース; 女性に5ケース

問 8 配偶者の1週間の平均的な労働日数【問5で①と回答した方のみ】



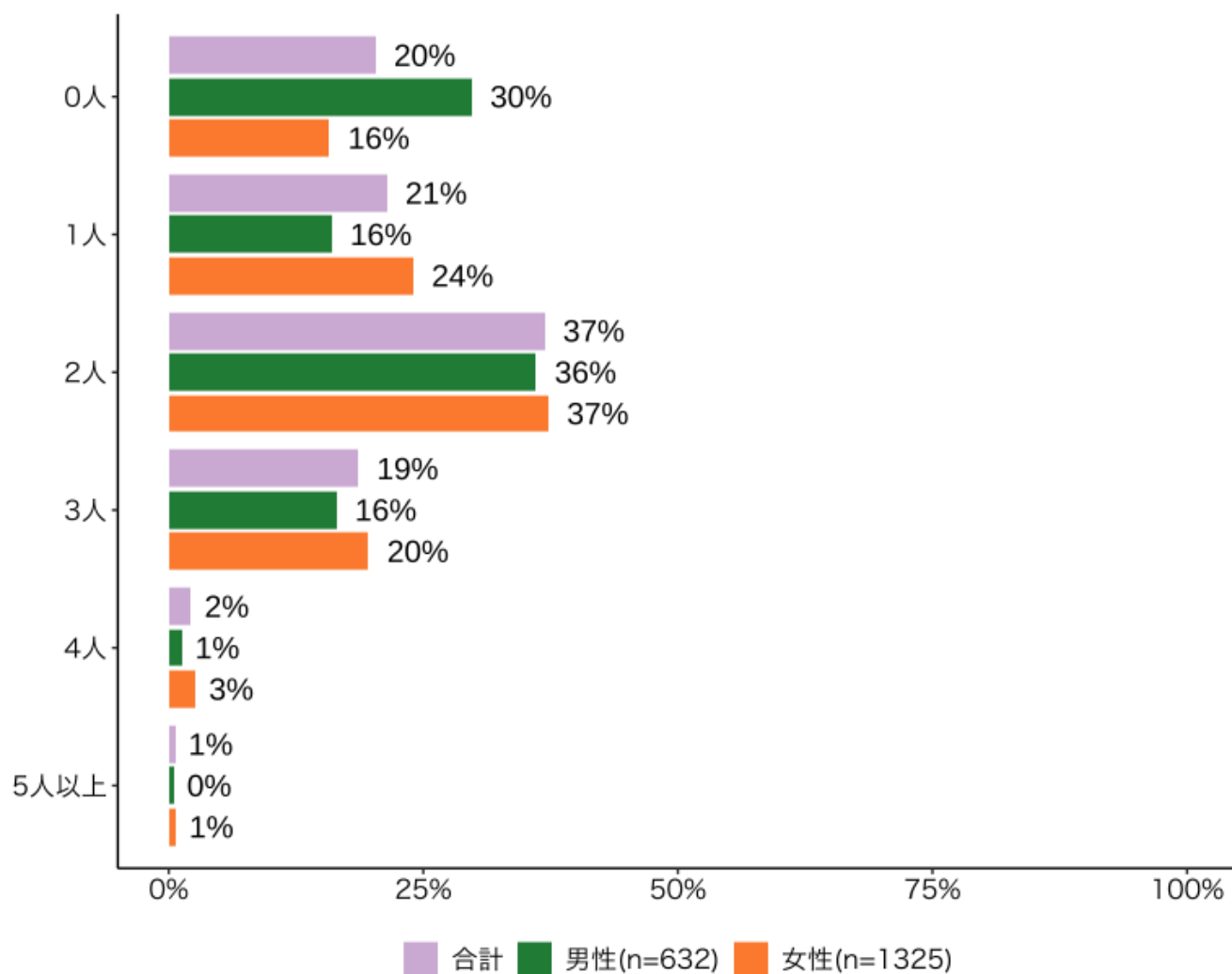
欠損値：男性に4ケース; 女性に13ケース

問9 配偶者の1日の平均的な労働時間【問5で①と回答した方のみ】

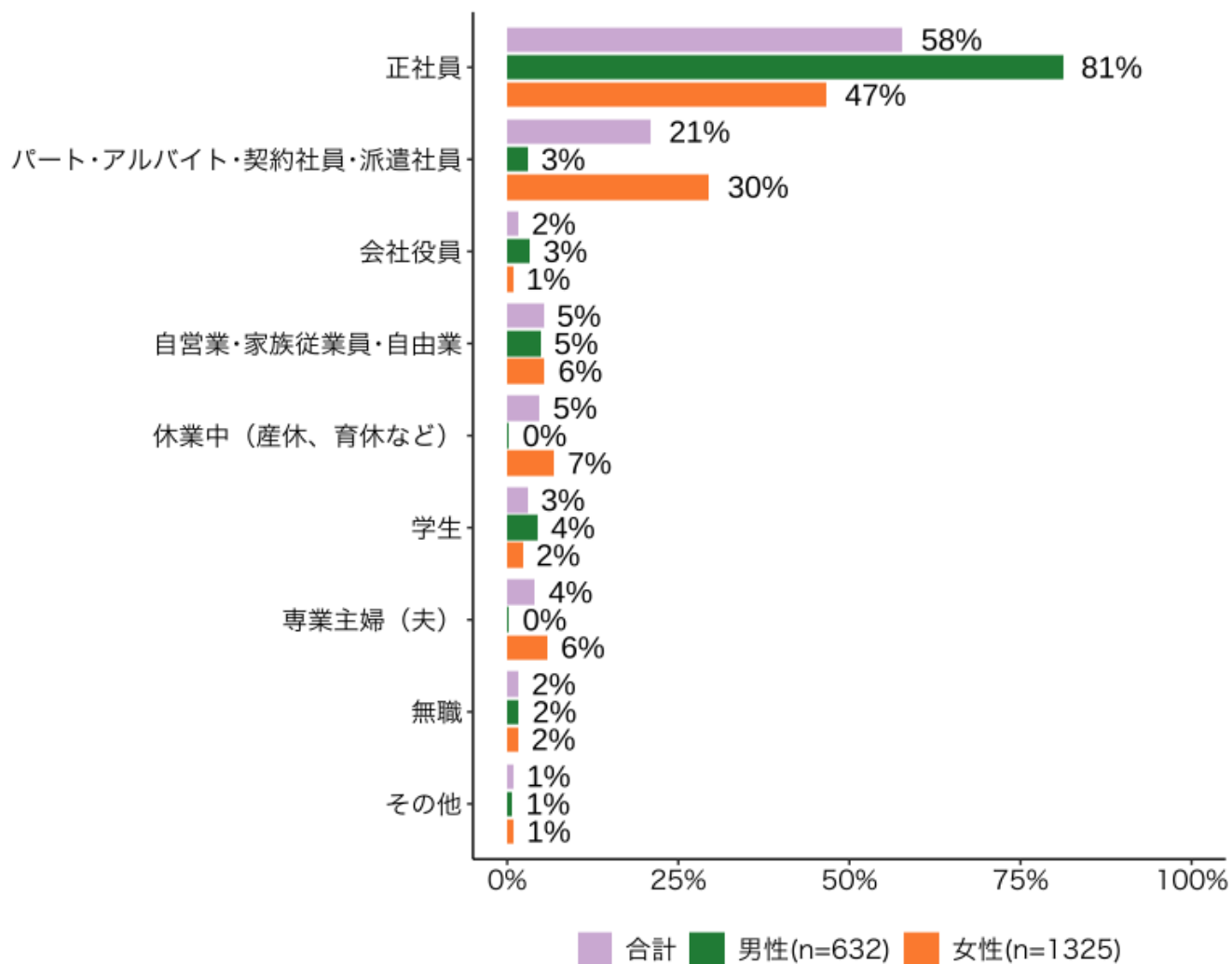


欠損値：男性に5ケース; 女性に12ケース

問 10 現在のこどもの数【全員回答、必須】

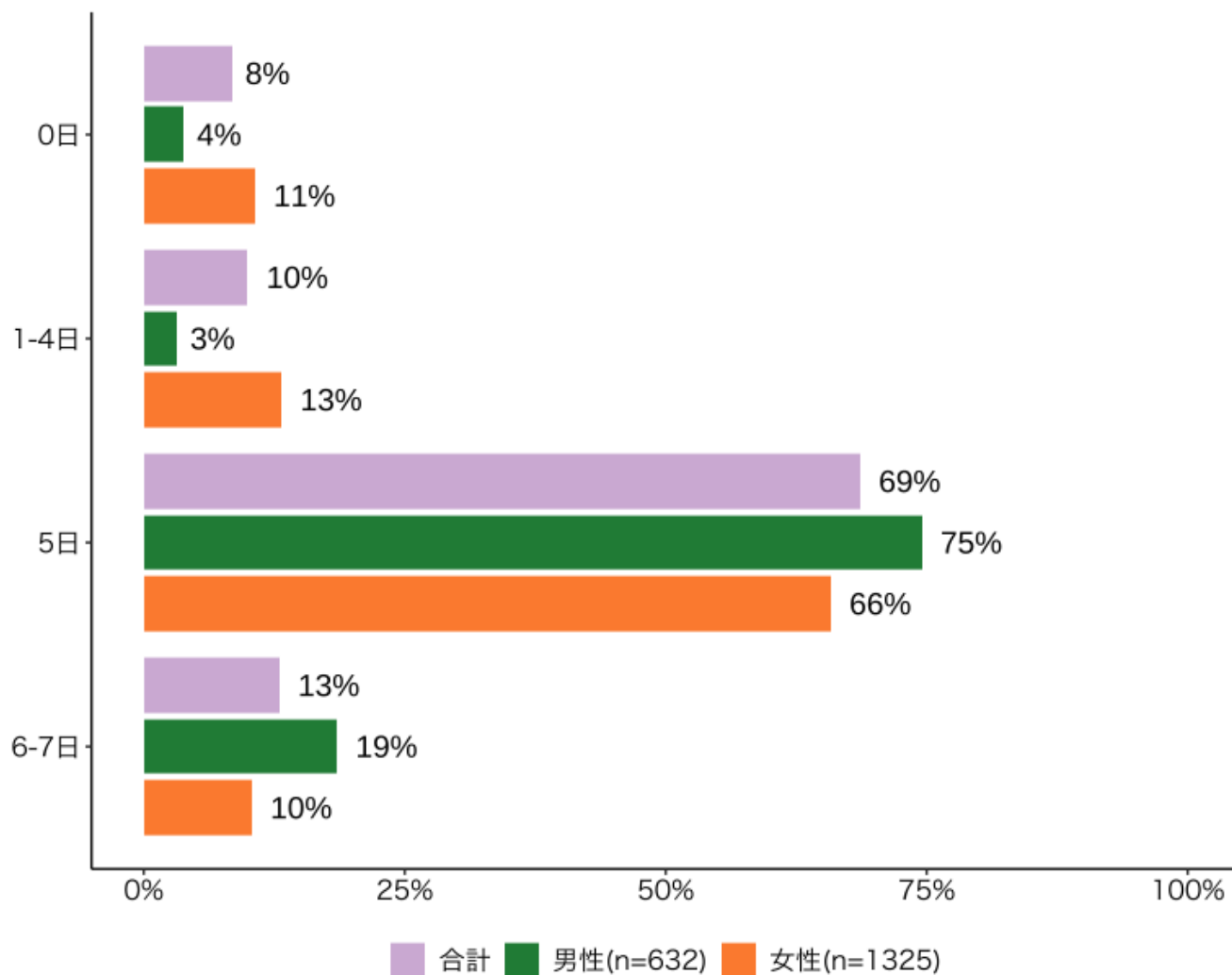


問 11 （回答者ご本人の）就労形態【全員回答、必須】

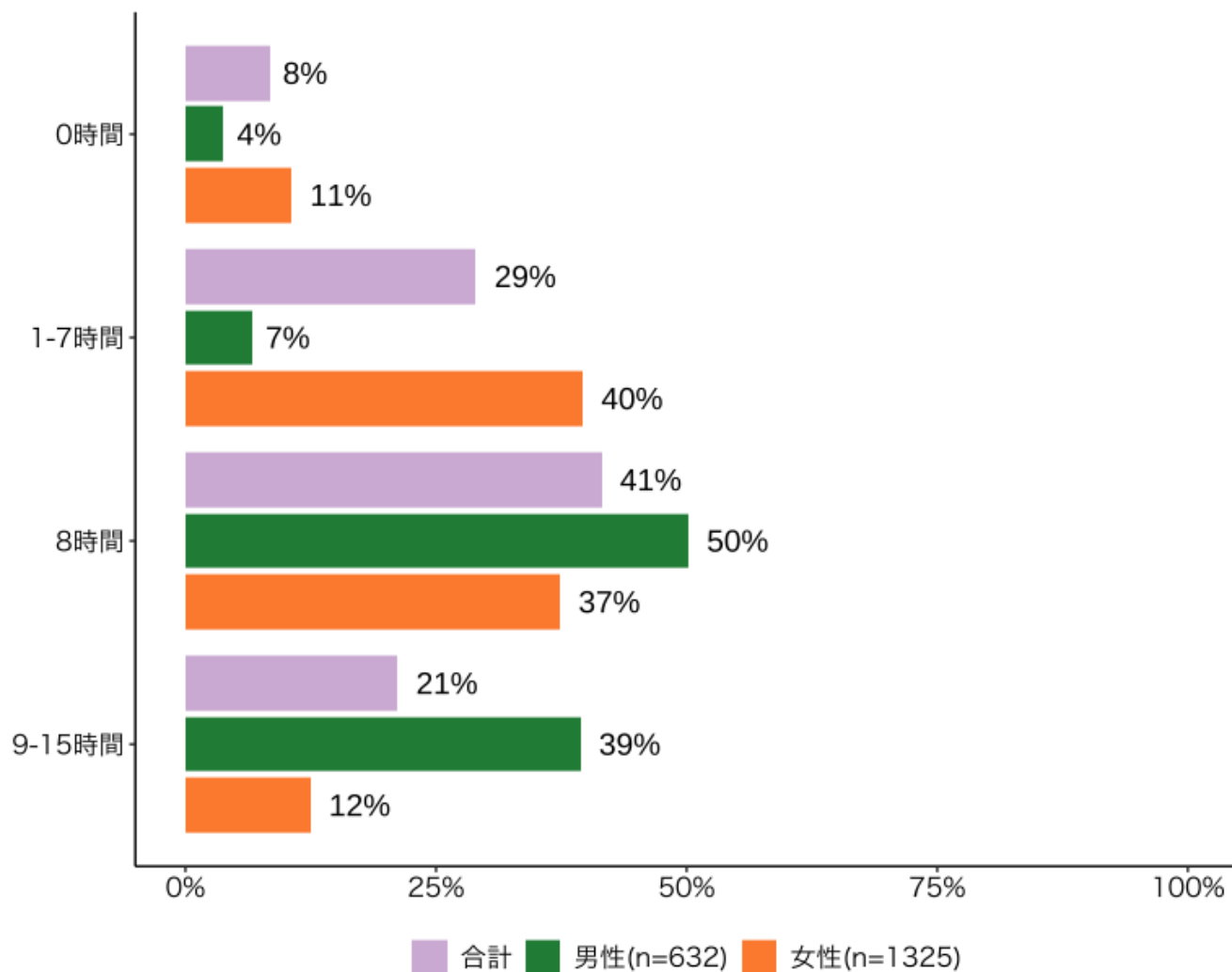




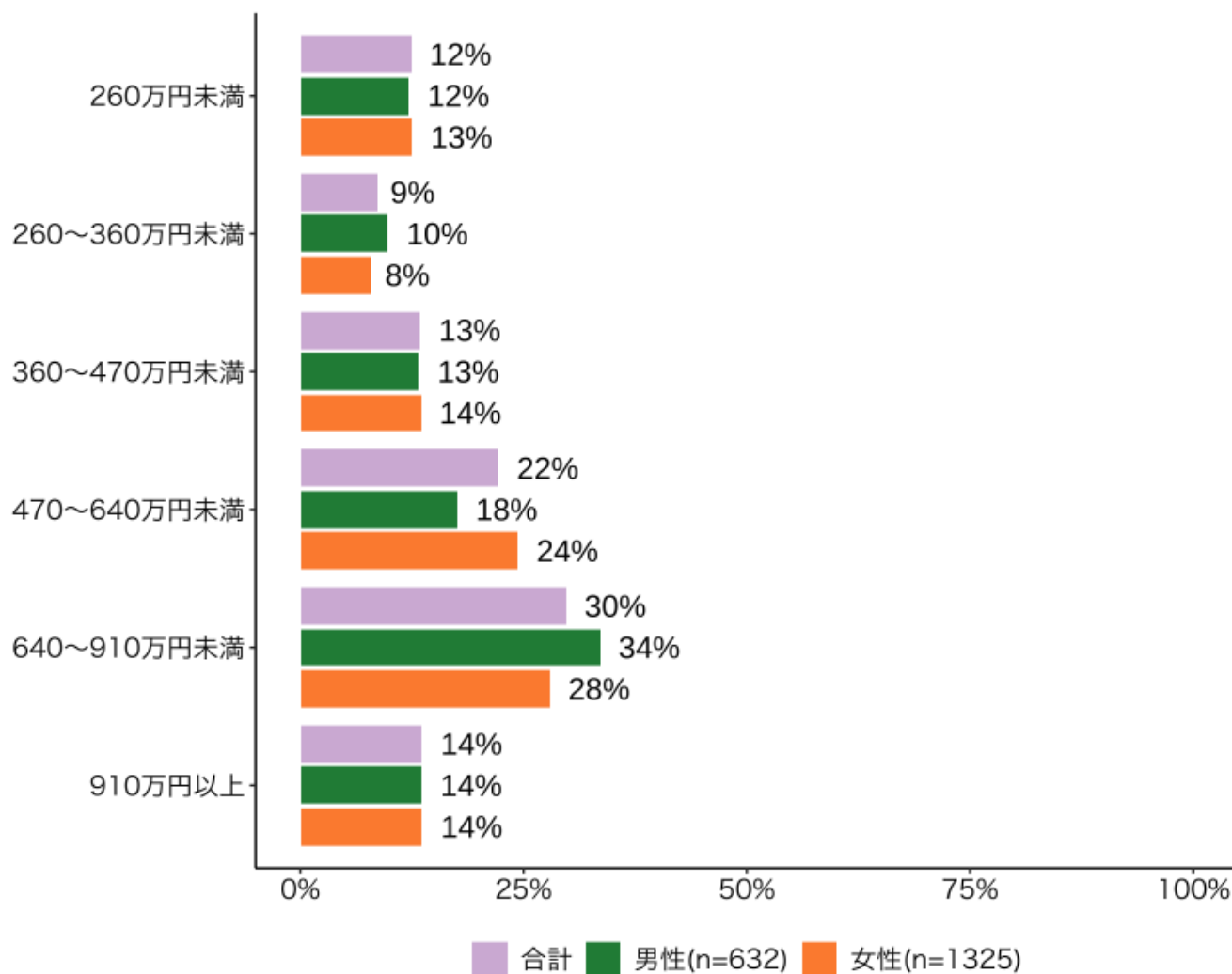
問 12 1 週間の平均的な労働日数【全員回答、必須】



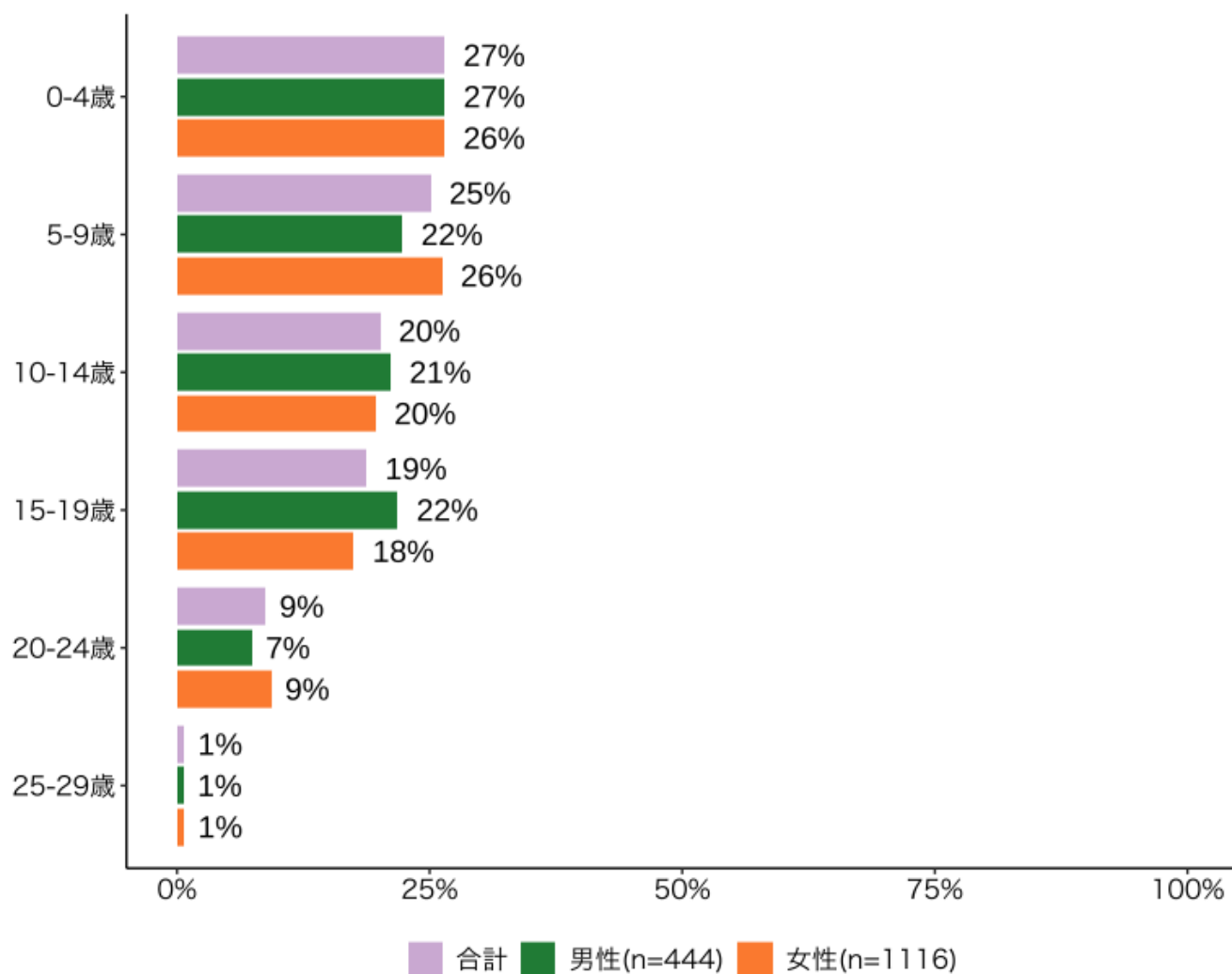
問 13 1日の平均的な労働時間【全員回答、必須】



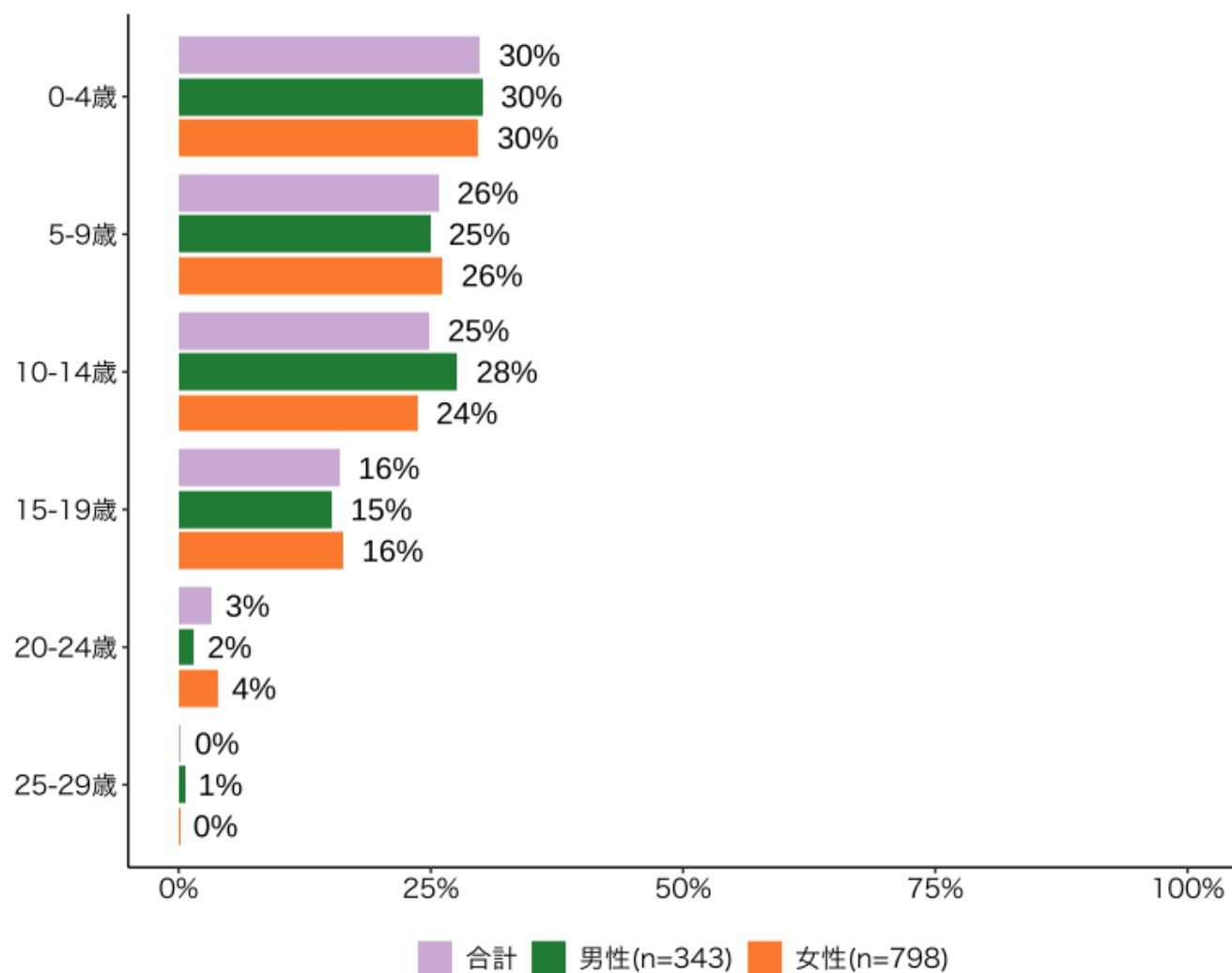
問 14 ご自身と配偶者を合わせた昨年 1 年間の年収、配偶者がいない場合はご自身だけの年収【全員回答、必須】



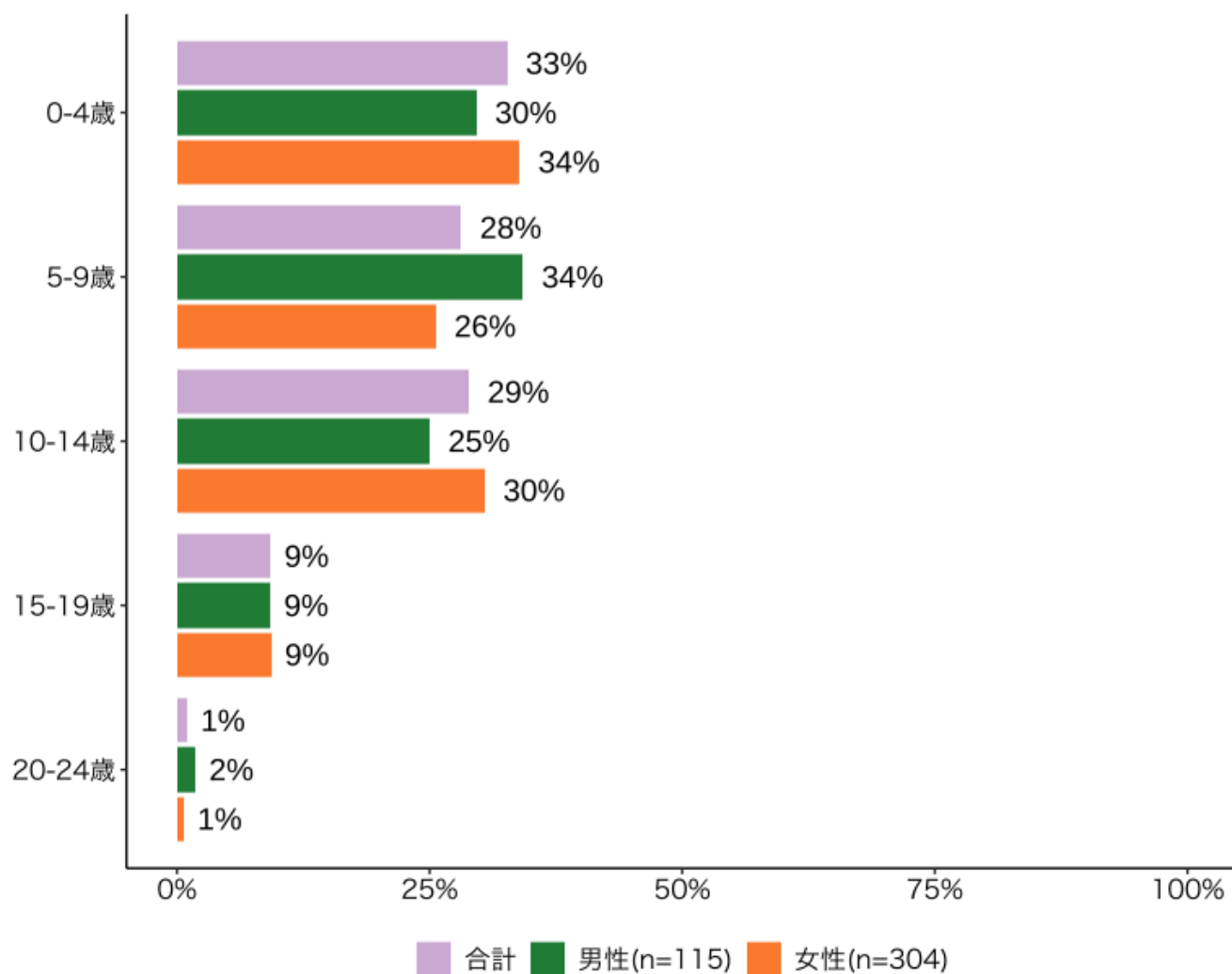
問 15 第 1 子の年齢【問 10 で①～⑤と回答した方のみ】



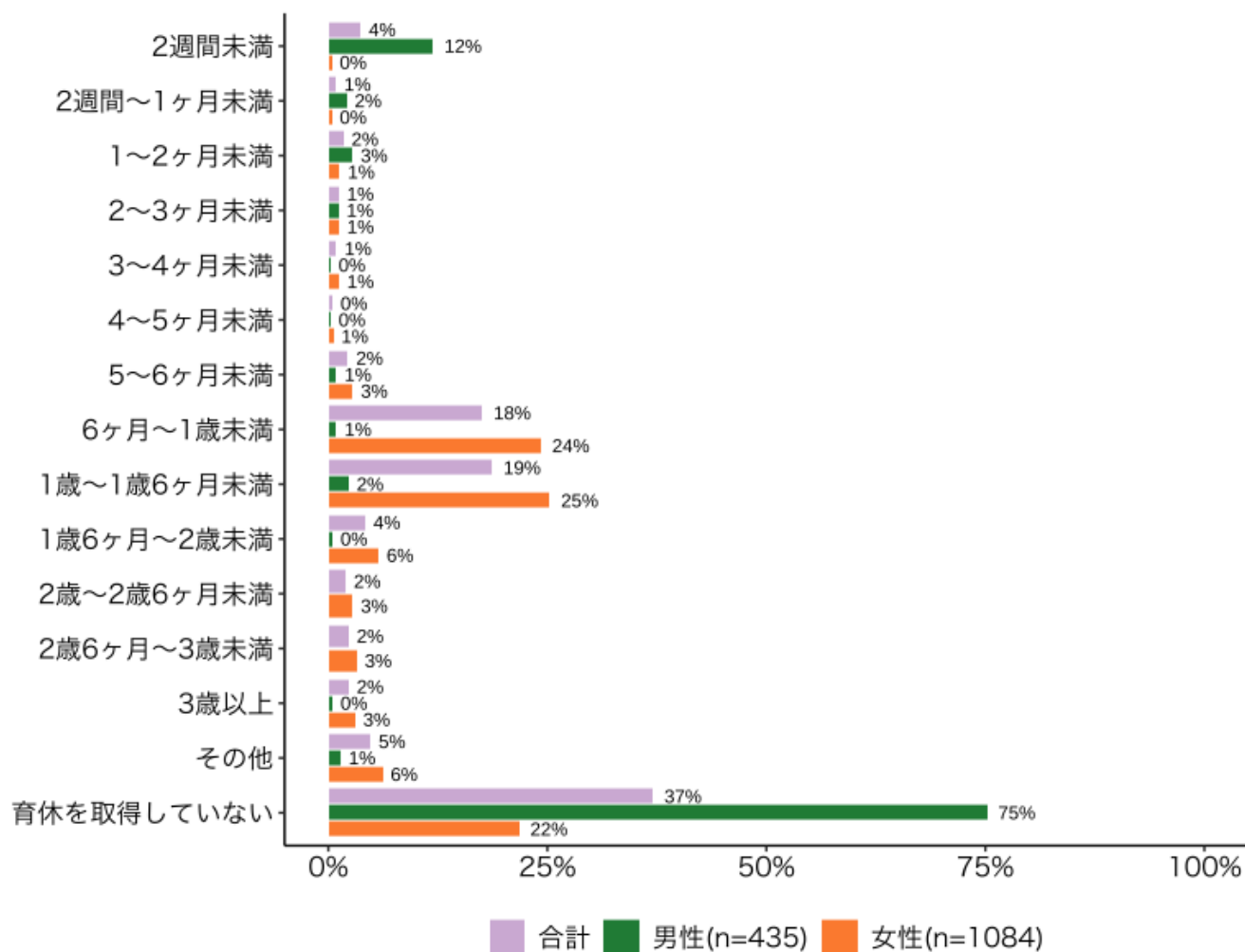
第2子の年齢【問10で②～⑤と回答した方のみ】



第3子の年齢【問10で③～⑤と回答した方のみ】



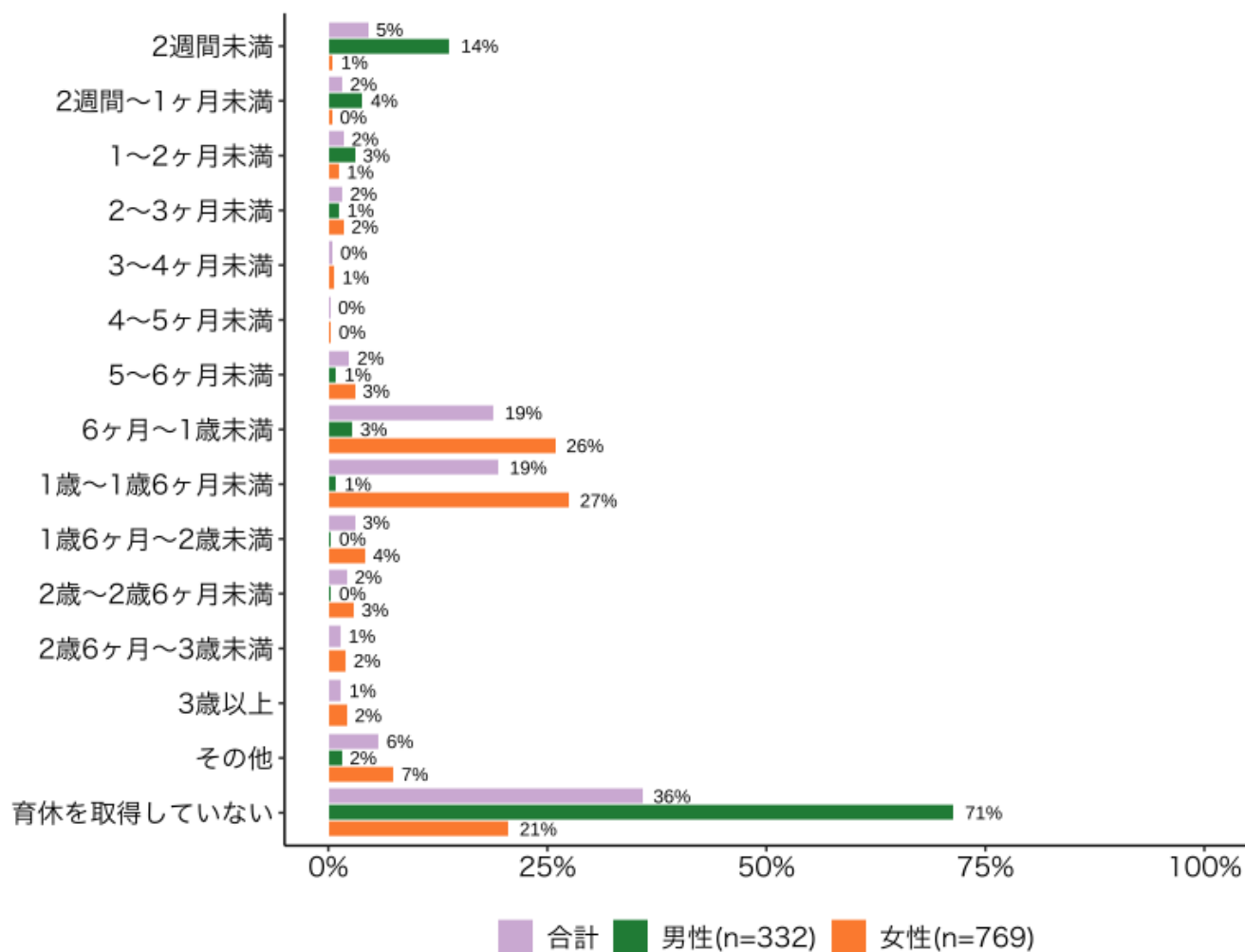
問 16 あなたは、第1子のお子さんが何歳まで育児休業を取得しましたか。（予定含む）  
 【問 10 で①～⑤と回答した方のみ】



欠損値：男性に9ケース; 女性に32ケース

あなたは、第2子のお子さんが何歳まで育児休業を取得しましたか。（予定含む）

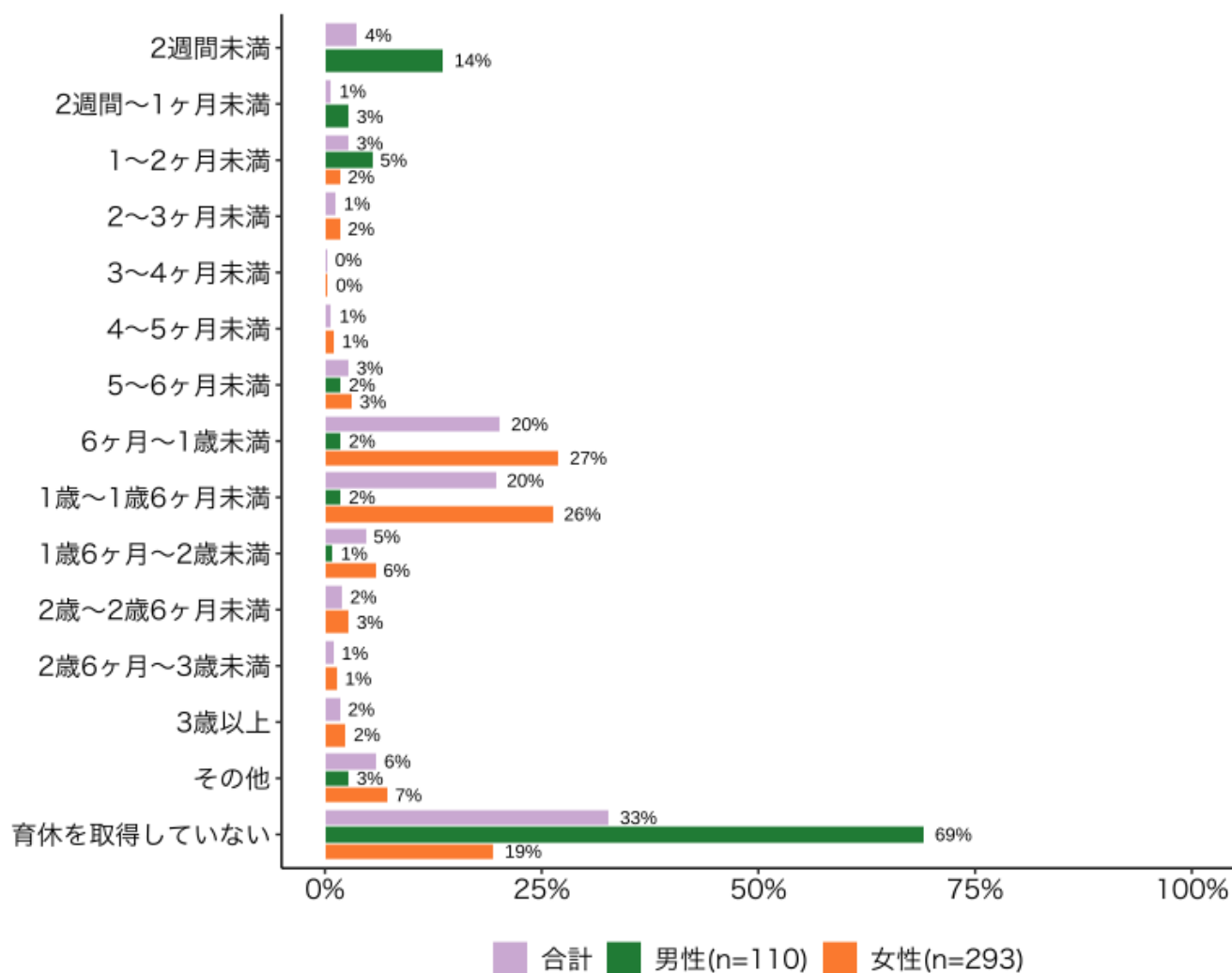
【問10で②～⑤と回答した方のみ】



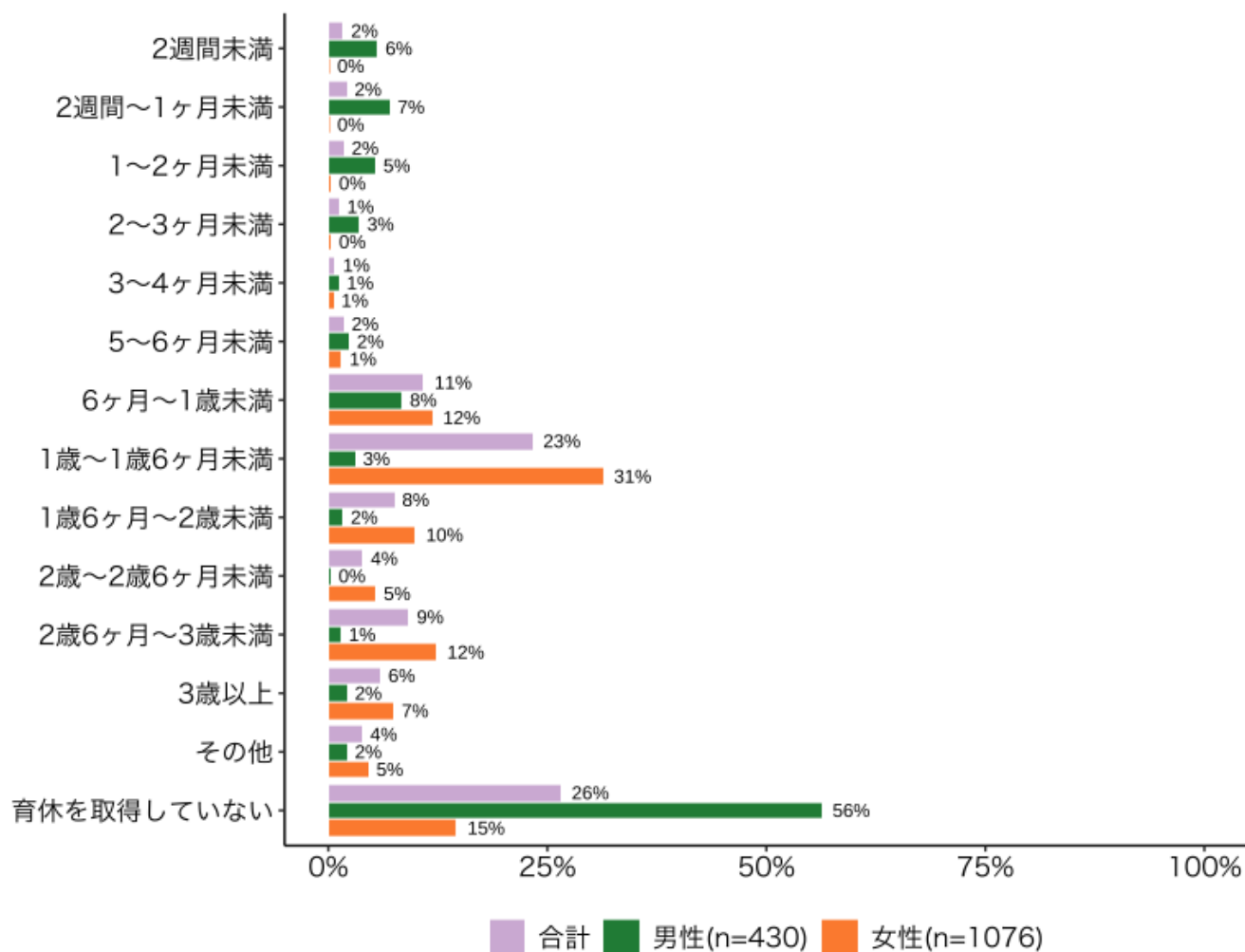
欠損値：男性に11ケース；女性に29ケース



あなたは、第3子のお子さんが何歳まで育児休業を取得しましたか。（予定含む）【問10で③～⑤と回答した方のみ】

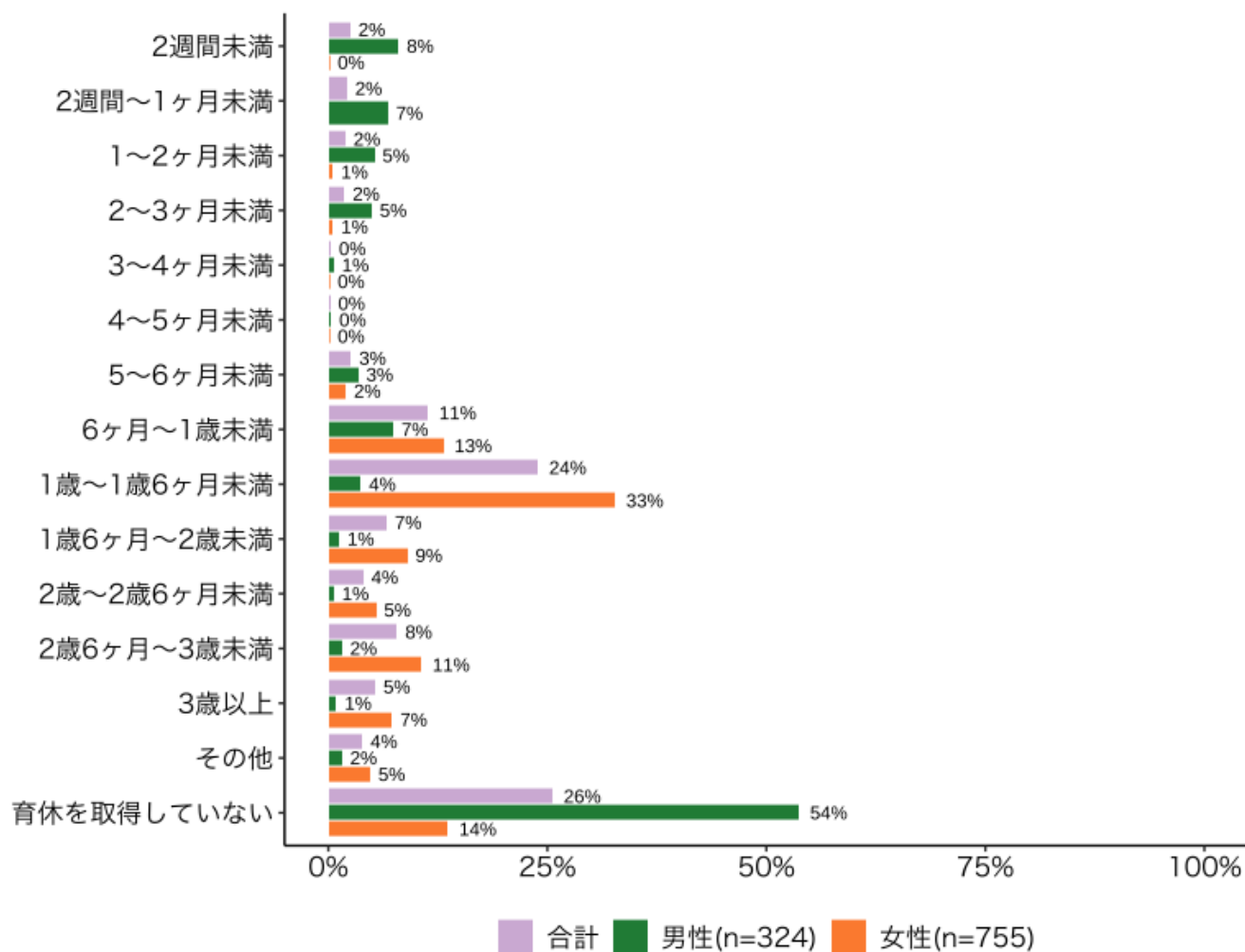


問 17 あなたは、第1子のお子さんが何歳まで育児休業を取得したいと希望していました  
(希望しています) か。【問 10 で①～⑤と回答した方のみ】



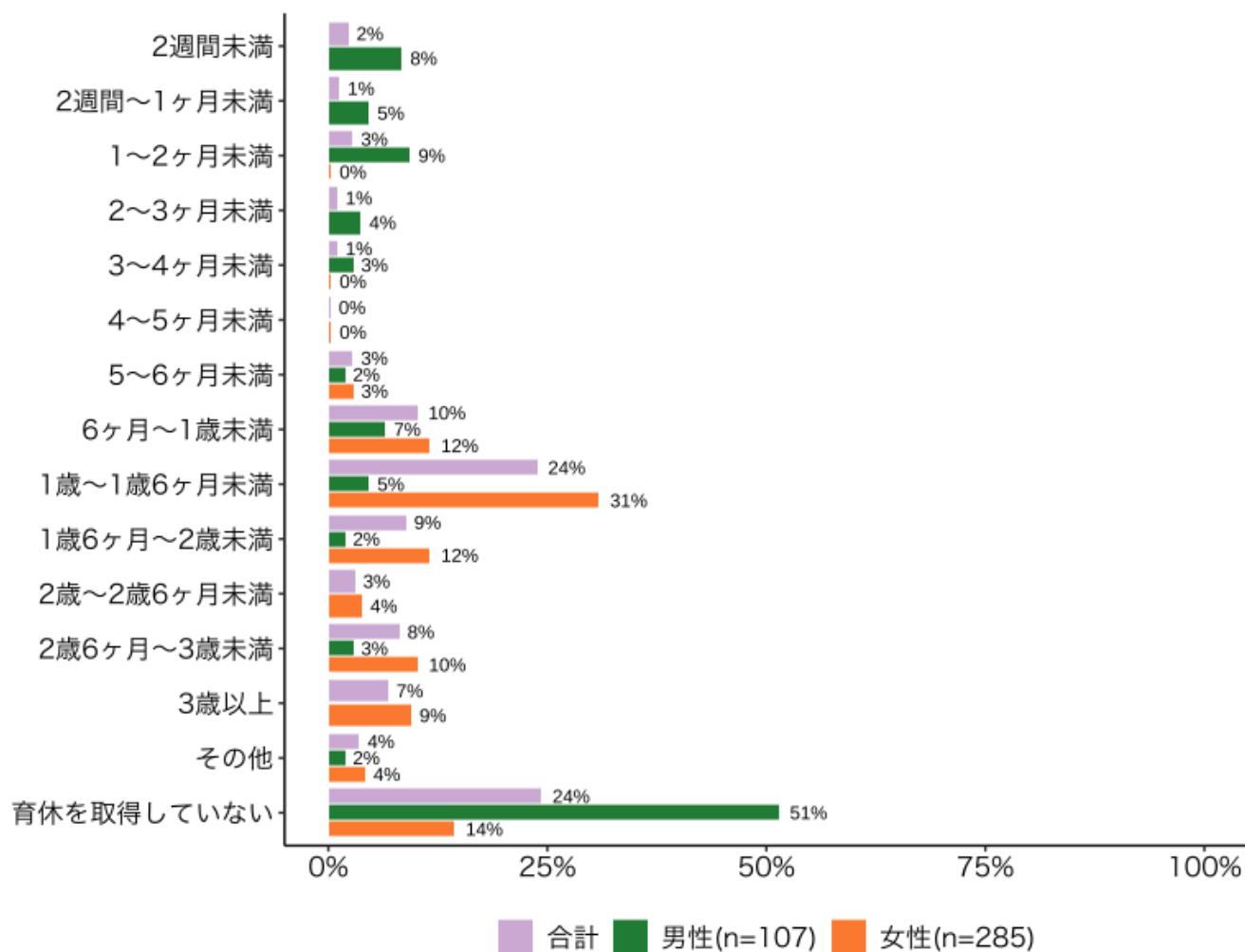
欠損値：男性に14ケース; 女性に40ケース

あなたは、第2子のお子さんが何歳まで育児休業を取得しましたか。（予定含む）【問10で②～⑤と回答した方のみ】



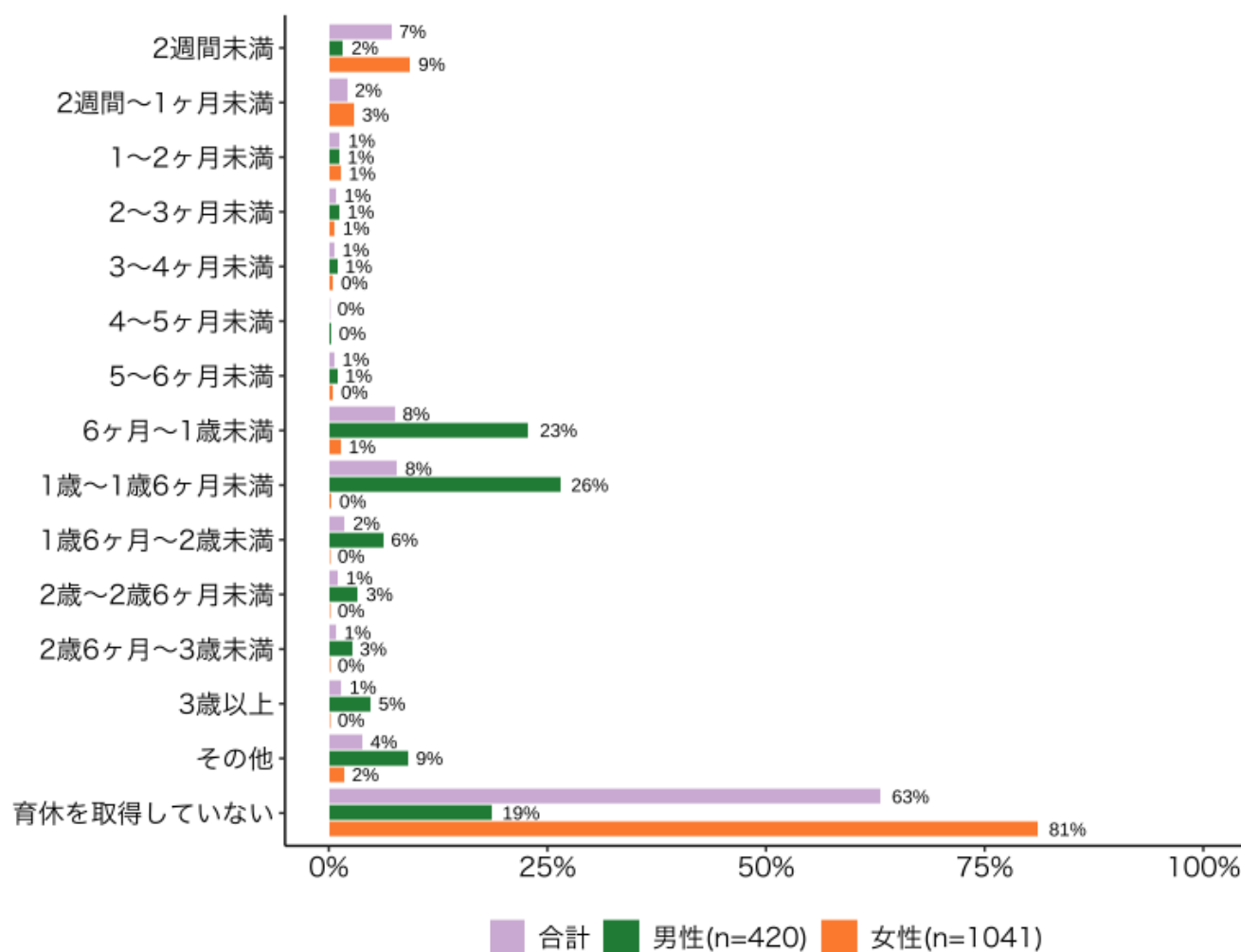
欠損値：男性に19ケース; 女性に43ケース

あなたは、第3子のお子さんが何歳まで育児休業を取得しましたか。（予定含む）【問10で③～⑤と回答した方のみ】



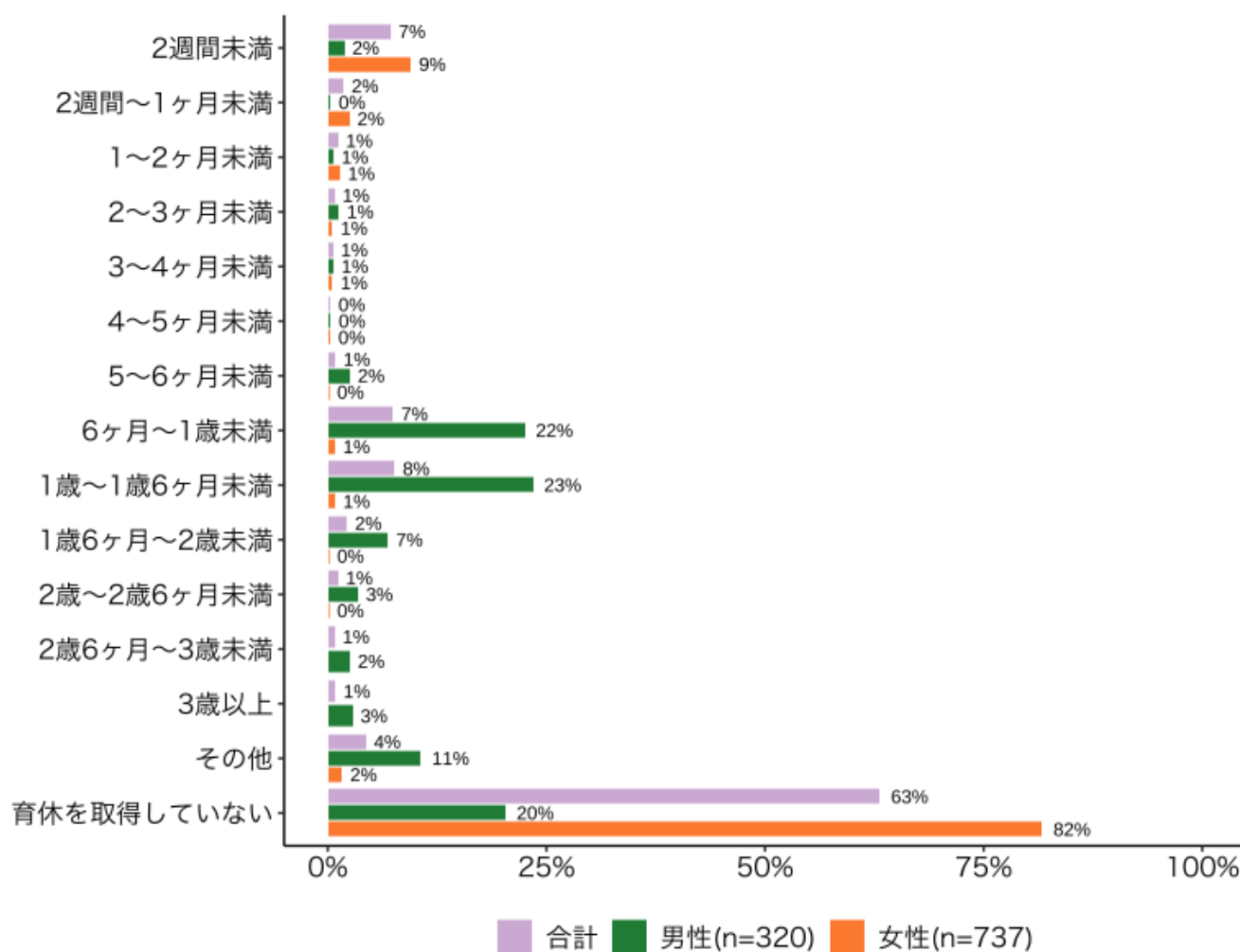
欠損値：男性に8ケース; 女性に19ケース

問 18 第1子のこどもを出産した際、あなたの配偶者は何歳まで育児休業を取得しましたか。（予定含む）【問5で①と回答した方、かつ、問10で①～⑤と回答した方のみ】



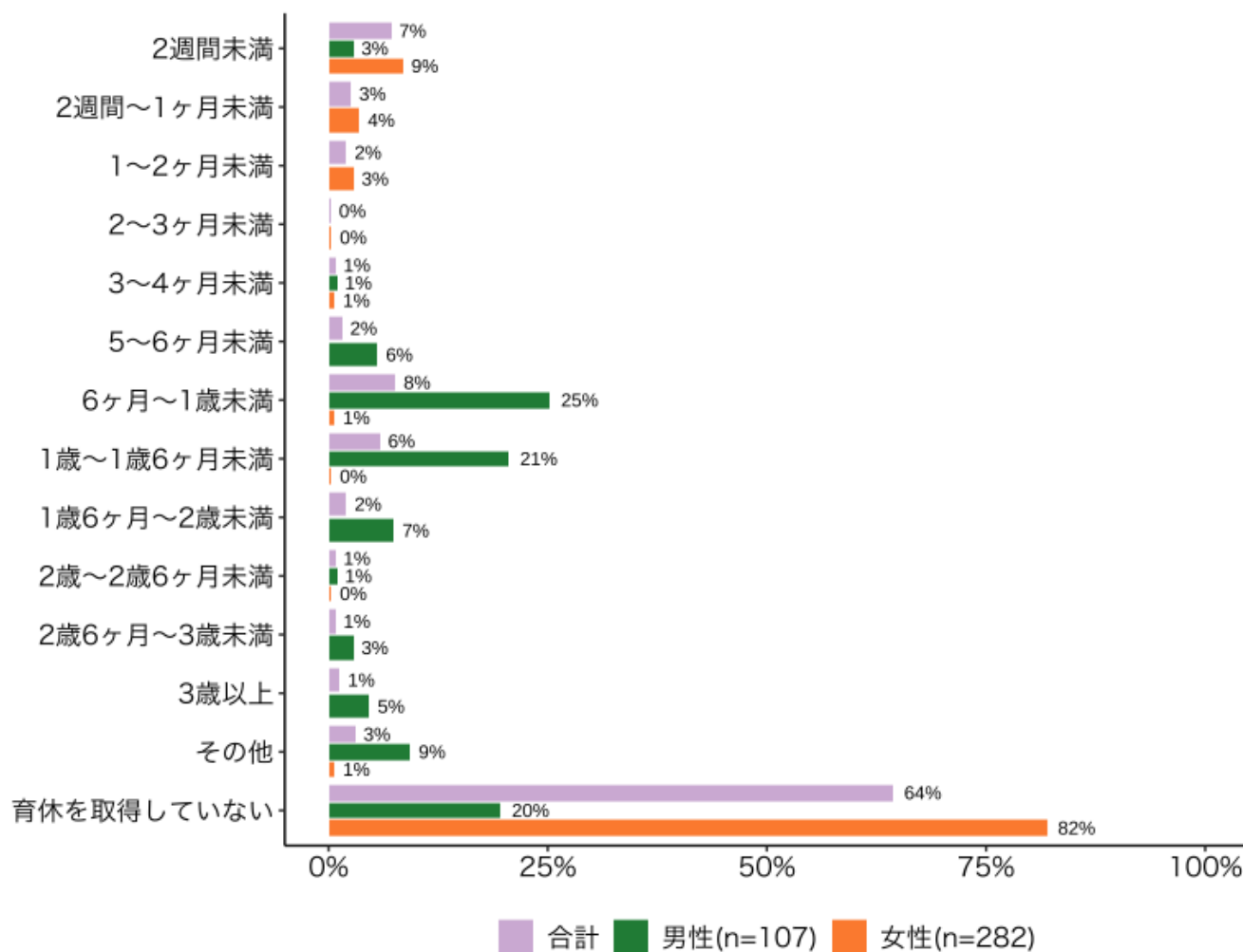
欠損値：男性に9ケース; 女性に21ケース

第2子のこどもを出産した際、あなたの配偶者は何歳まで育児休業を取得しましたか。（予定含む）【問5で①と回答した方、かつ、問10で②～⑤と回答した方のみ】



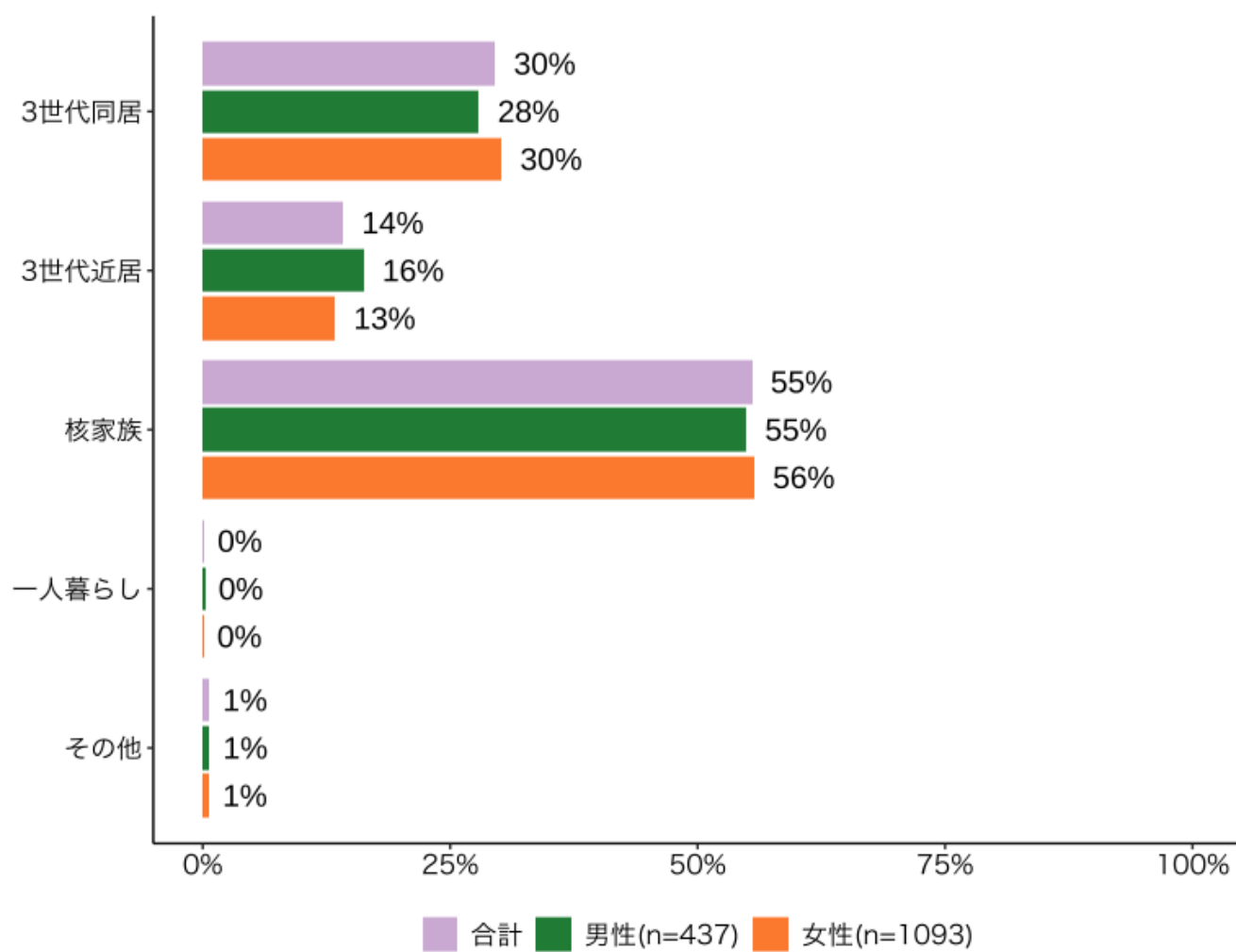
欠損値：男性に10ケース; 女性に23ケース

第3子のこどもを出産した際、あなたの配偶者は何歳まで育児休業を取得しましたか。  
 (予定含む) 【問5で①と回答した方、かつ、問10で③～⑤と回答した方のみ】



欠損値：男性に6ケース; 女性に14ケース

問 19 現在の住まい方の状況【問 10 で①～⑤と回答した方のみ】

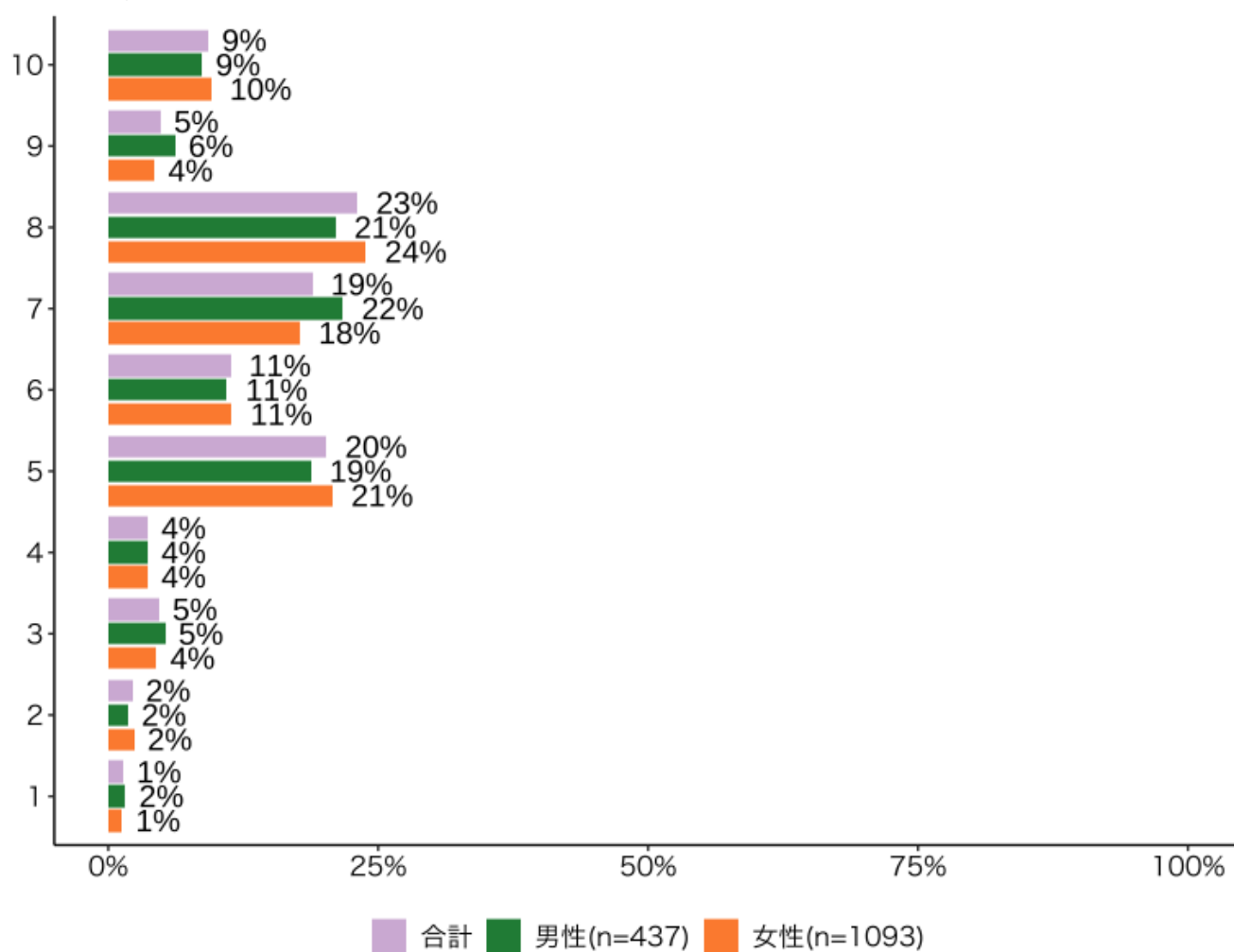


欠損値：男性に7ケース; 女性に23ケース



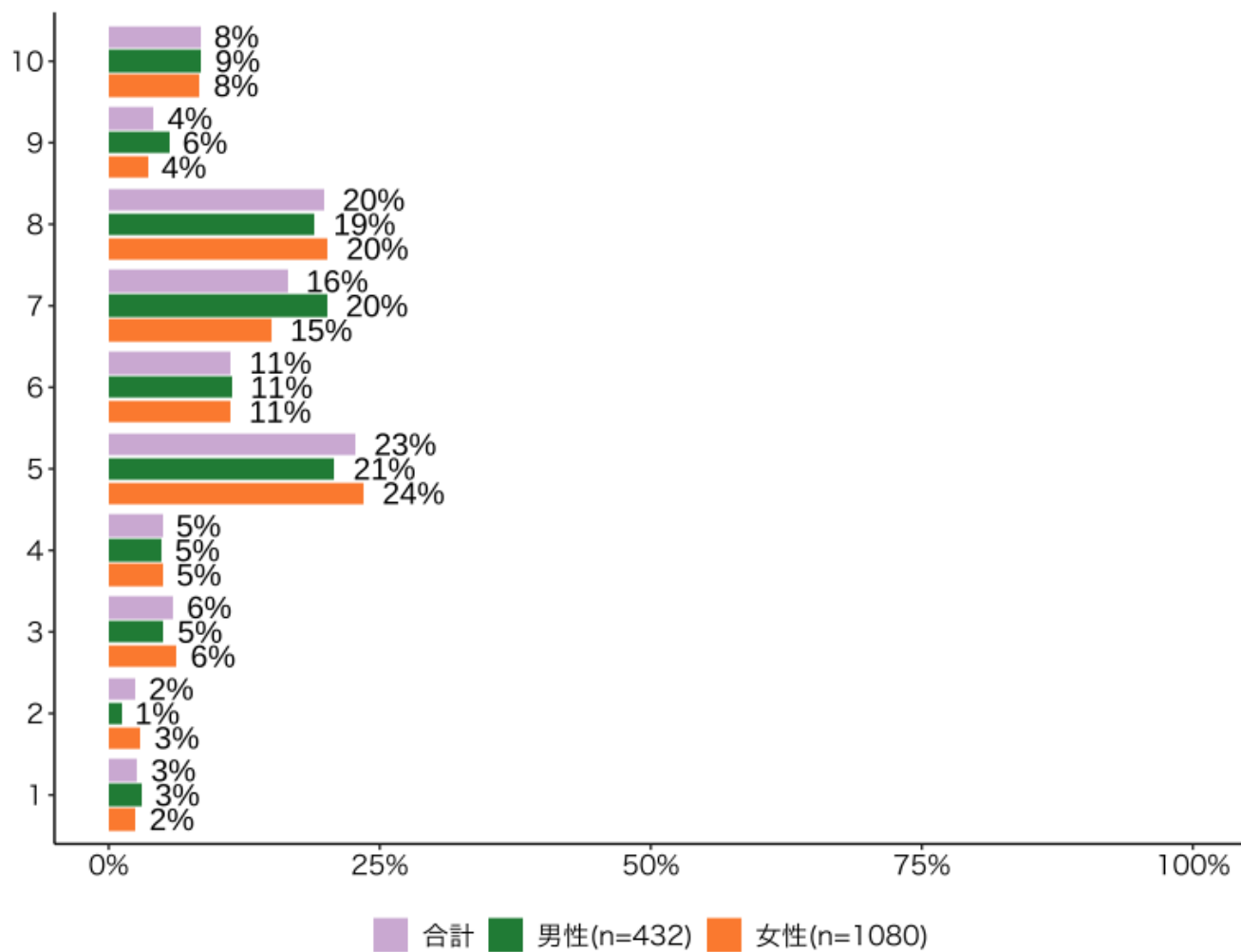
問 20 現在の住まい方の評価【問 10 で①～⑤と回答した方のみ】

こどもが育っていく環境としての評価



欠損値：男性に7ケース; 女性に23ケース

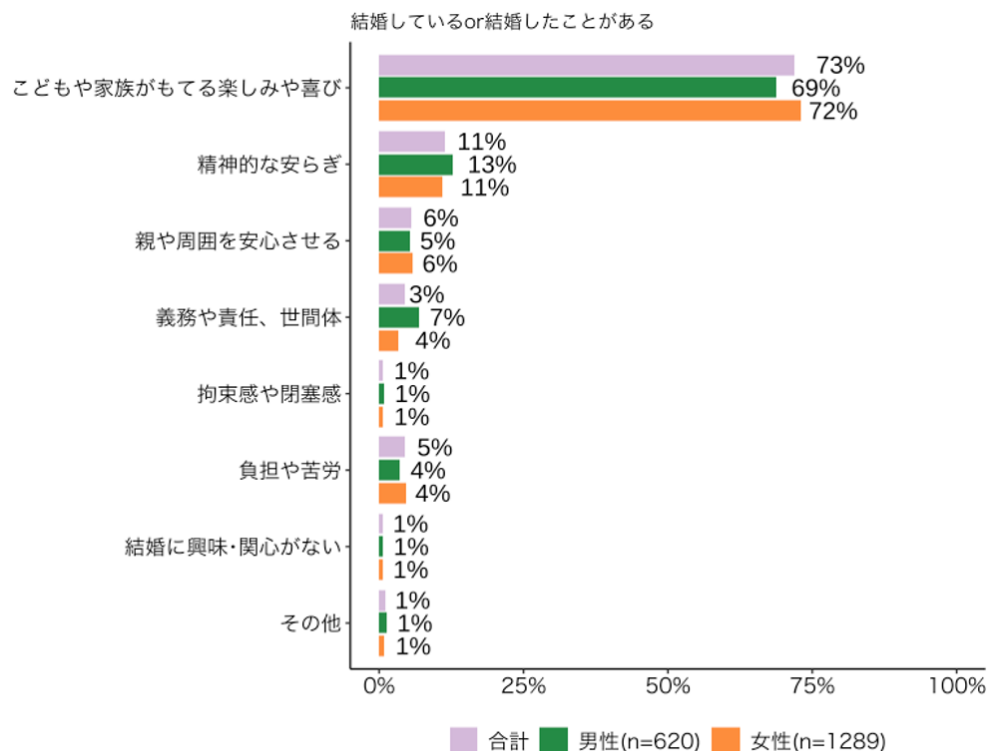
# 回答者本人の満足度



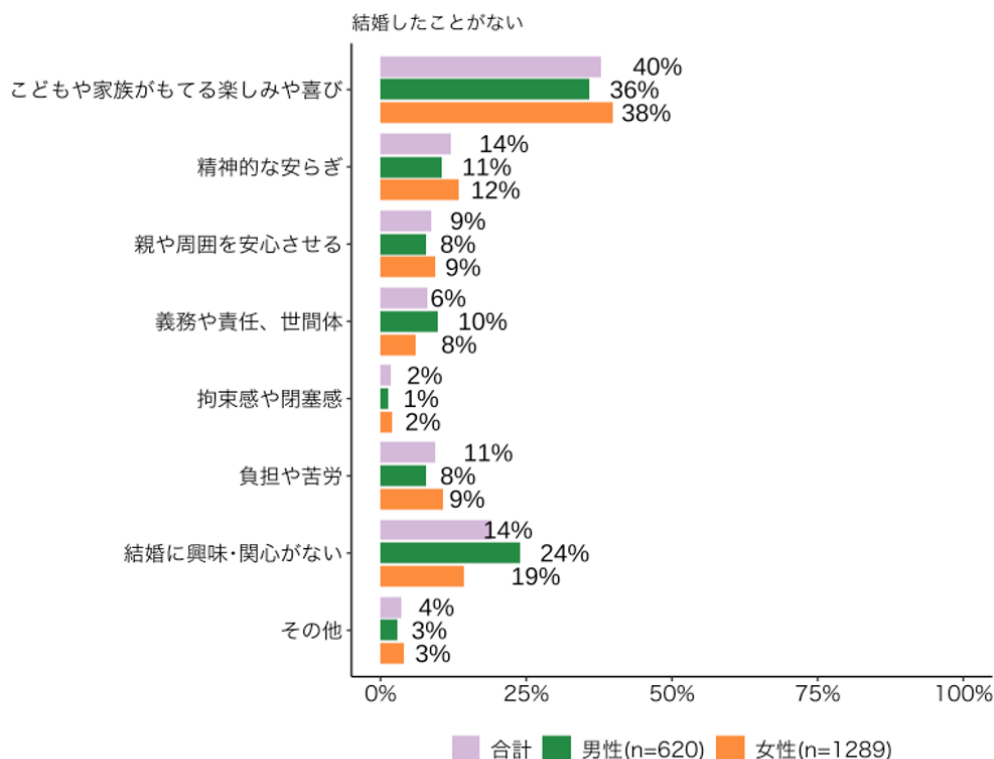
欠損値：男性に12ケース; 女性に36ケース

## 2. 結婚に関すること

### 問 21 結婚に対するイメージ【全員回答】

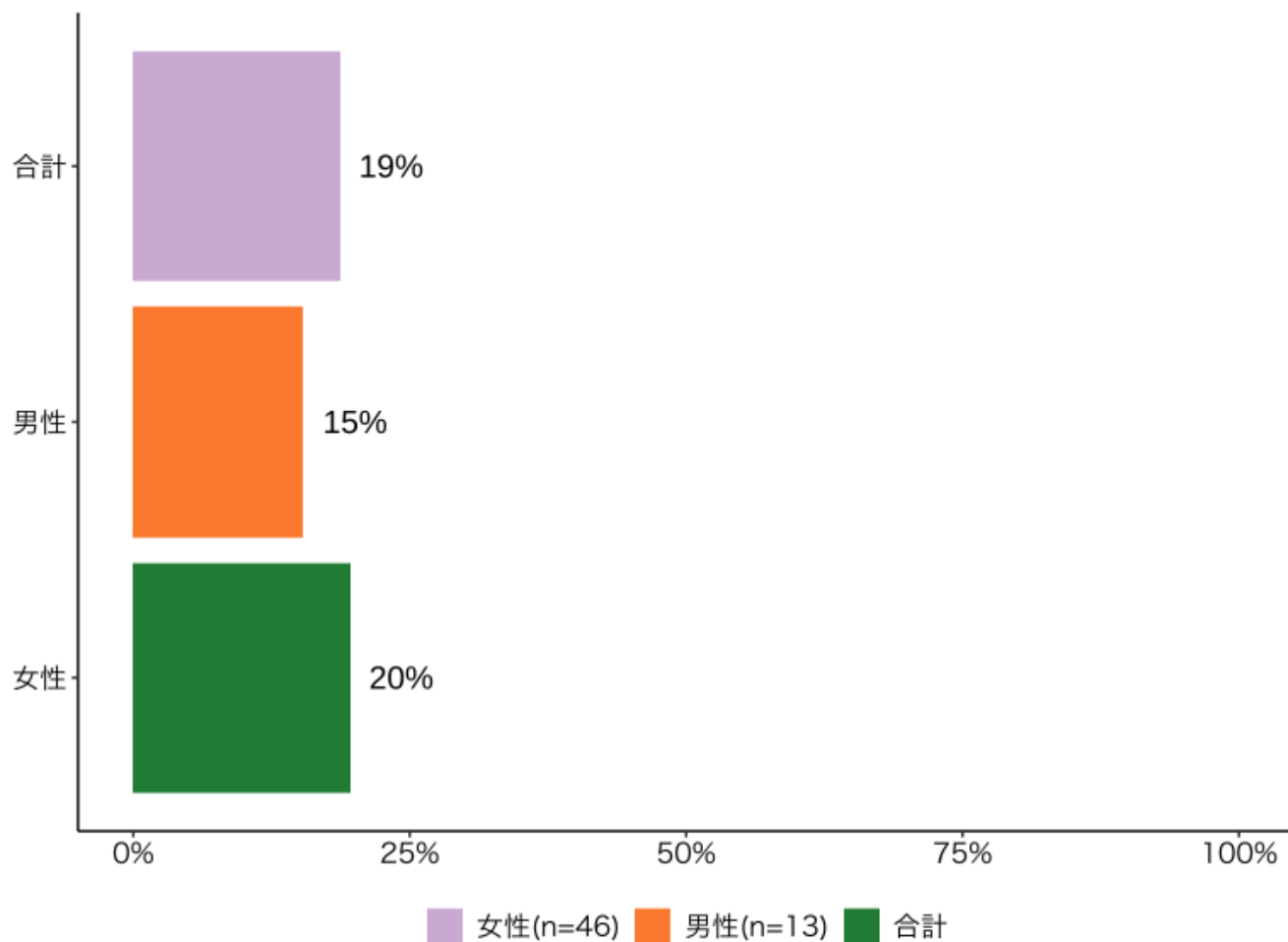


欠損値：男性に12ケース；女性に36ケース



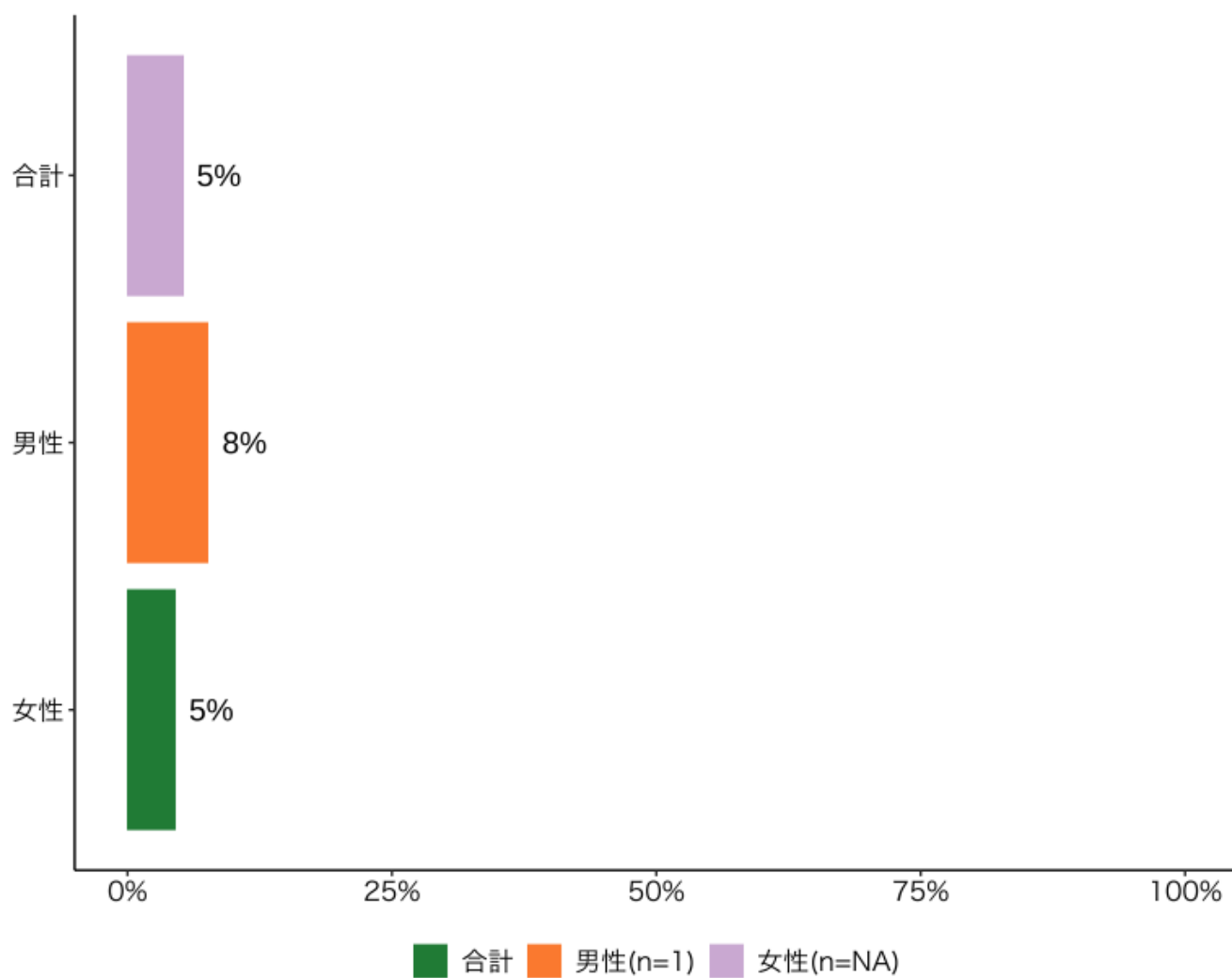
欠損値：男性に12ケース；女性に36ケース

問 22 現在、交際相手がいるか【問 5 で②と回答した方のみ】

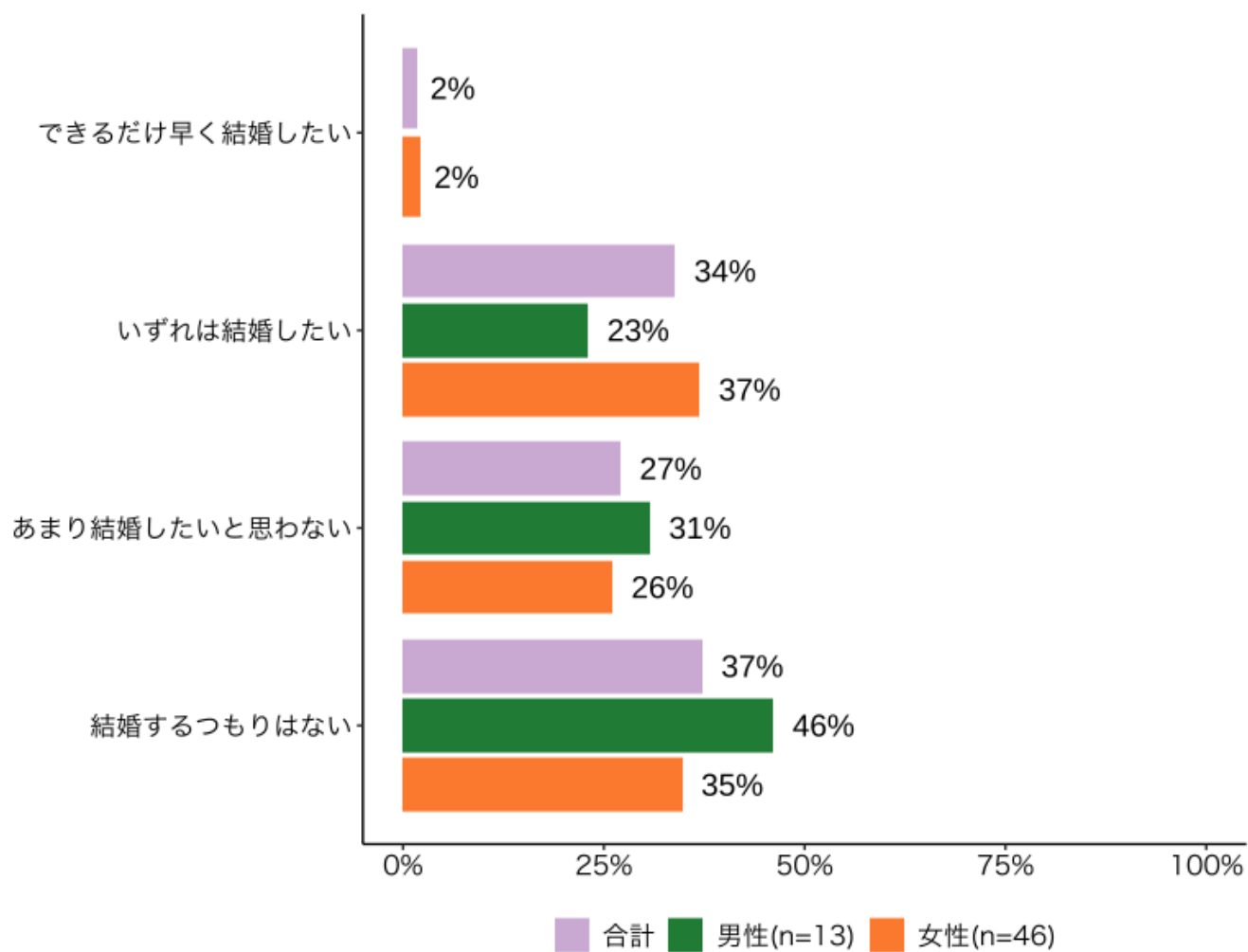


問5の配偶者の有無は問4の結婚の有無において「①結婚している・結婚したことがある」と回答した人のみ答える設定になっている。そのため、問22～26は、既婚だが、現在配偶者がいない者のみからの回答となっている。

問 23 現在、交際相手さがしを意識した活動をおこなっていますか【問 5 で②と回答した方のみ】

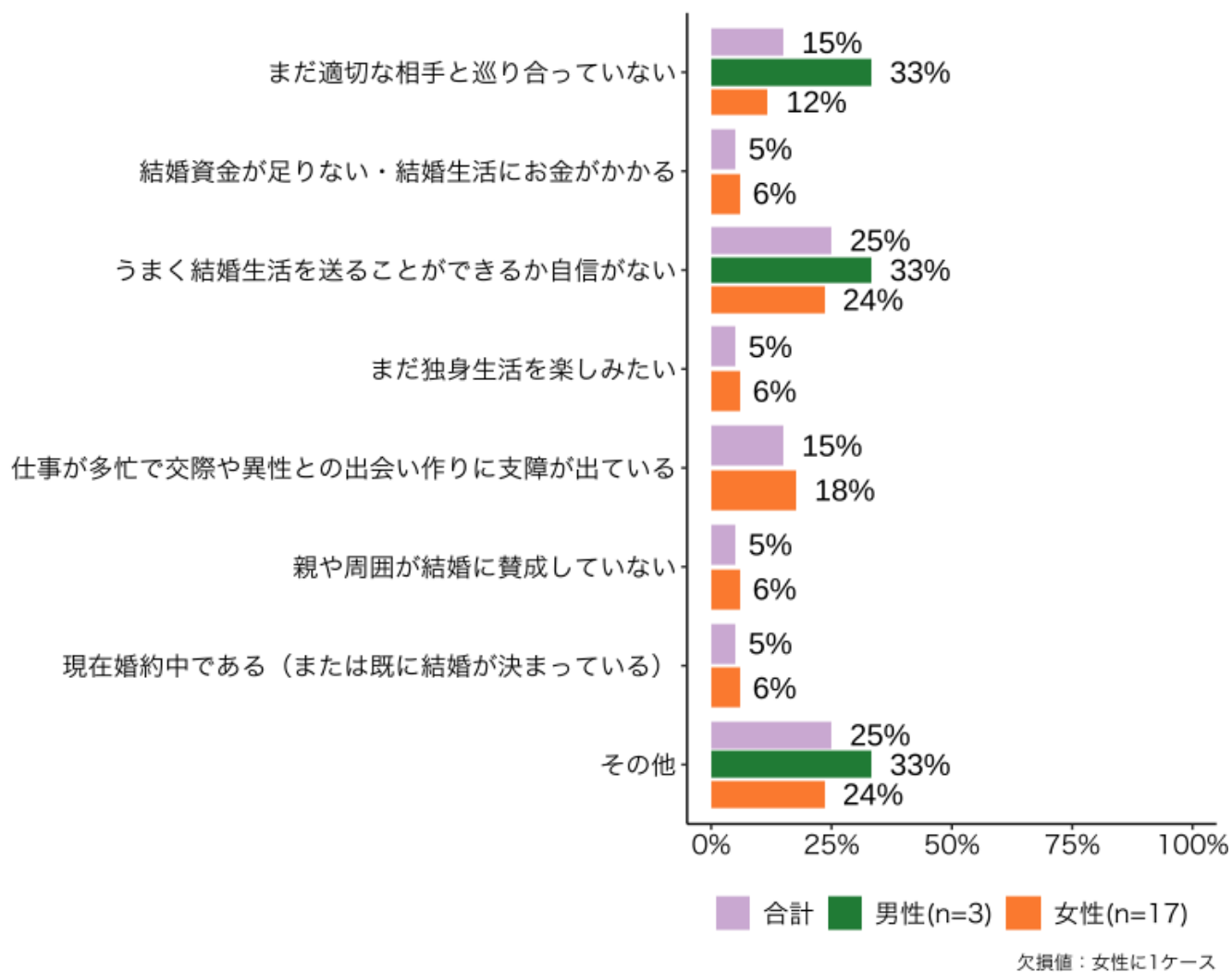


問 24 今後、結婚する意欲がありますか【問 5 で②と回答した方のみ】

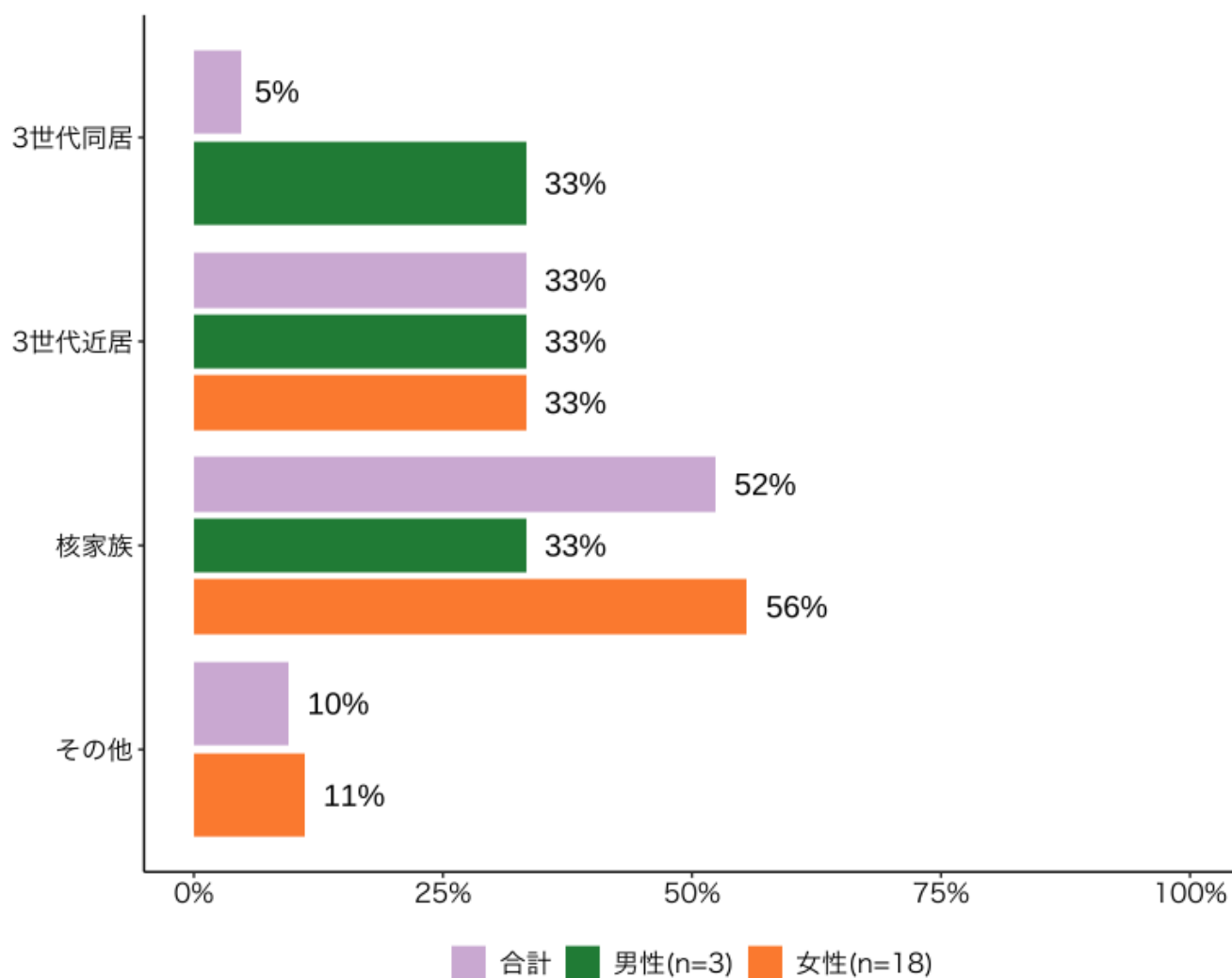


欠損値：男性に4ケース; 女性に1ケース

問 25 現状、結婚に至っていない理由【問 5 で②と回答した方、かつ、問 24 で①～③と回答した方のみ】

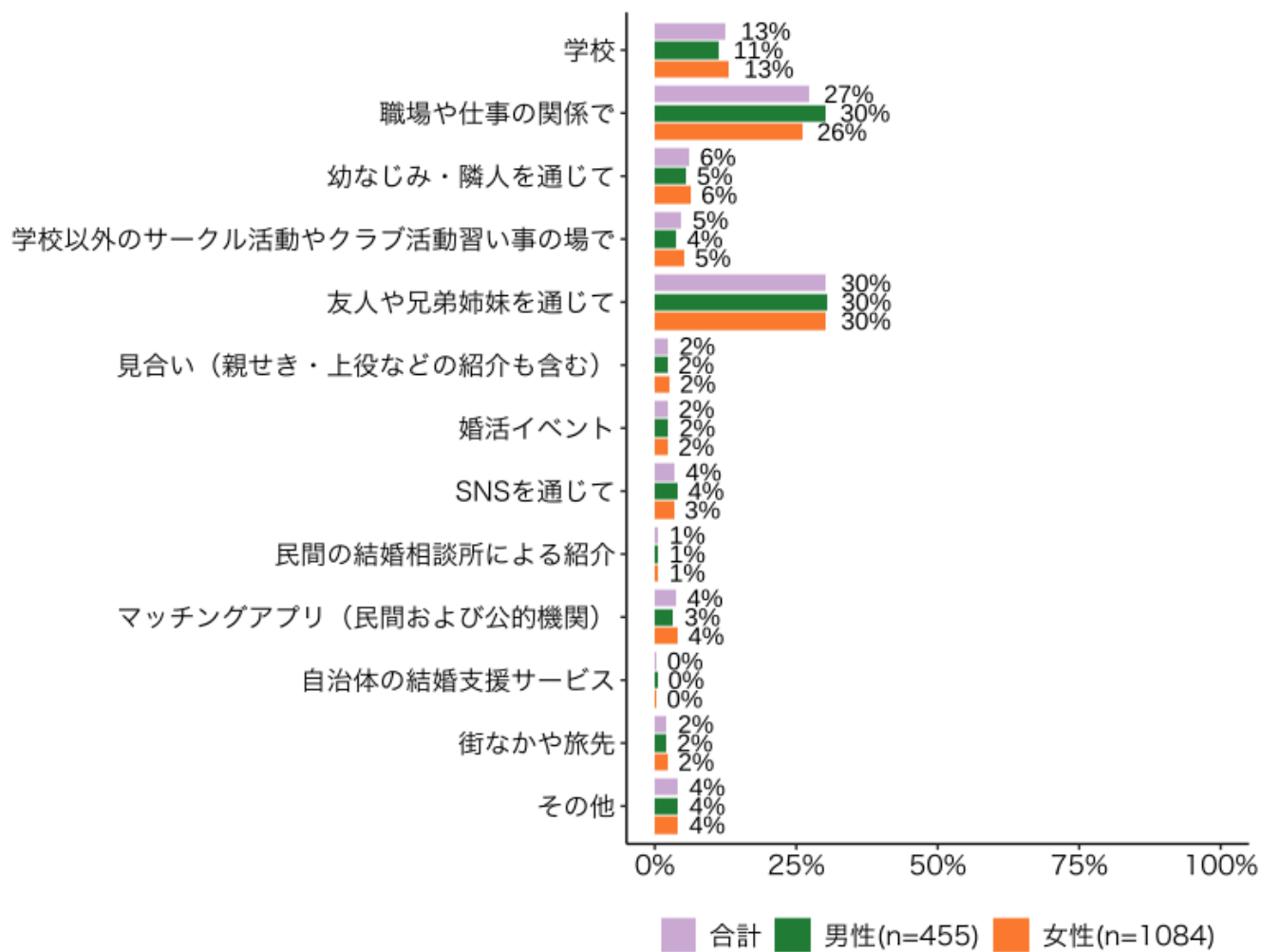


問 26 結婚後の理想の住まい方について【問 5 で②と回答した方、かつ、問 24 で①～③と回答した方のみ】



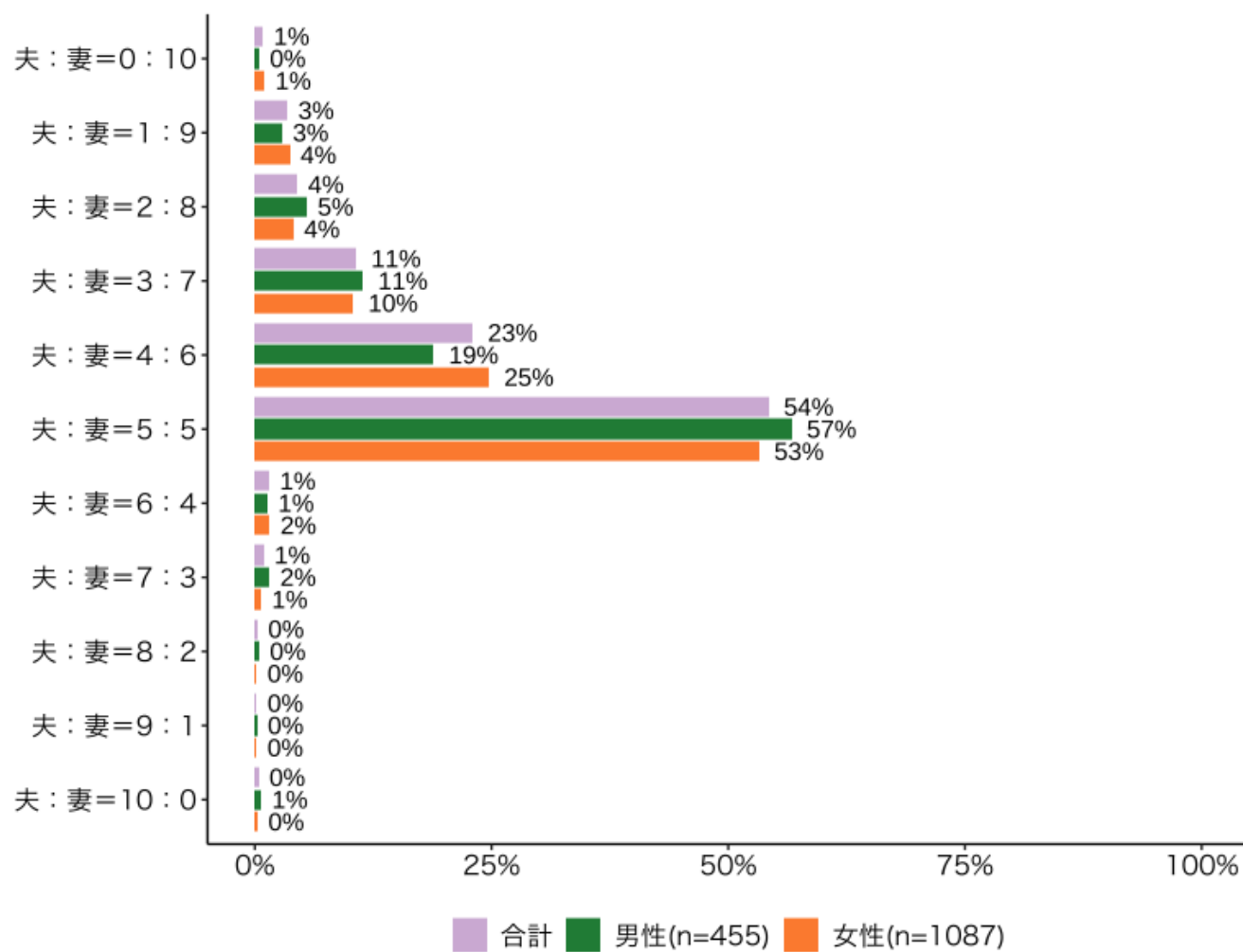


問 28 （配偶者と）出合ったきっかけ【問 5 で①と回答した方のみ】



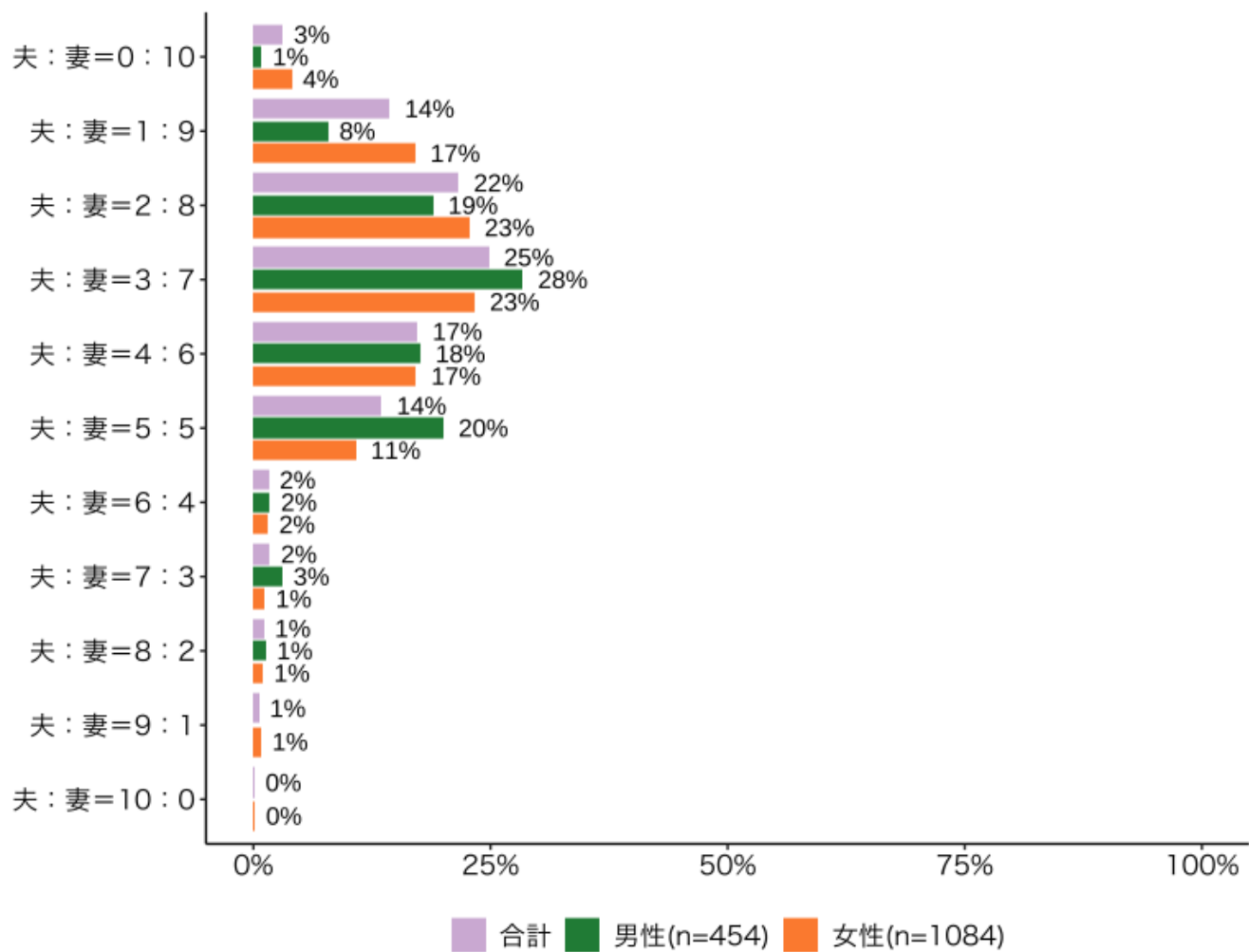
欠損値：男性に10ケース; 女性に24ケース

問 29 夫と妻の家事・育児への理想の関わり具合【問 5 で①と回答した方のみ】



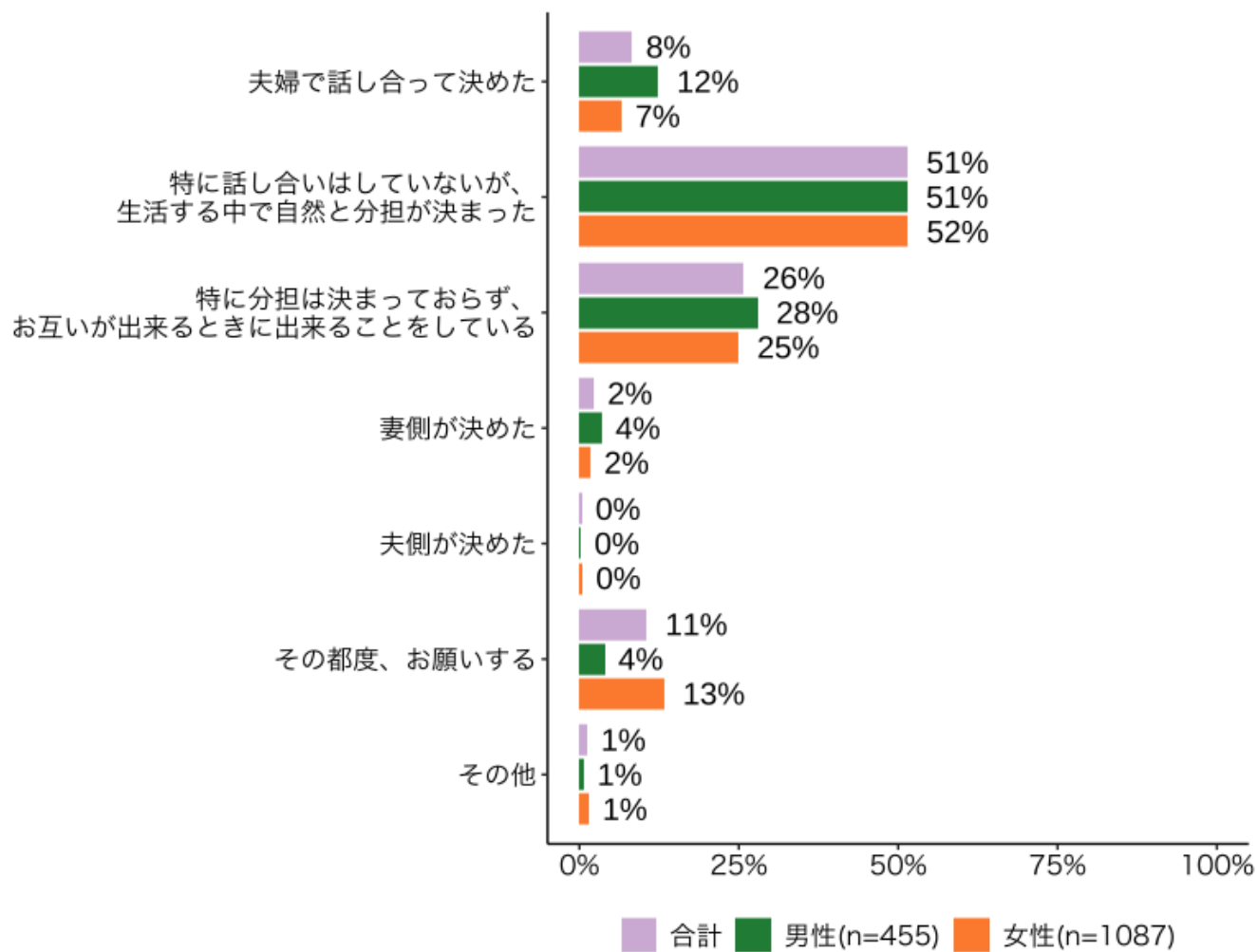
欠損値：男性に10ケース; 女性に21ケース

問 30 夫と妻の家事・育児への実際の関わり具合【問 5 で①と回答した方のみ】



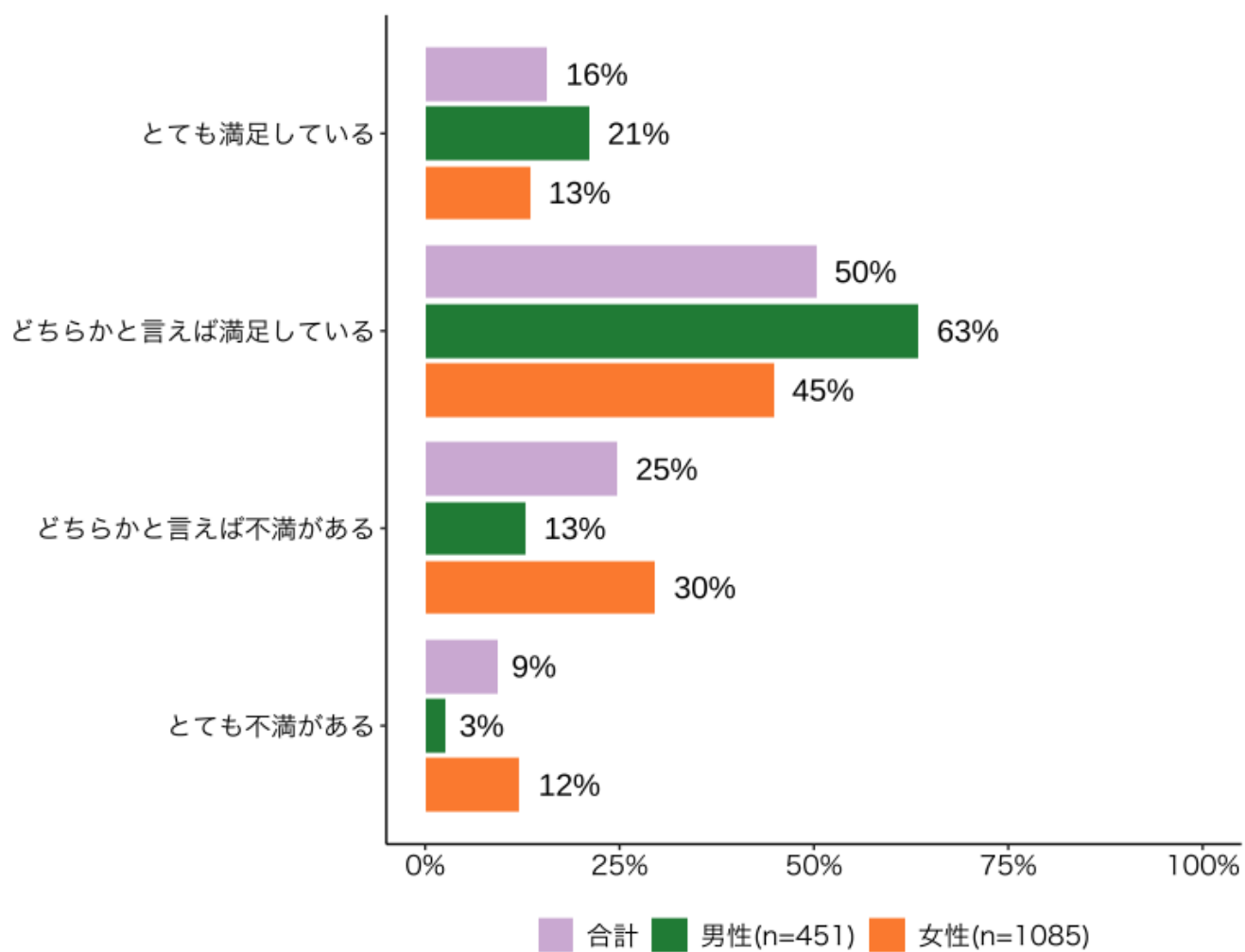
欠損値：男性に11ケース; 女性に24ケース

問 31 夫の妻の家事・育児分担の決定方法【問 5 で①と回答した方のみ】



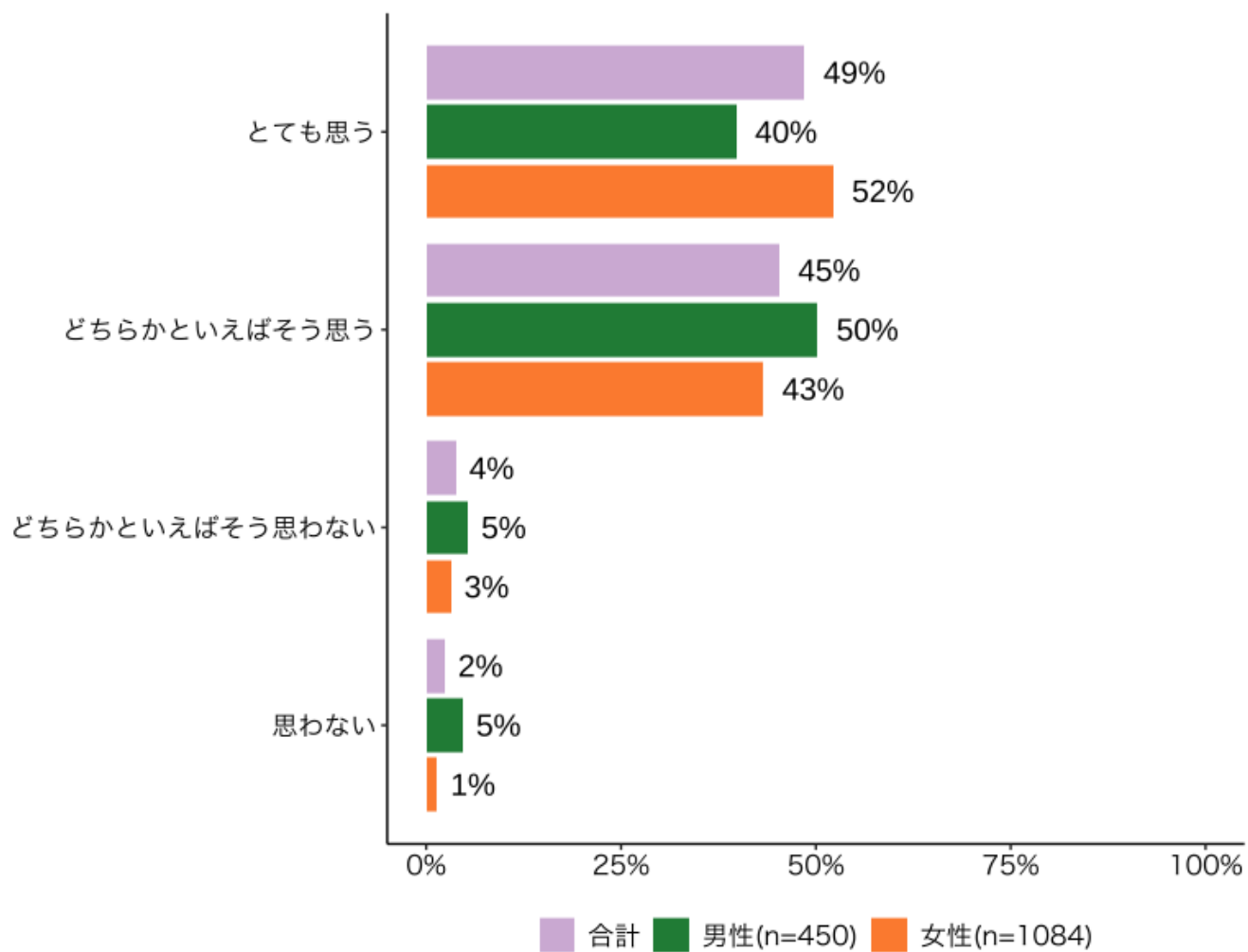
欠損値：男性に10ケース；女性に21ケース

問 32 夫と妻の家事・育児分担への実際の関わり具合への満足度【問 5 で①と回答した方のみ】



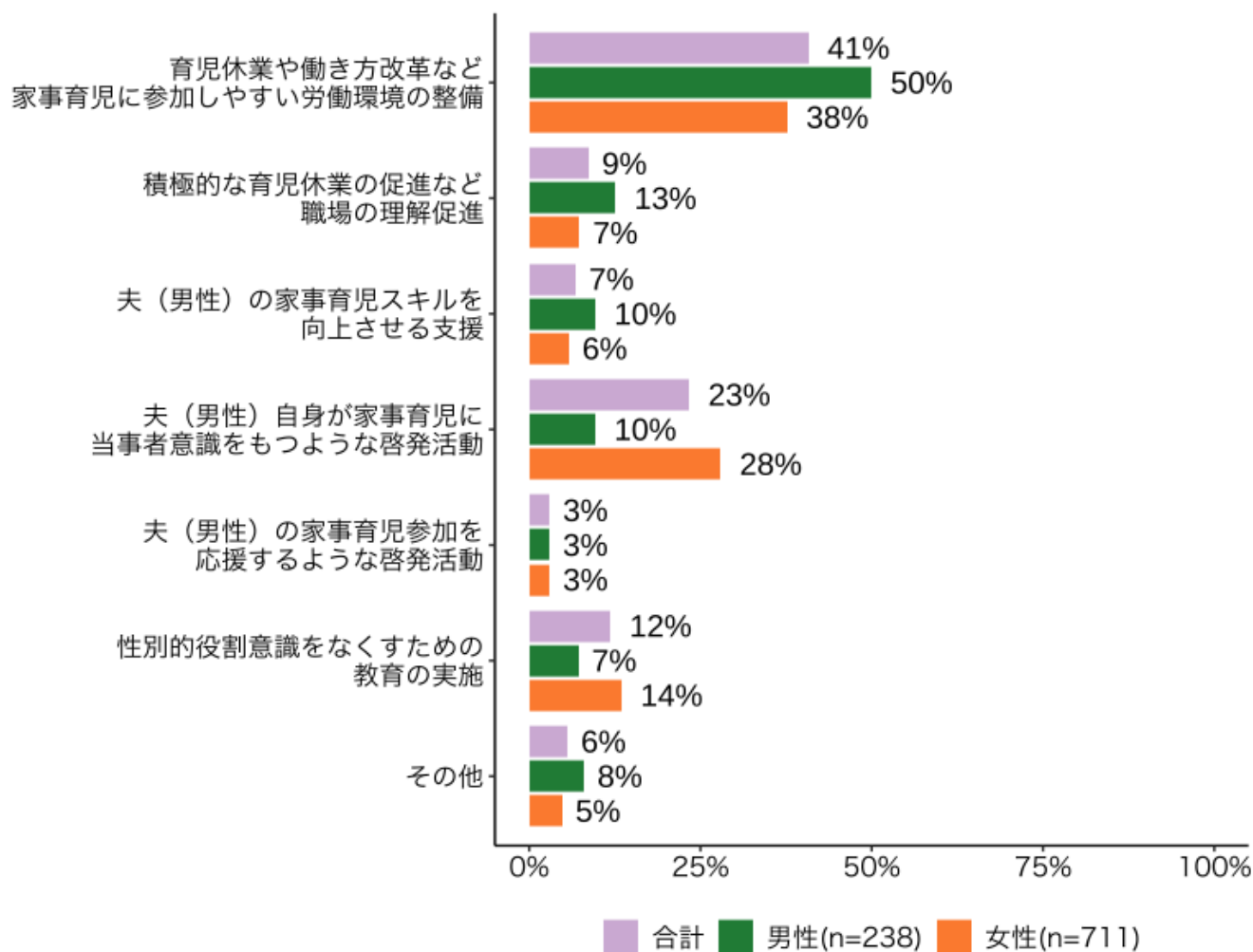
欠損値：男性に14ケース; 女性に23ケース

問 33 理想の家事・育児分担の実現が、家庭内における子育て環境の向上につながると  
思いますか【問 5 で①と回答した方のみ】



欠損値：男性に15ケース; 女性に24ケース

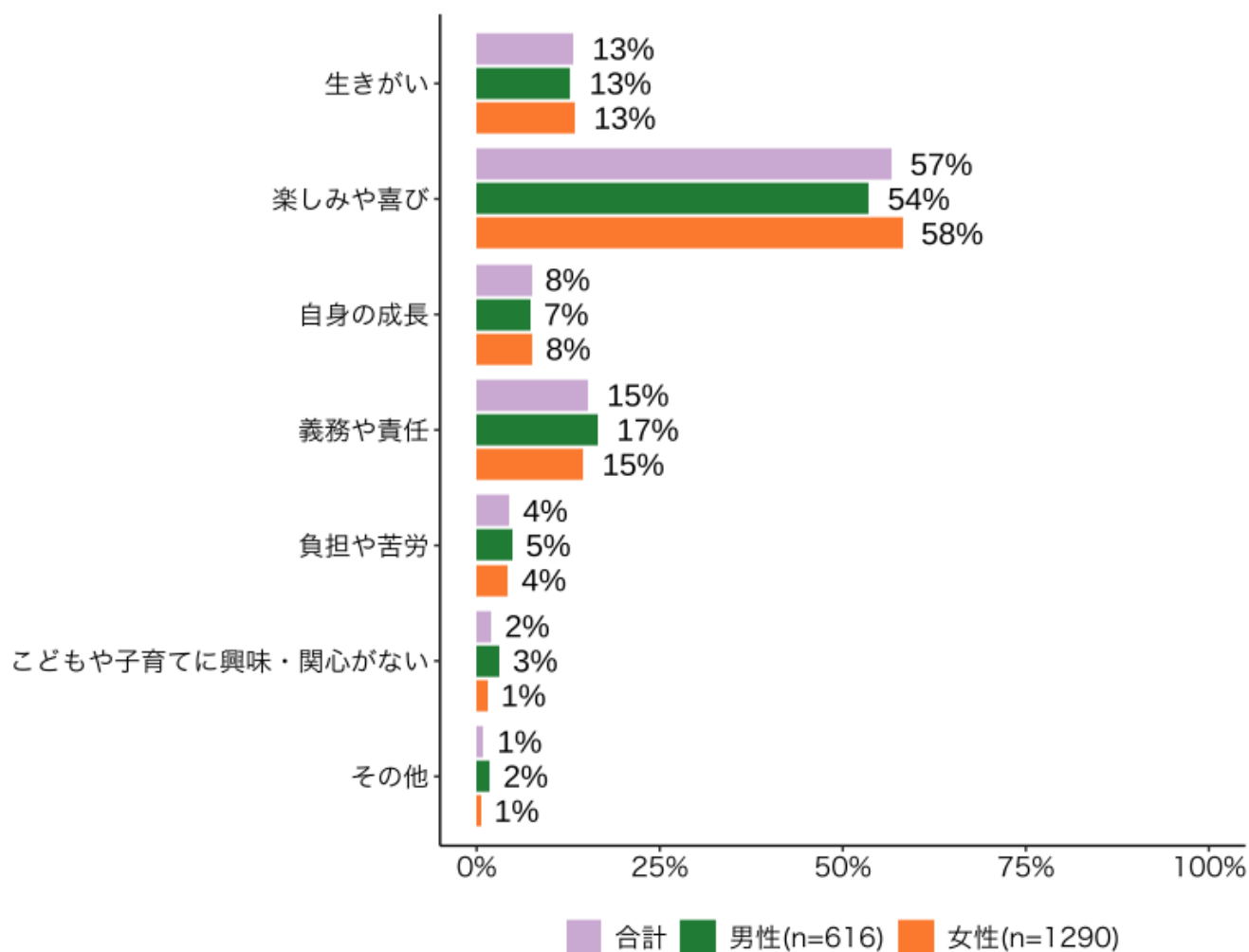
問 34 理想の家事・育児の関わり具合を実現するために必要だと思うこと【問 29, 30 で夫の実際の関わり具合が理想の関わり具合より低い方のみ回答】



欠損値：男性に10ケース；女性に31ケース

### 3. こどもや子育てに関すること

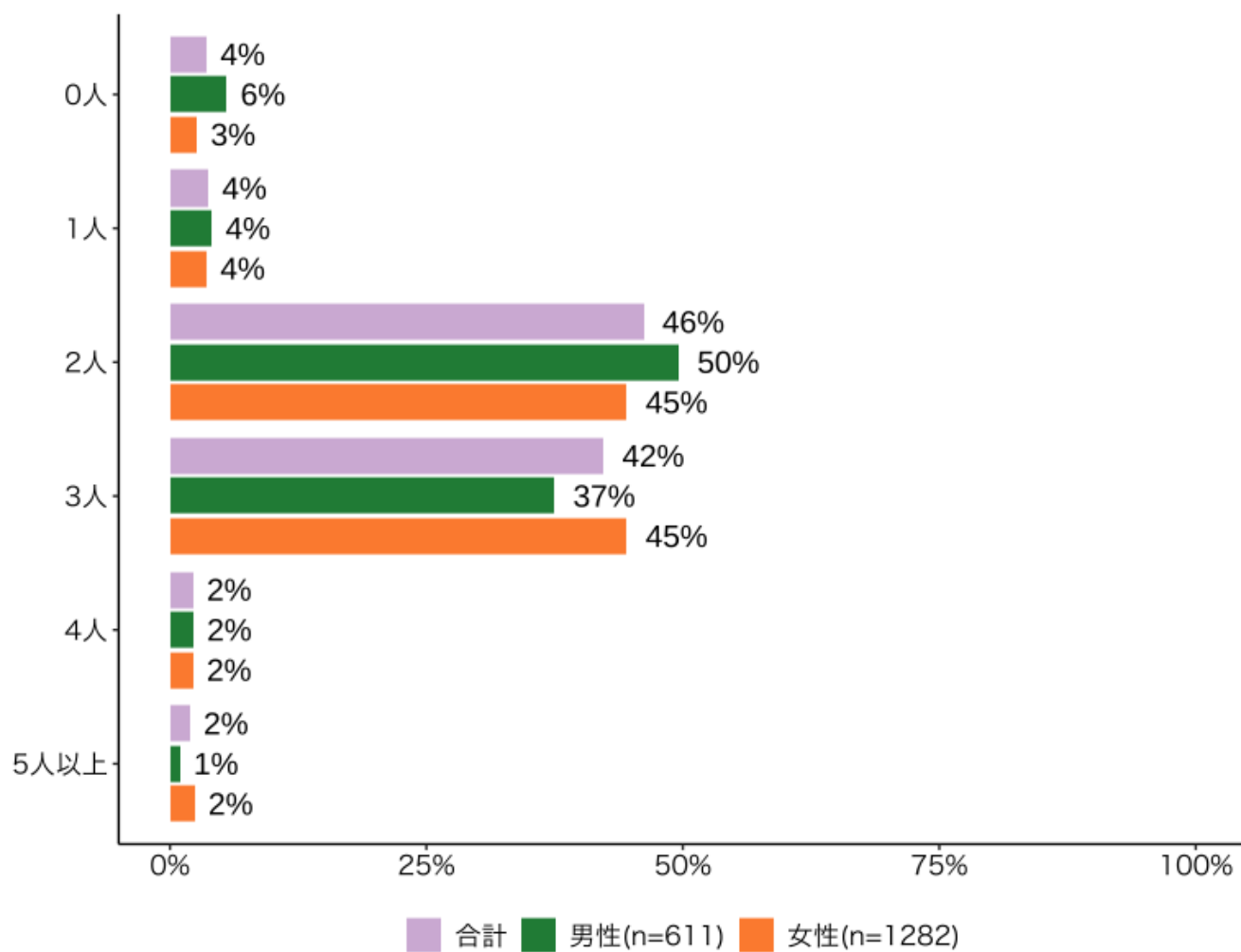
問 35 こどもや子育てに対するイメージ【全員回答】



欠損値：男性に16ケース; 女性に35ケース

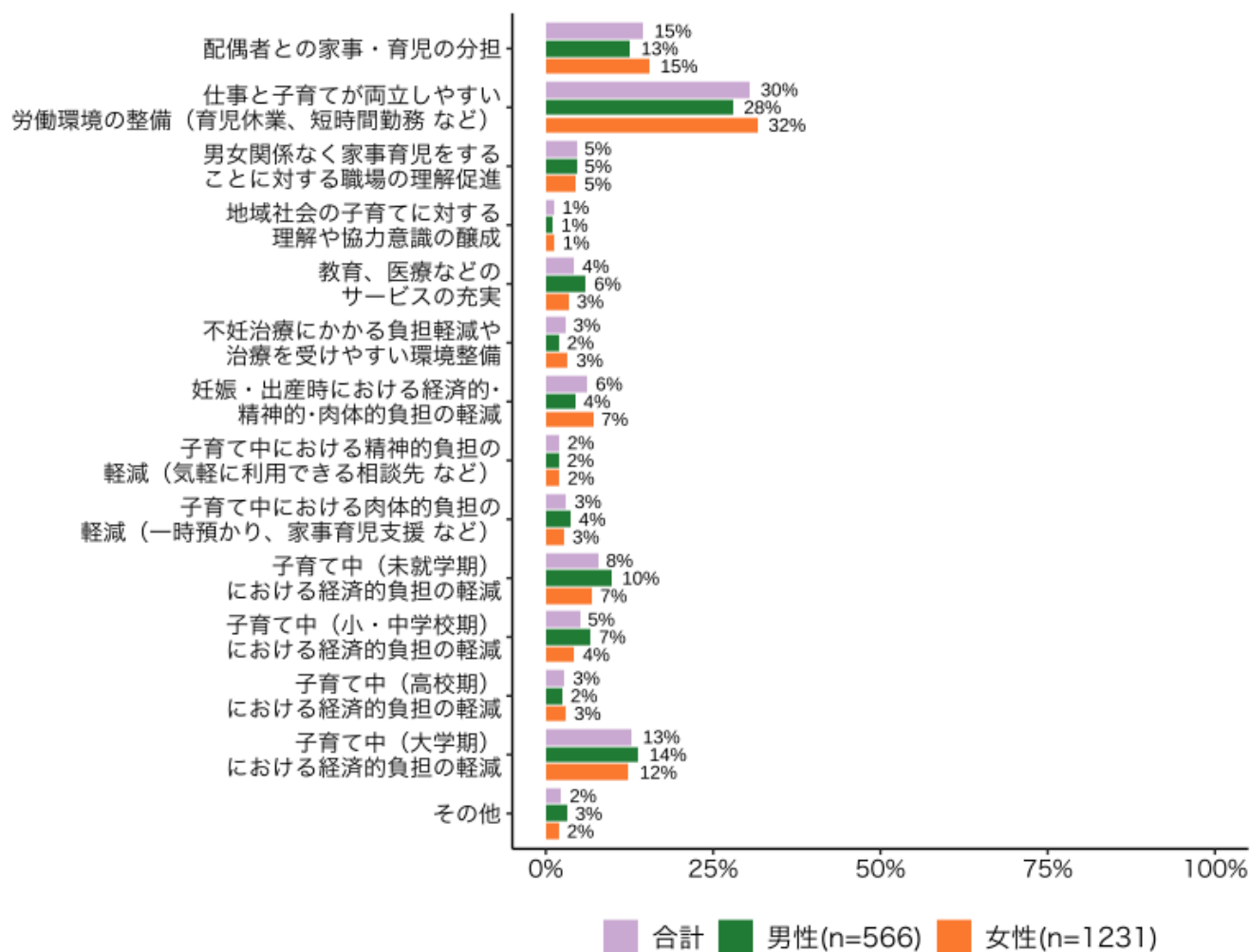


問 36 理想とすることどもの数【全員回答】



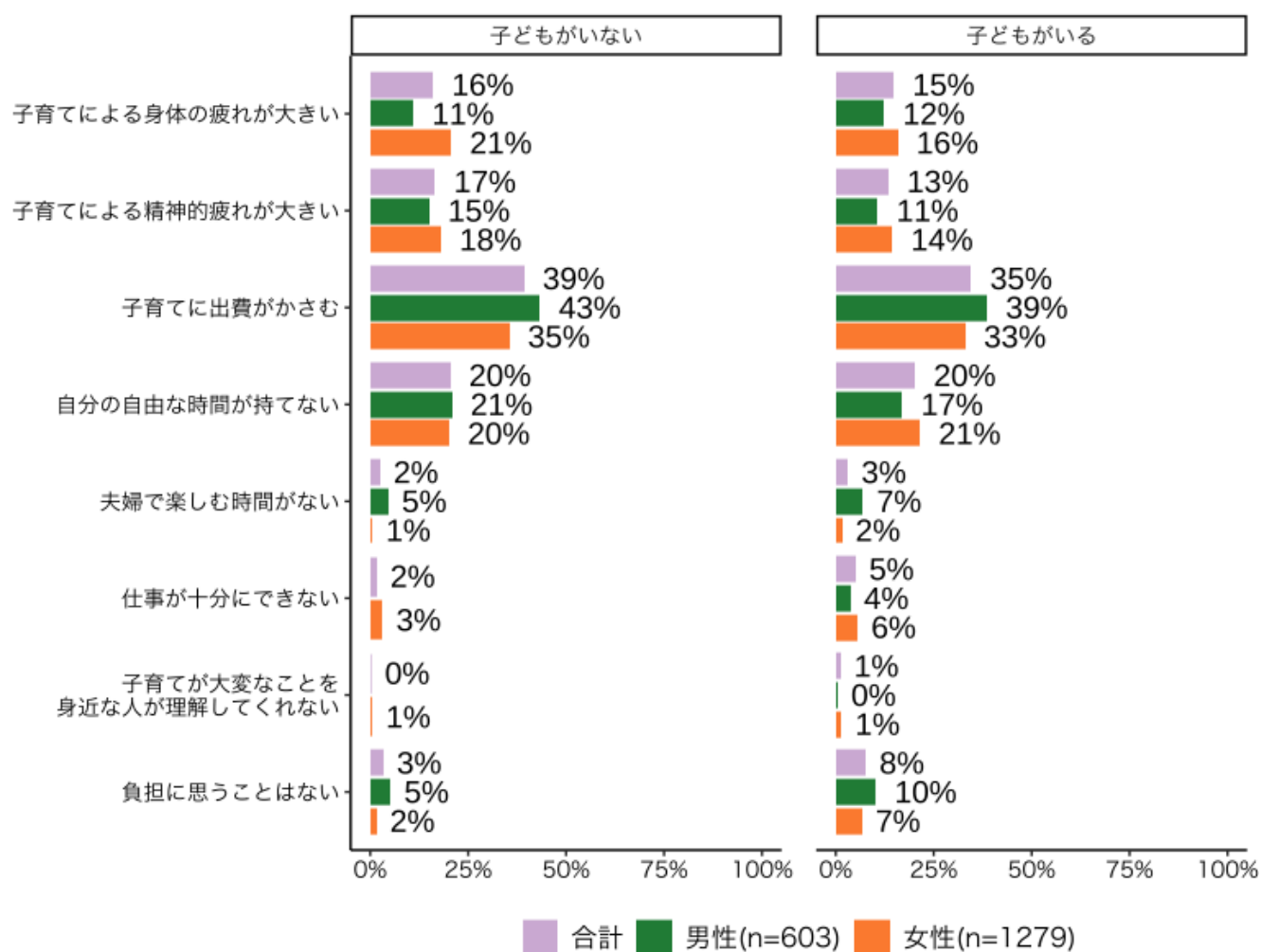
欠損値：男性に21ケース; 女性に43ケース

問 37 理想とすることどもの数を実現するために必要だと思うこと【問 36 で①～⑤と回答した方のみ回答】



欠損値：男性に11ケース；女性に17ケース

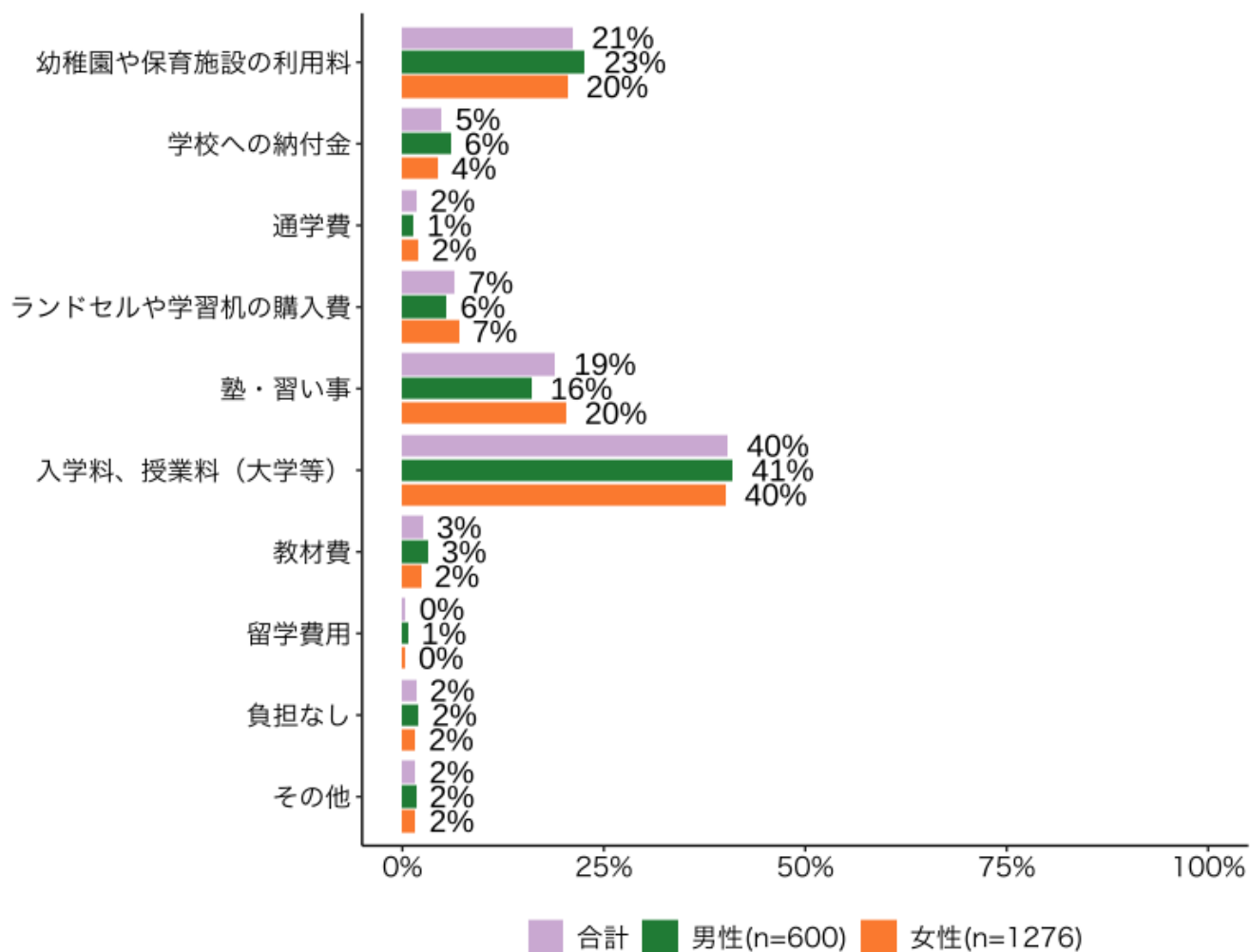
問 38 子育てをされていて（こどもがいない方は、子育てをしたら、）自分にとって負担に思う（であろう）ことはどんなことですか【全員回答】



欠損値：男性に15ケース; 女性に14ケース

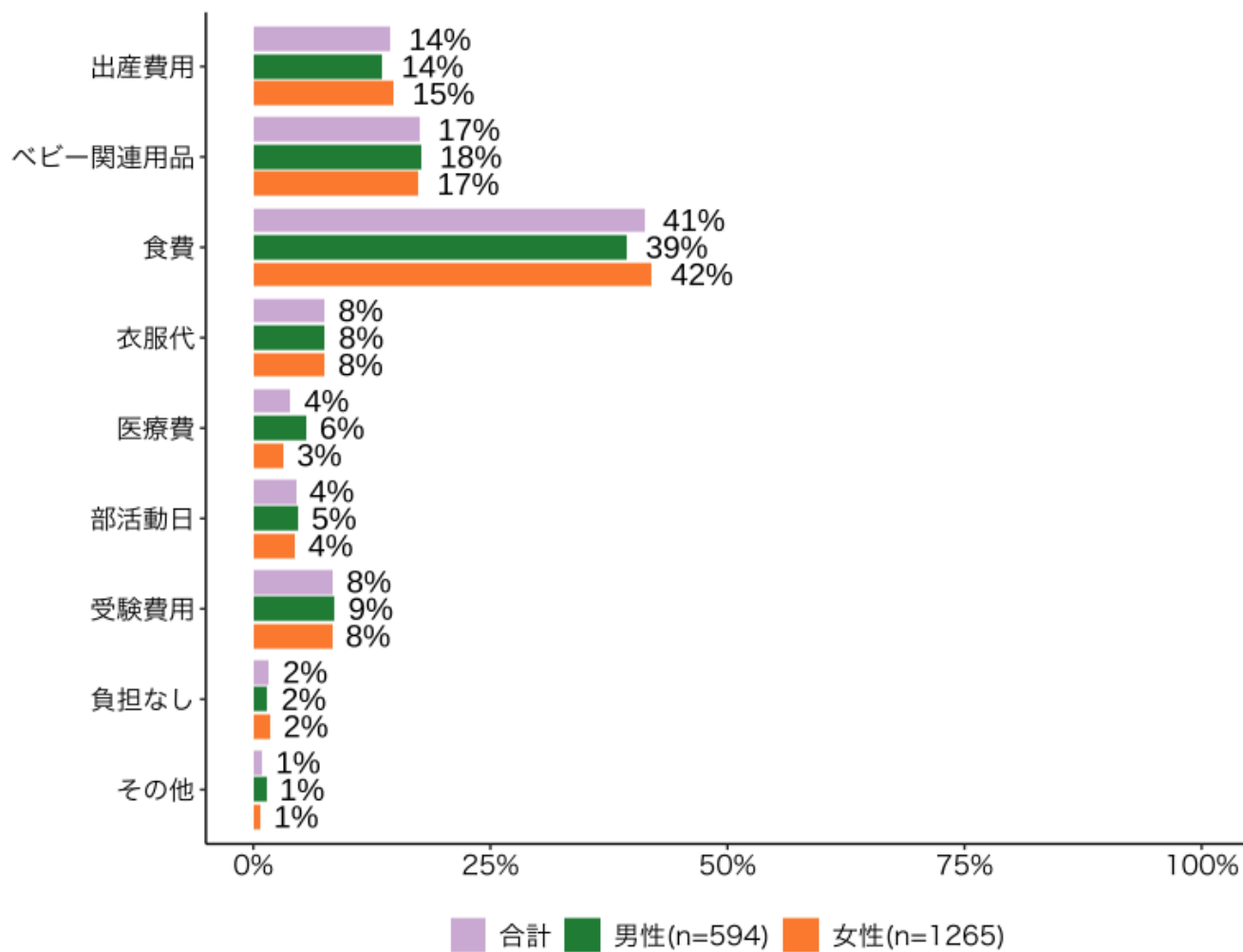
問 39 子育てをするにはお金がかかる現実（イメージ）もありますが、こういった出費が負担になっていますか（なるとおもいますか） 【全員回答】

「教育費」



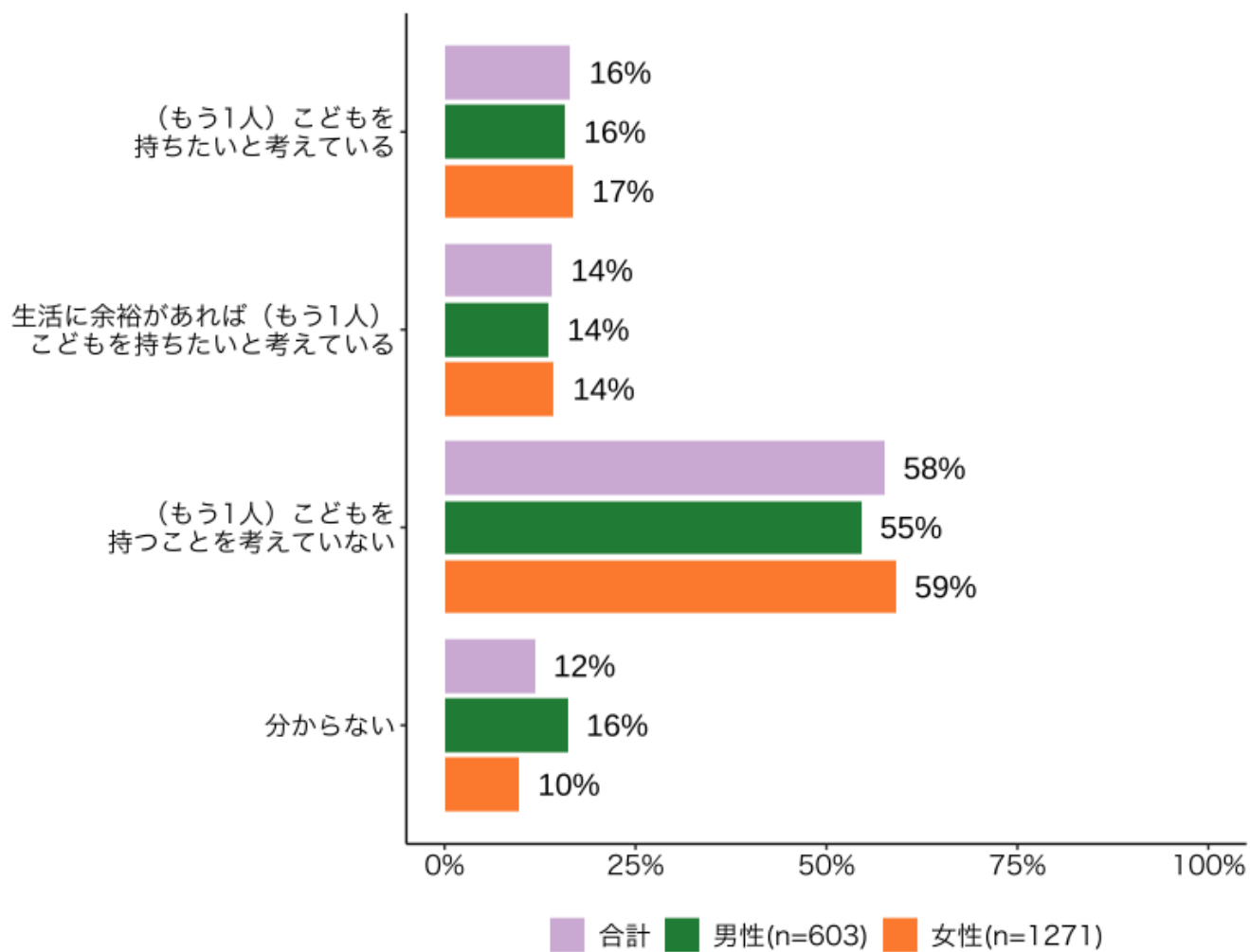
欠損値：男性に32ケース；女性に49ケース

「養育費」



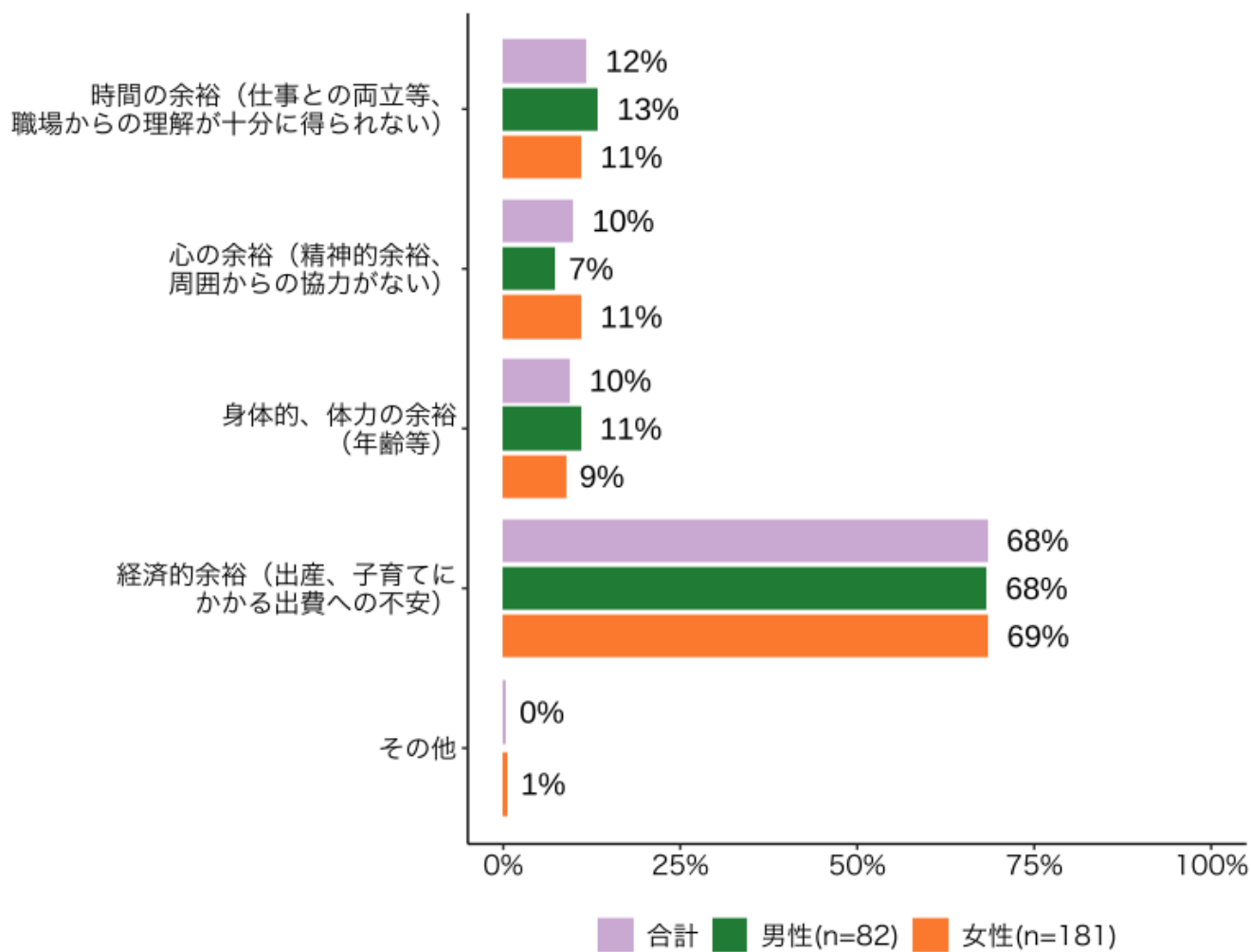
欠損値：男性に38ケース; 女性に60ケース

問 40 今後3年以内に子どもを持ちたいと考えていますか（すでにお子さんがいる方はもう1人持ちたいと考えていますか） 【全員回答】



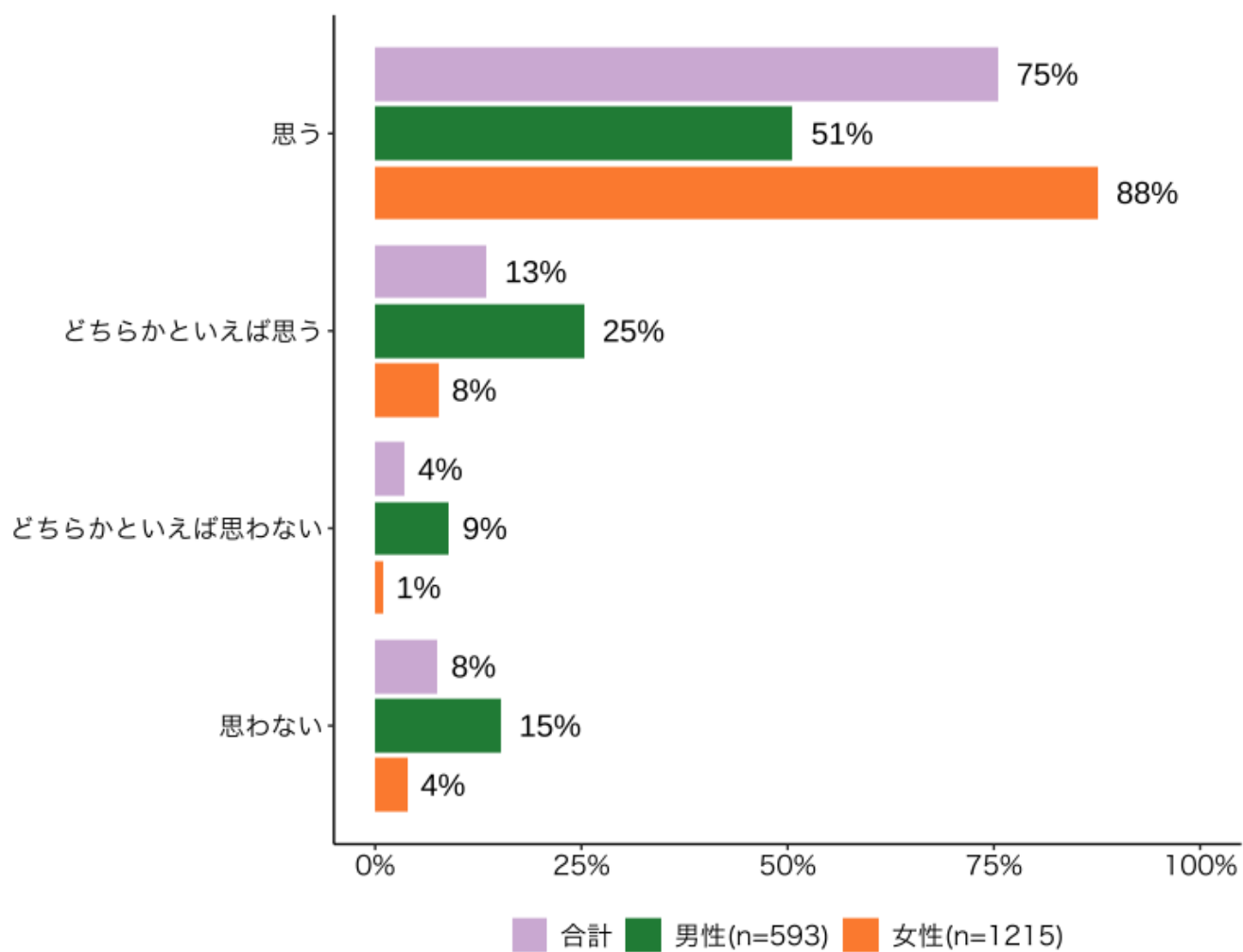
欠損値：男性に29ケース; 女性に54ケース

問 41 (もう1人) こどもを持つために、どんな余裕が不足していると思いますか【問 40  
で②と回答した方のみ回答】



欠損値：女性に1ケース;

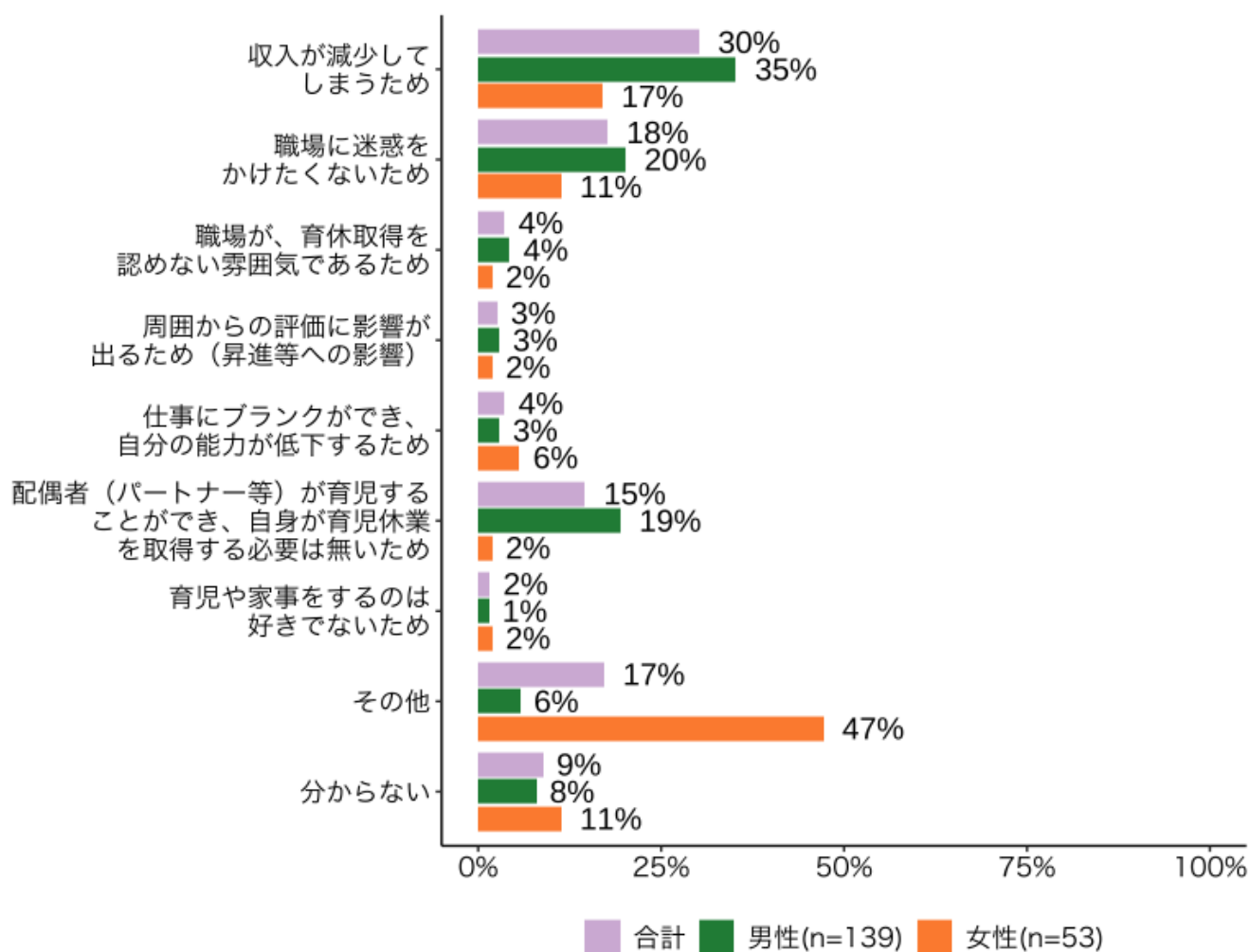
問 42 （こどもを持った場合に、1 カ月以上の）育休を取得したいと思いますか【全員回答】



欠損値：男性に39ケース; 女性に110ケース

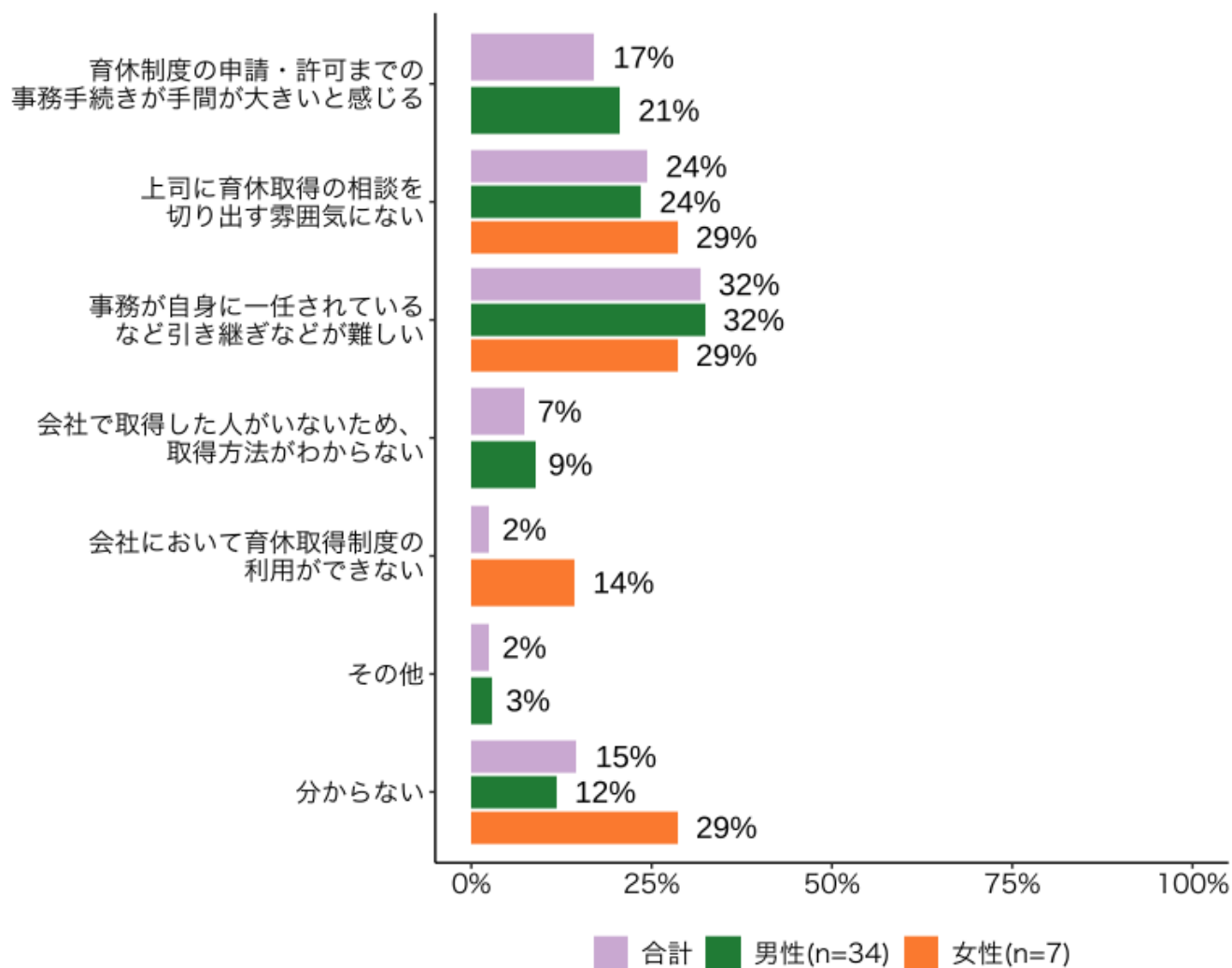


問 43 1 か月以上の育児休業取得を希望しない理由は何ですか【問 42 で③、④と回答した方のみ回答】



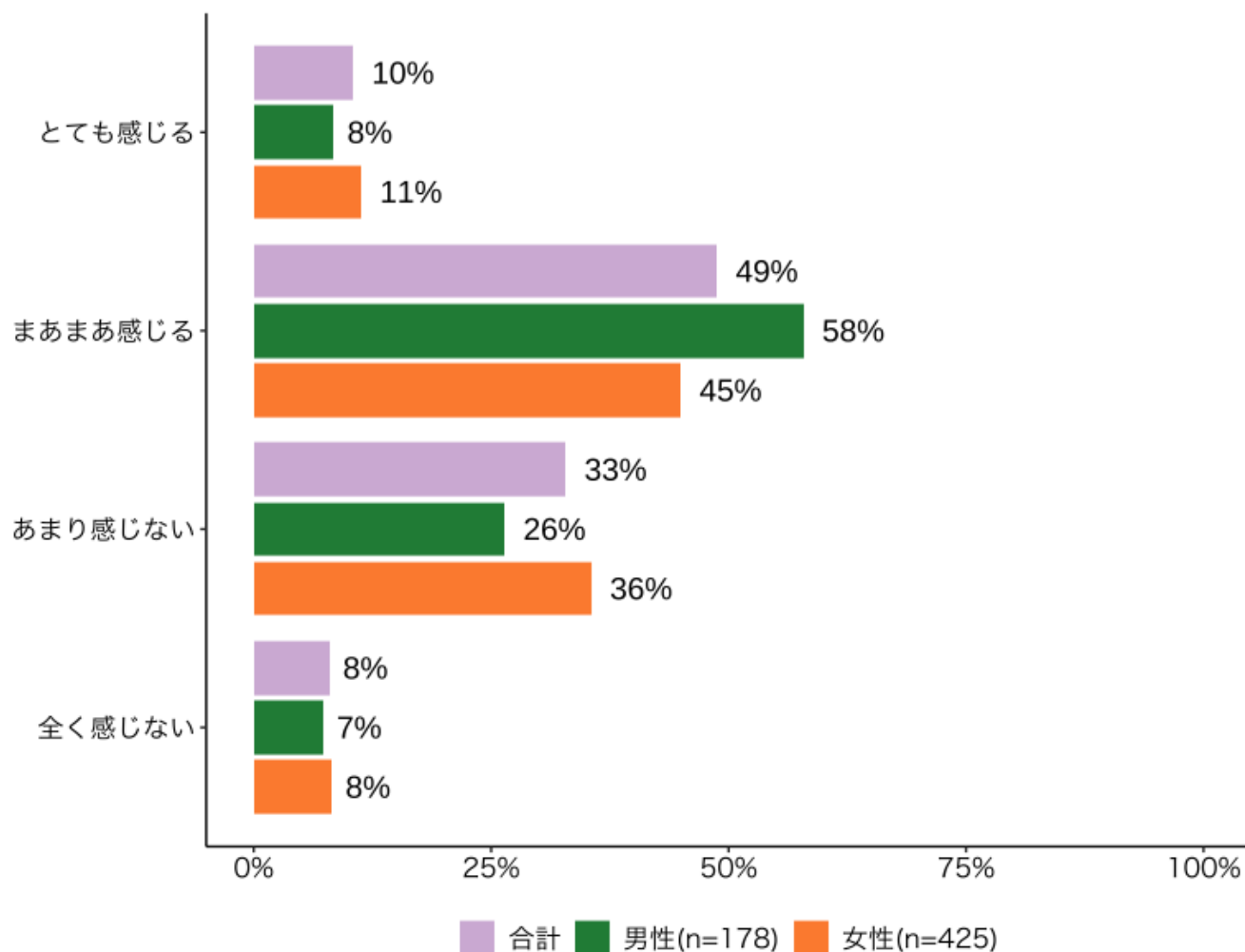
欠損値：男性に4ケース; 女性に5ケース

問 44 育休取得に関して職場におけるハードルがあると感じますか【問 43 で②、③と回答した方のみ回答】



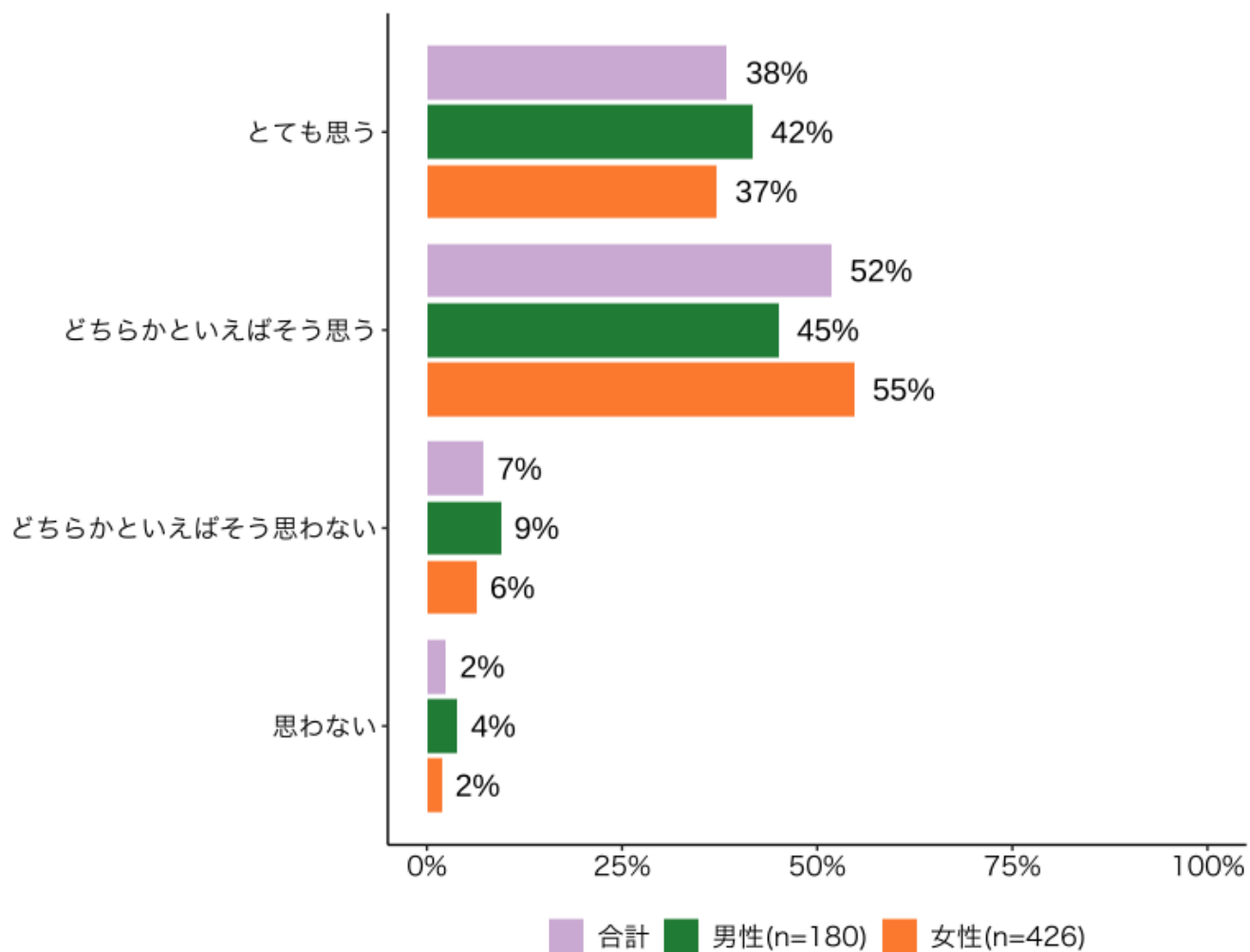
#### 4. 子育てにかかる環境に関すること

問 45 居住している地域は、地域住民とこどもの関わりが深いと感じるか【問 40 で①または②と回答、または問 10 で①～⑤と回答した方のみ】



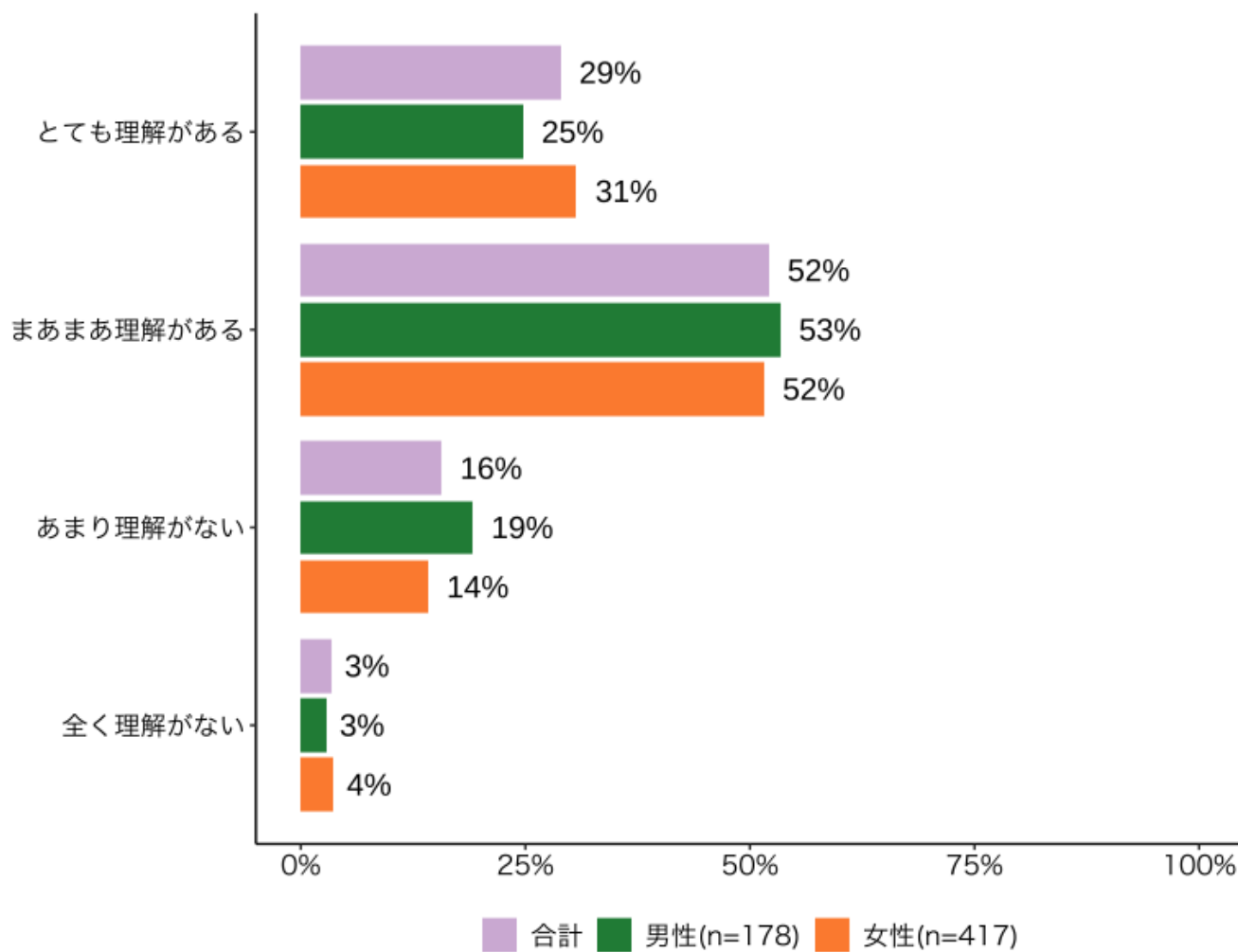
欠損値：男性に323ケース; 女性に764ケース

問 46 こどもの健やかな成長のために地域の協力（見守り活動や、こどもが参加するイベントの実施）が必要だと思いますか【問 40 で①または②と回答、または問 10 で①～⑤と回答した方のみ】



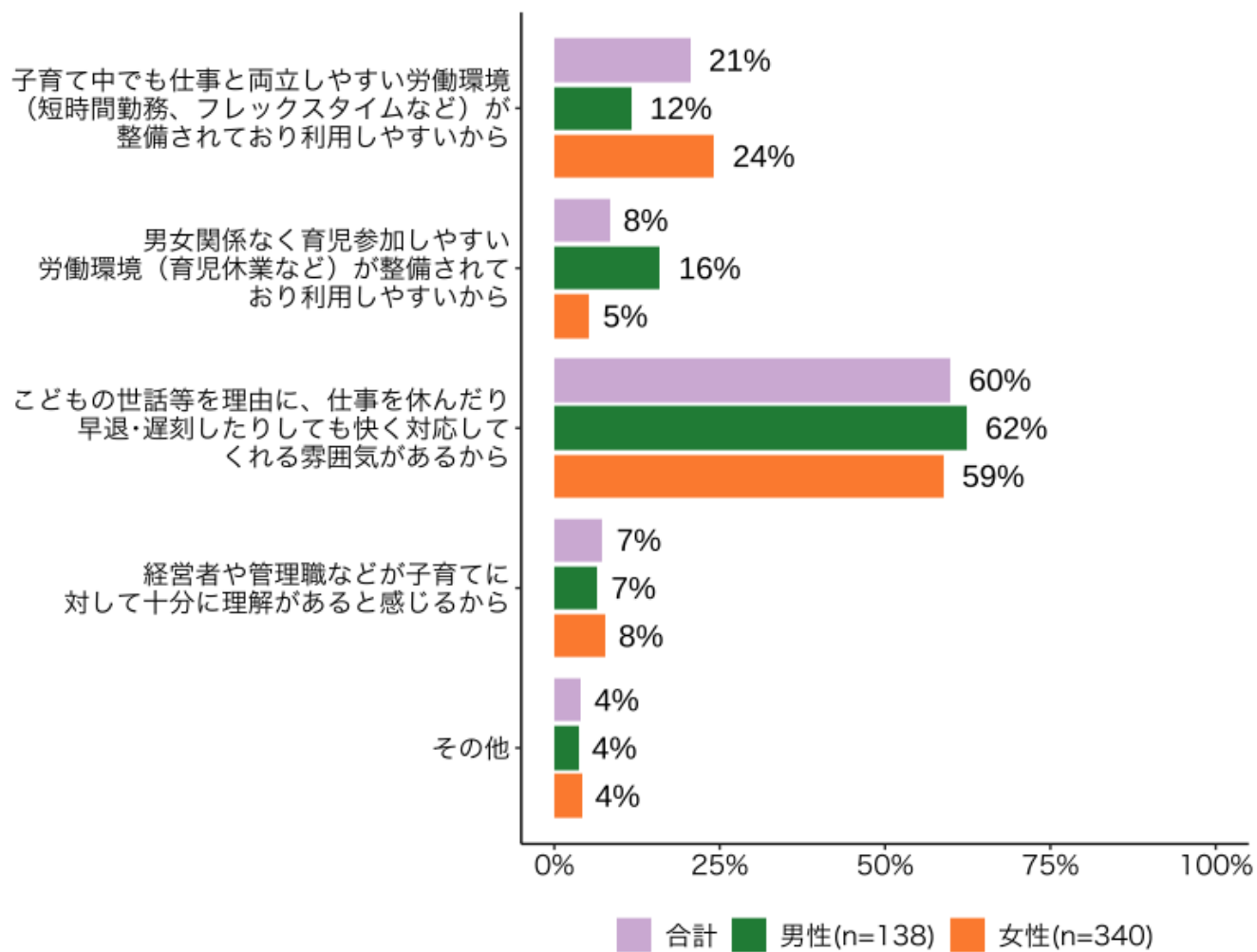
欠損値：男性に321ケース; 女性に763ケース

問 47 職場において子育てへの理解は十分にあると思いますか【問 40 で①または②と回答、または問 10 で①～⑤と回答した方のみ】



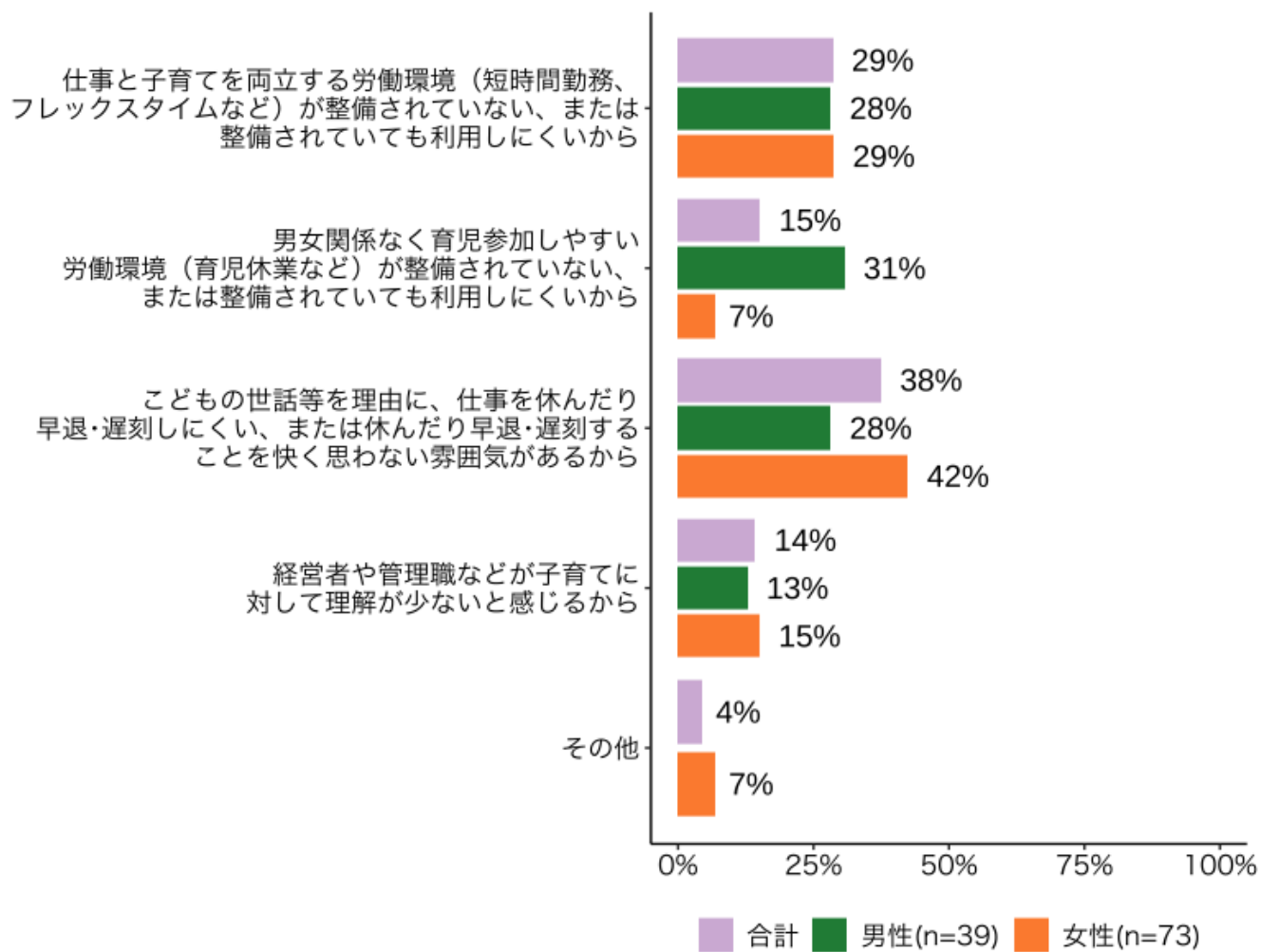
欠損値：男性に323ケース; 女性に772ケース

問 48 理解があると回答した理由【問 47 で①、②と回答した方のみ】



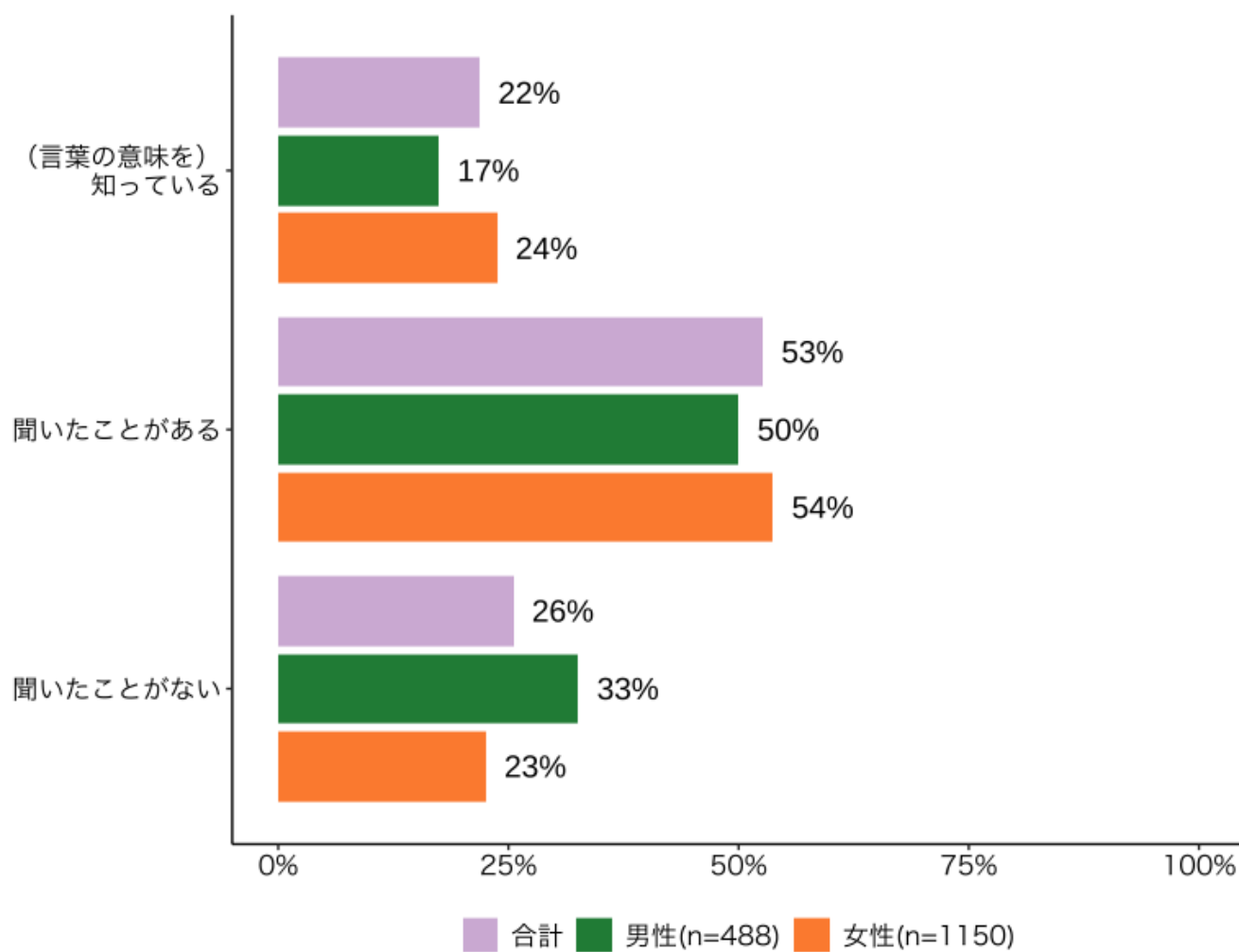
欠損値：男性に1ケース; 女性に3ケース

問 49 理解がないと回答した理由【問 47 で③、④と回答した方のみ】



欠損値：女性に1ケース；

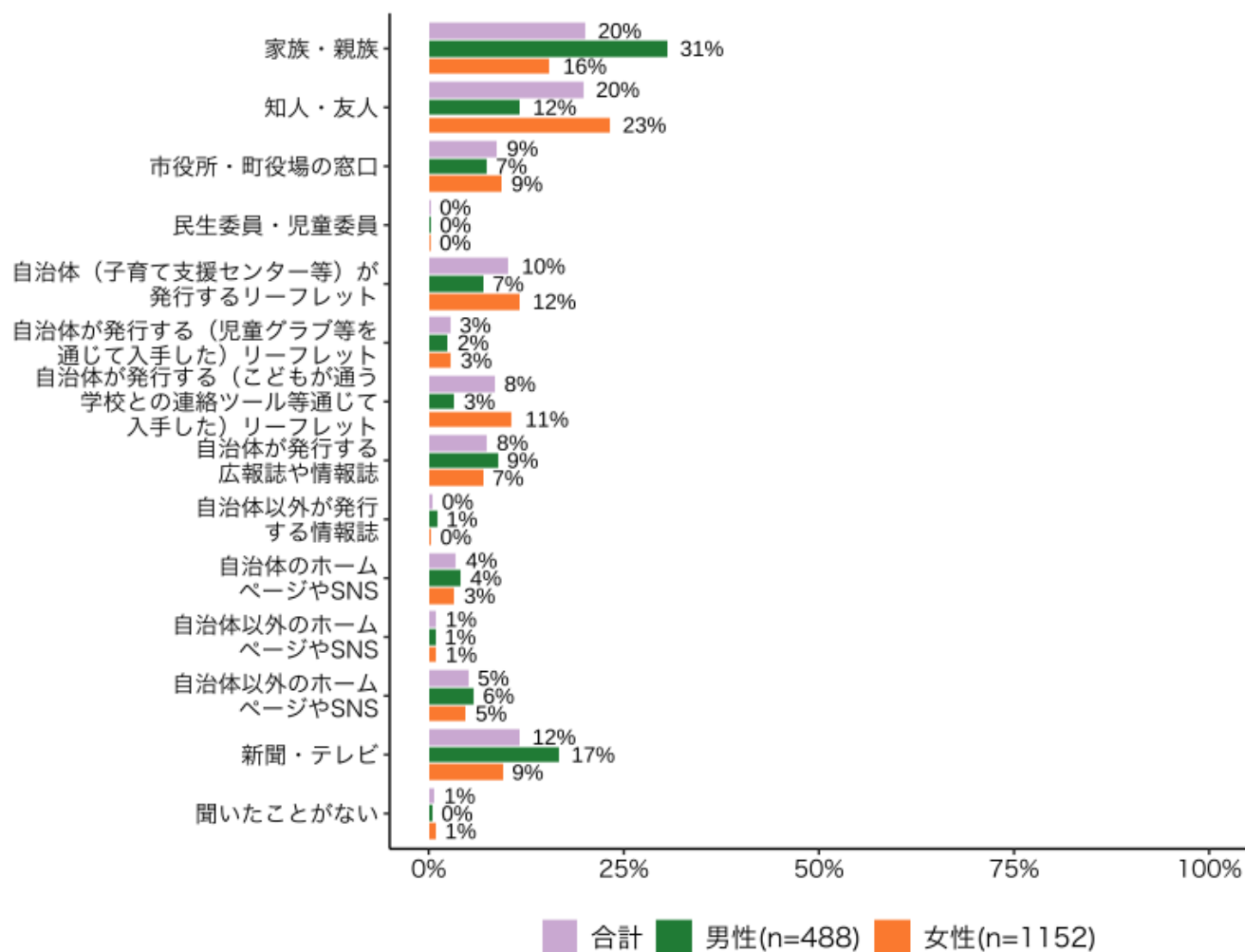
問 50 「ふく育県」という言葉を知っていますか【問 40 で①または②と回答、または問 10 で①～⑤と回答した方のみ】



欠損値：男性に13ケース; 女性に39ケース

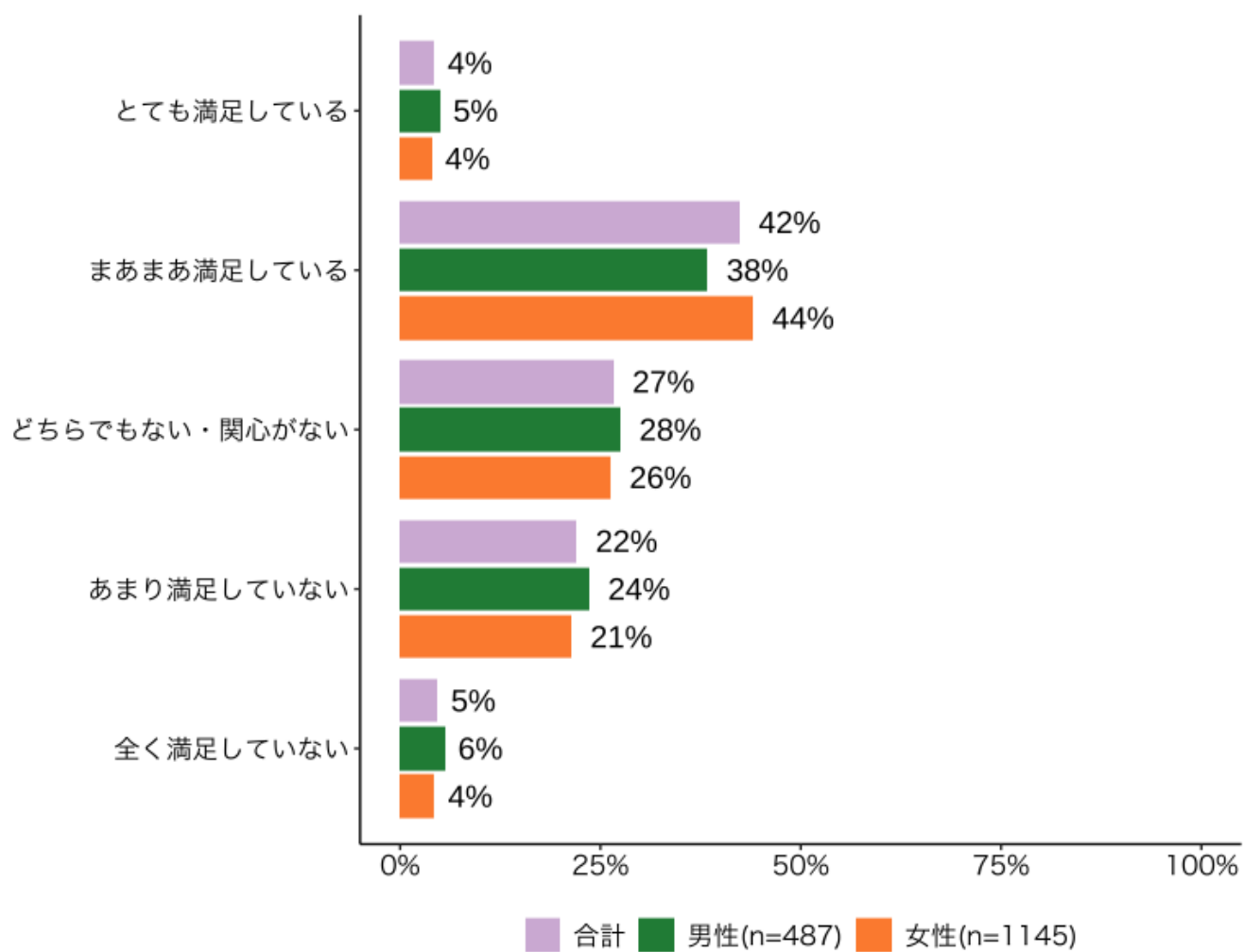


問 51 福井県が実施する、子育て支援サービスの情報は、どこから情報を入手していますか  
 【問 40 で①または②と回答、または問 10 で①～⑤と回答した方のみ】



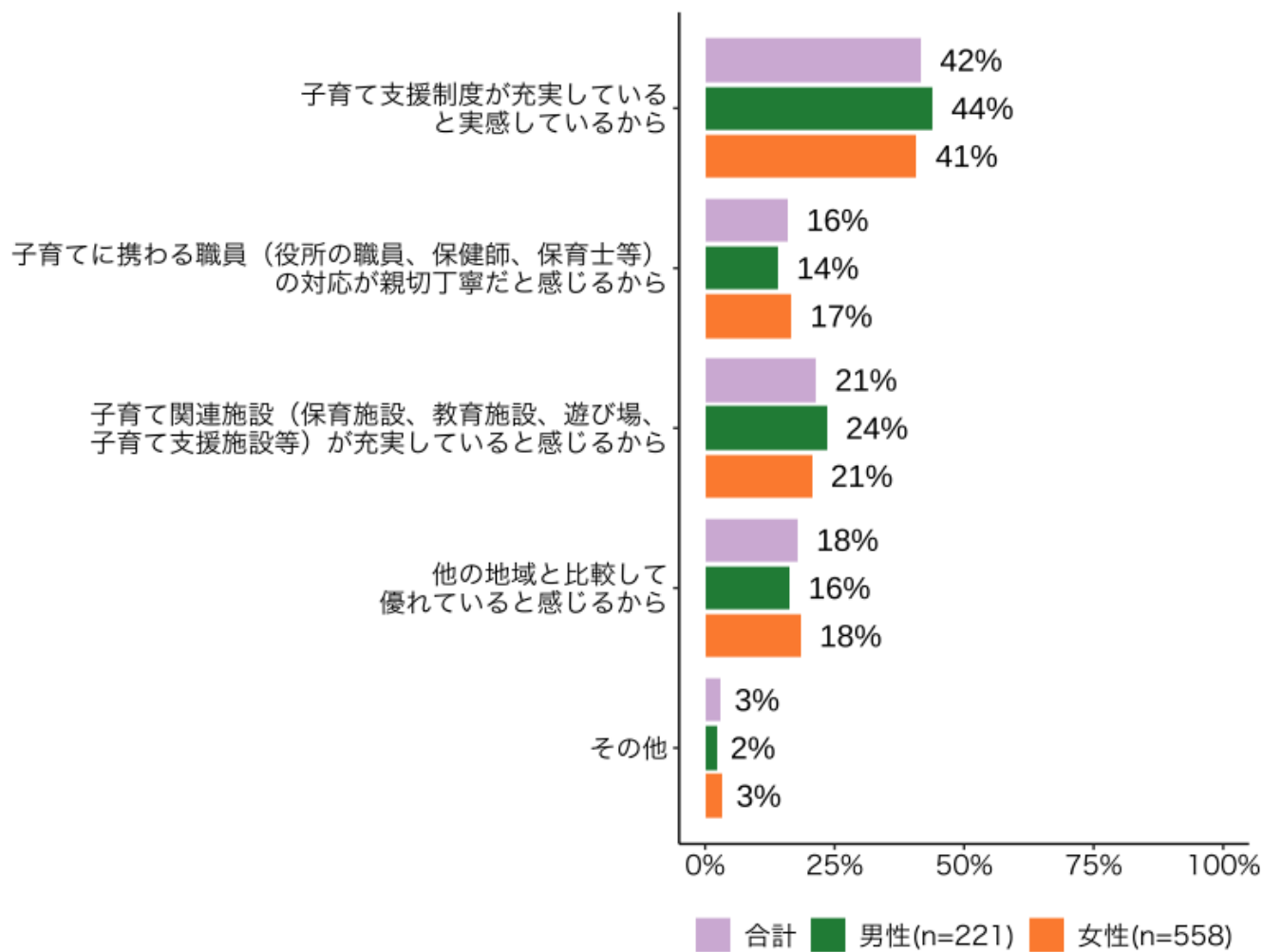
欠損値：男性に13ケース；女性に37ケース

問 52 居住している地域（福井県）の行政による子育て支援に満足していますか【問 40 で①または②と回答、または問 10 で①～⑤と回答した方のみ】



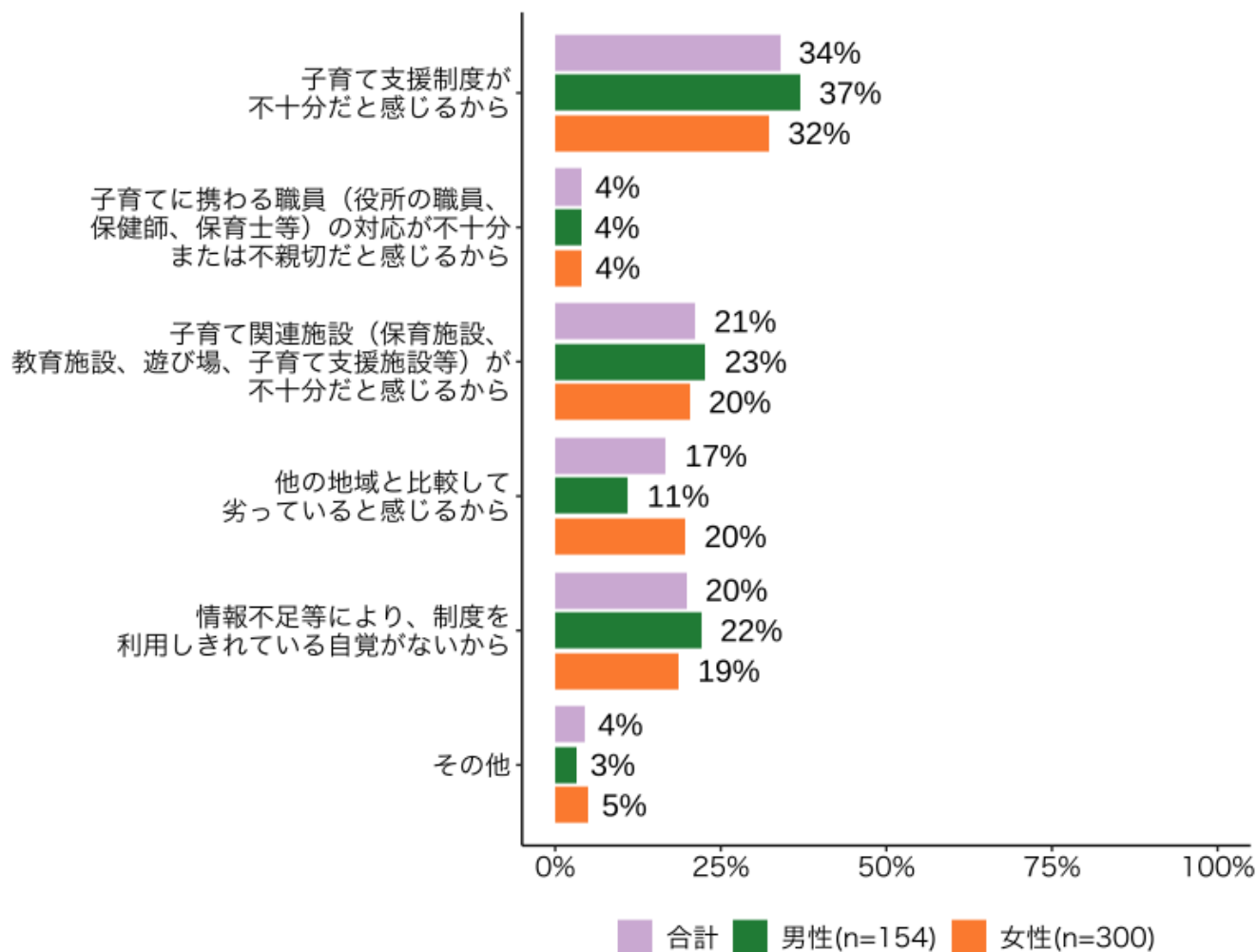
欠損値：男性に14ケース; 女性に44ケース

問 53 満足していると回答した理由【問 52 で①、②と回答した方のみ】



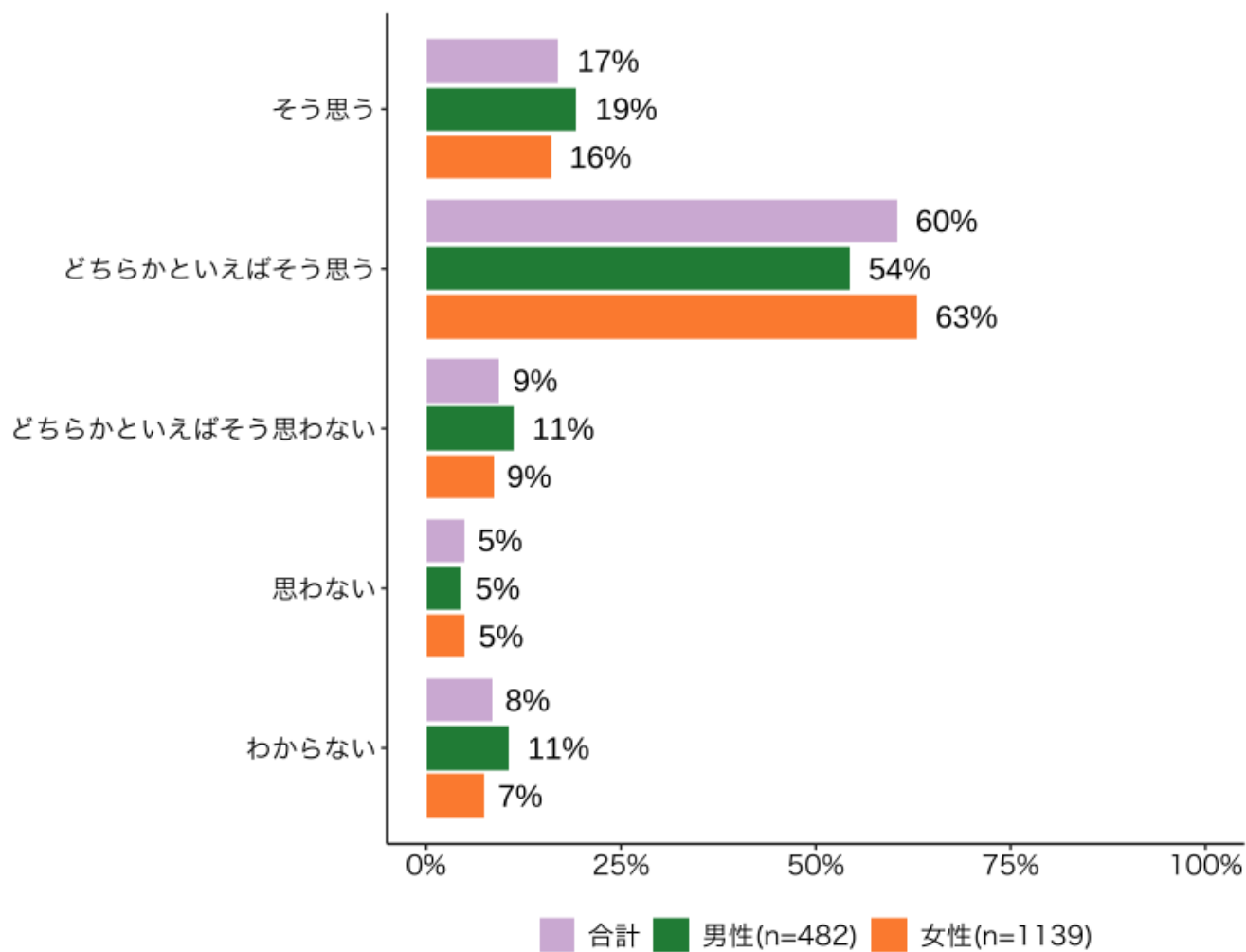
欠損値：男性に2ケース; 女性に7ケース

問 54 満足していないと回答した理由【問 52 で④、⑤と回答した方のみ】



欠損値：男性に1ケース; 女性に3ケース

問 55 福井県は子育てしやすい県だと思いますか【問 40 で①または②と回答、または問 10 で①～⑤と回答した方のみ】

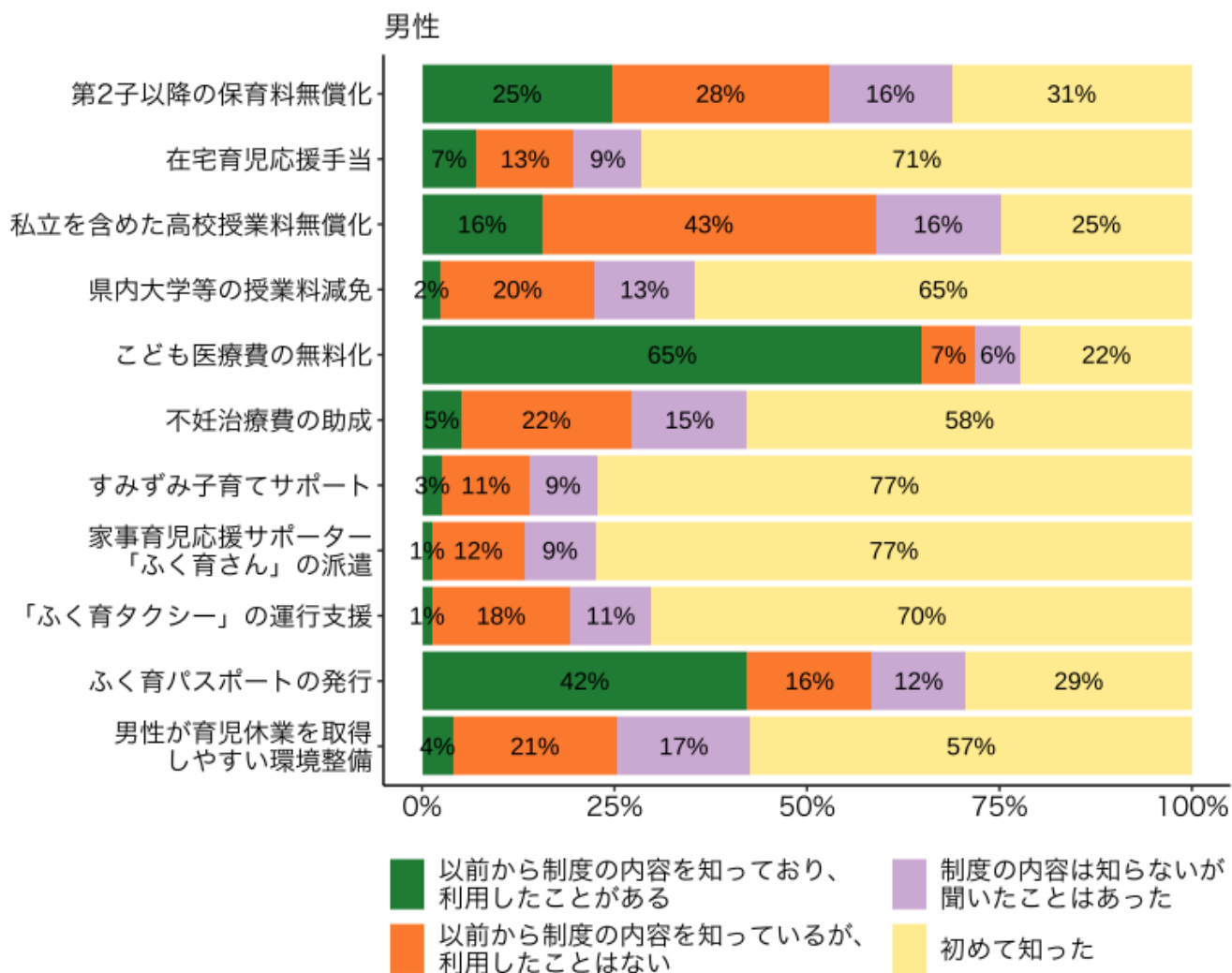


欠損値：男性に19ケース；女性に50ケース

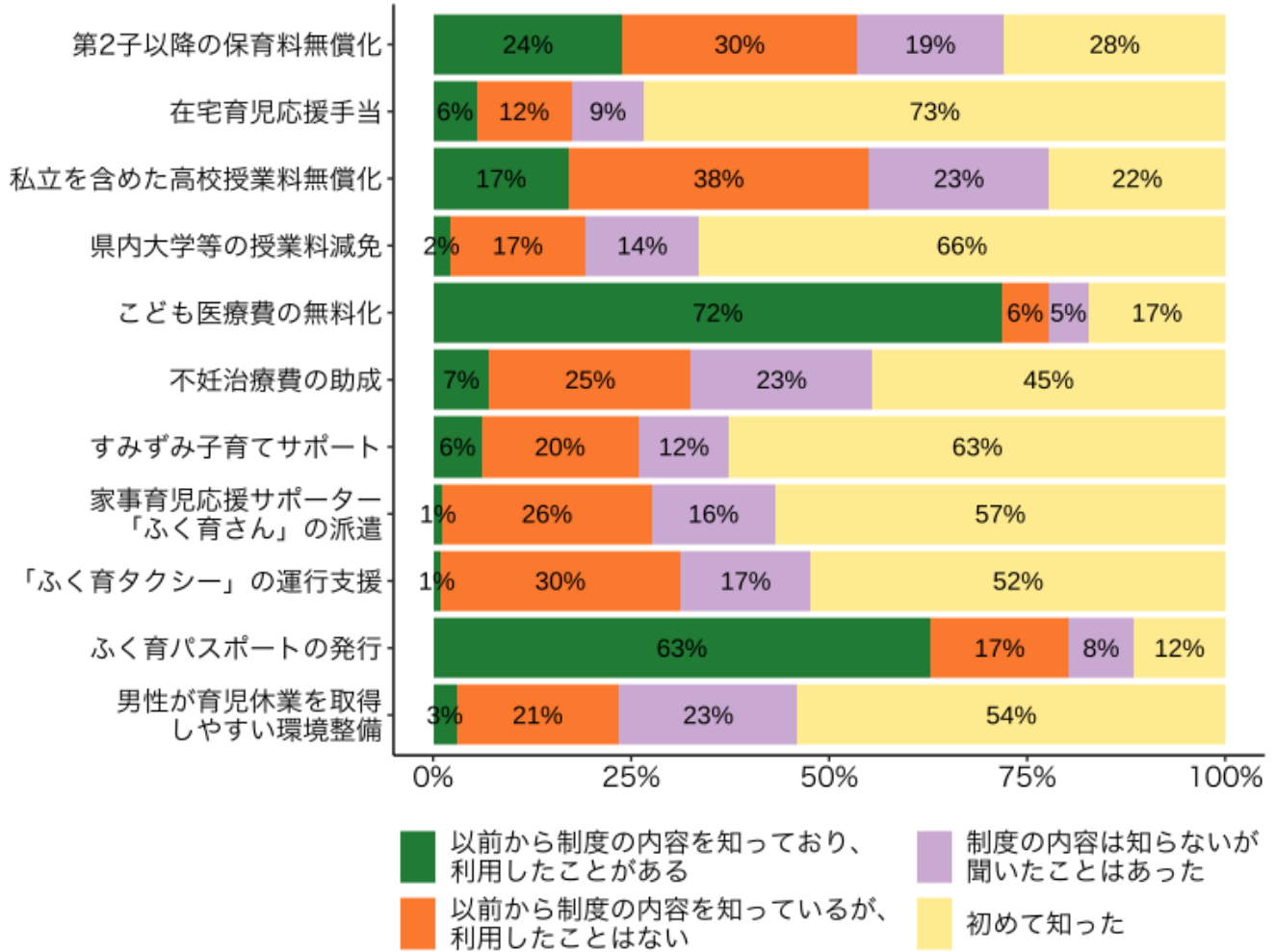
## 5. 既存の子育て支援策に関すること

問 56 福井県が独自に実施している子育て支援策の評価【問 5 で①、または問 10 で①～⑤と回答している方のみ】

制度を知っていたかどうか



女性



男性

全天候型こどもの遊び場整備

18%

14%

68%

子育てに対する機運醸成

6%

11%

82%

共家事の促進

6%

10%

83%

0%

25%

50%

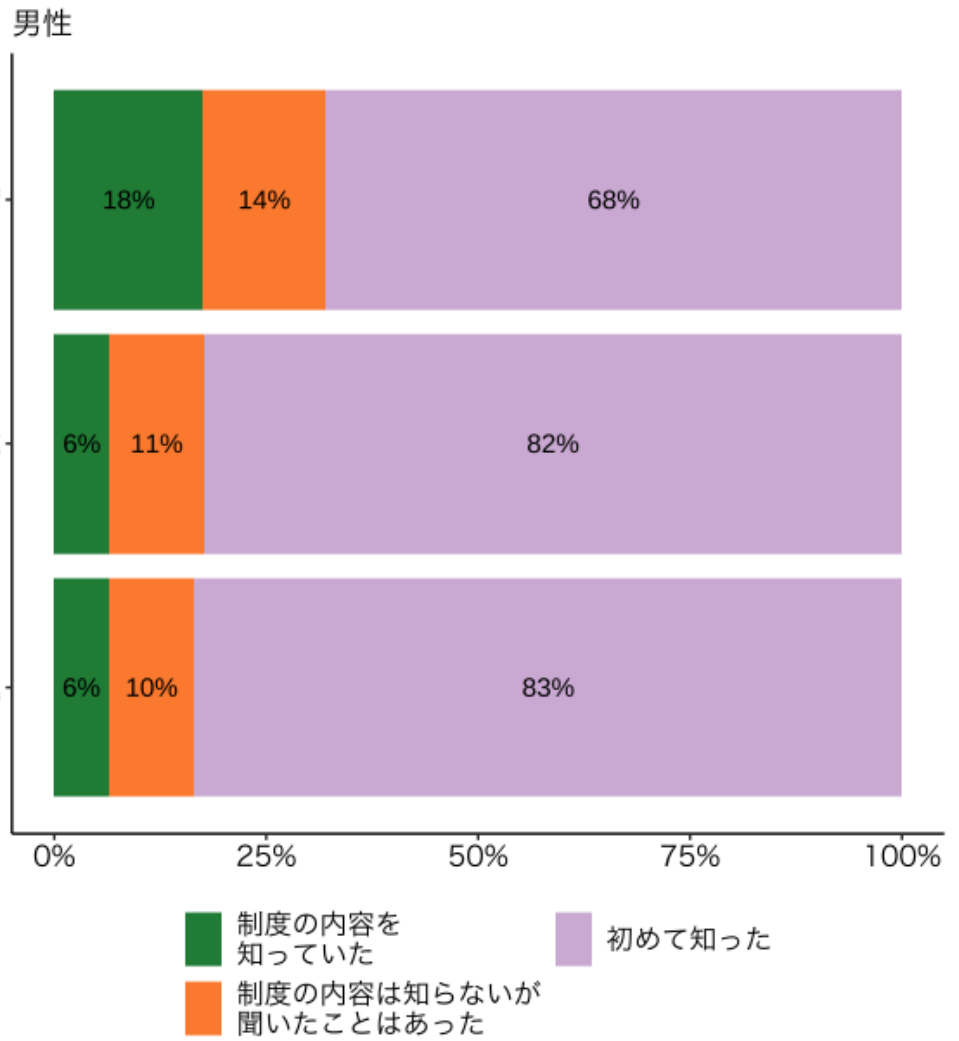
75%

100%

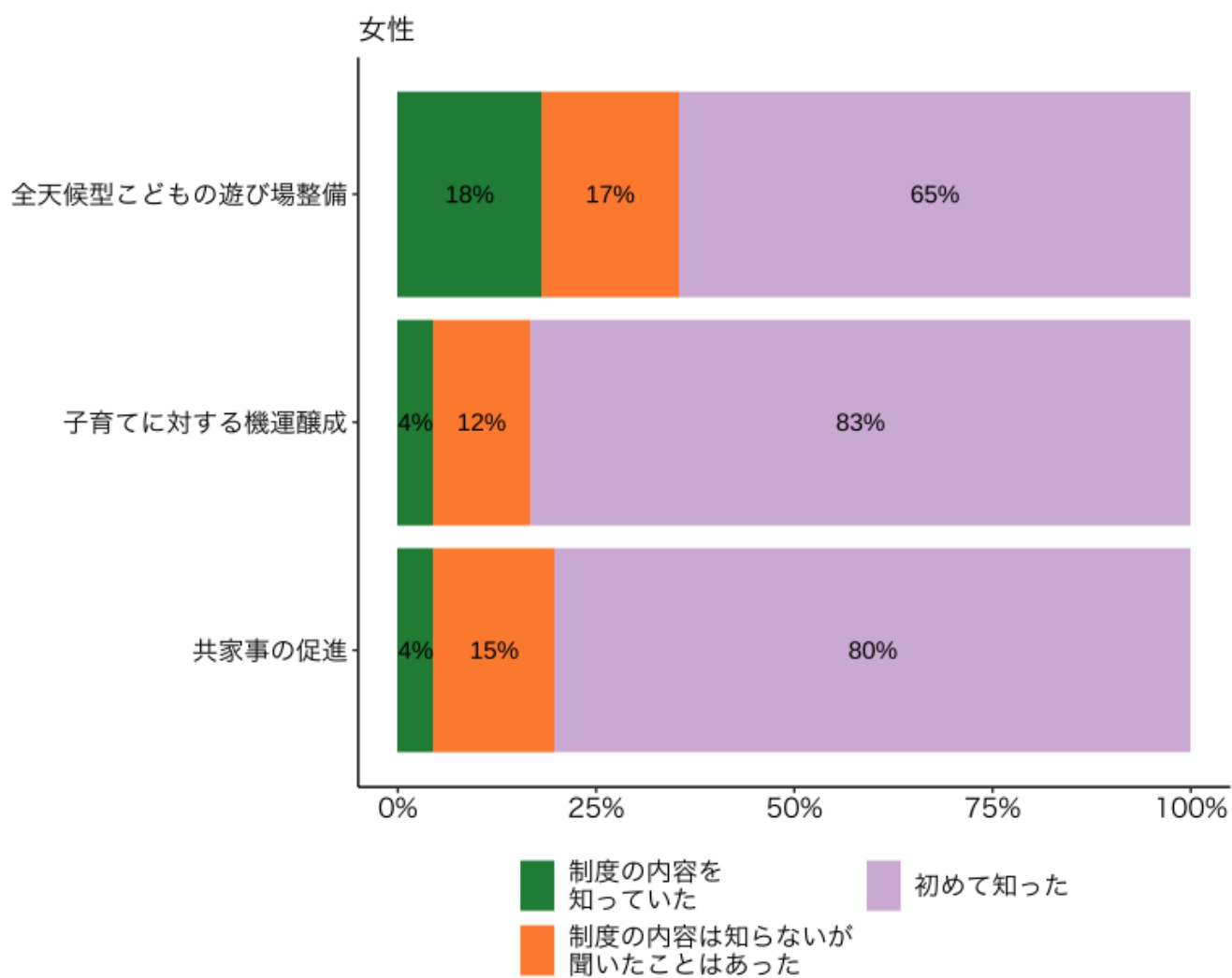
■ 制度の内容を  
知っていた

■ 制度の内容は知らないが  
聞いたことはあった

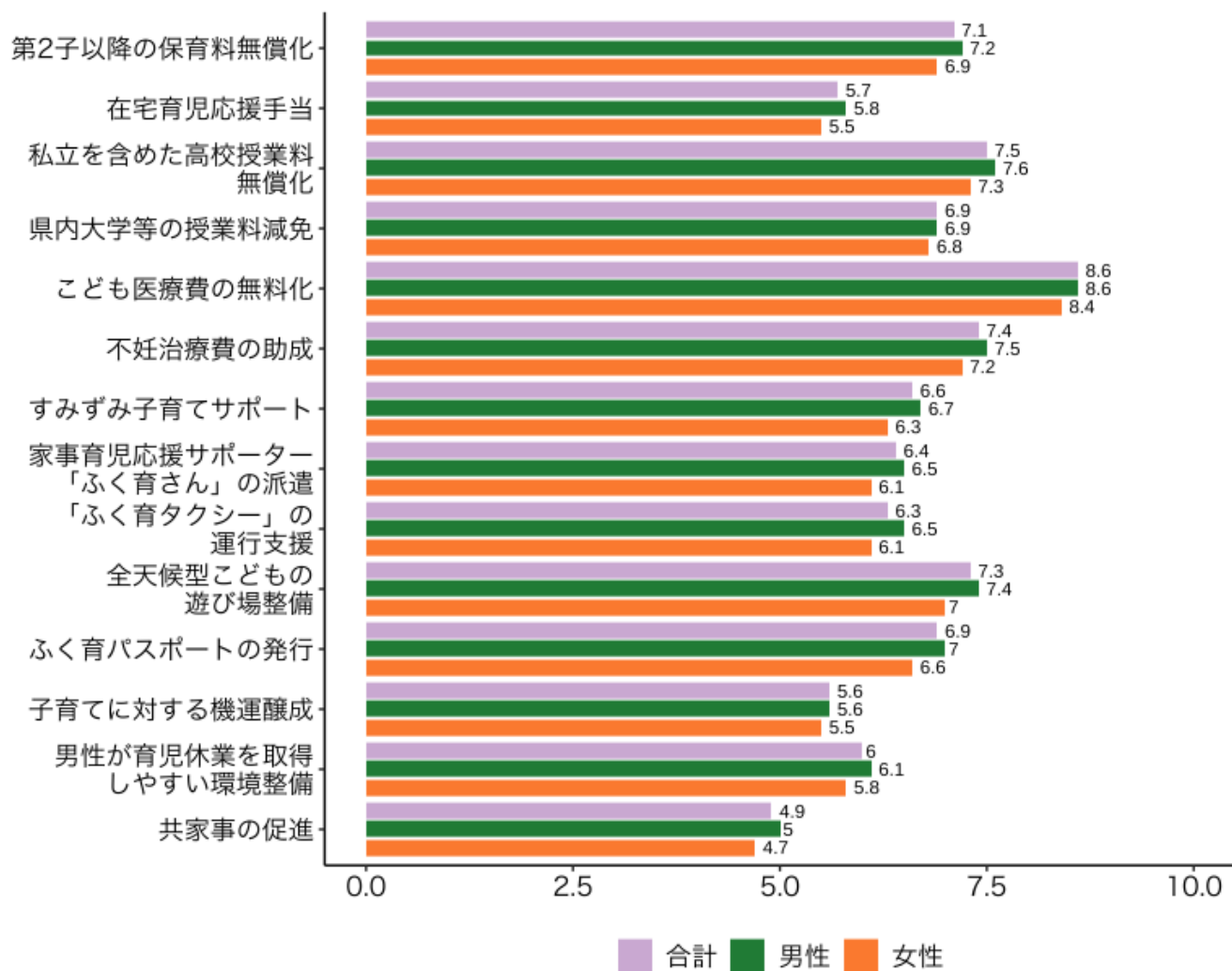
■ 初めて知った





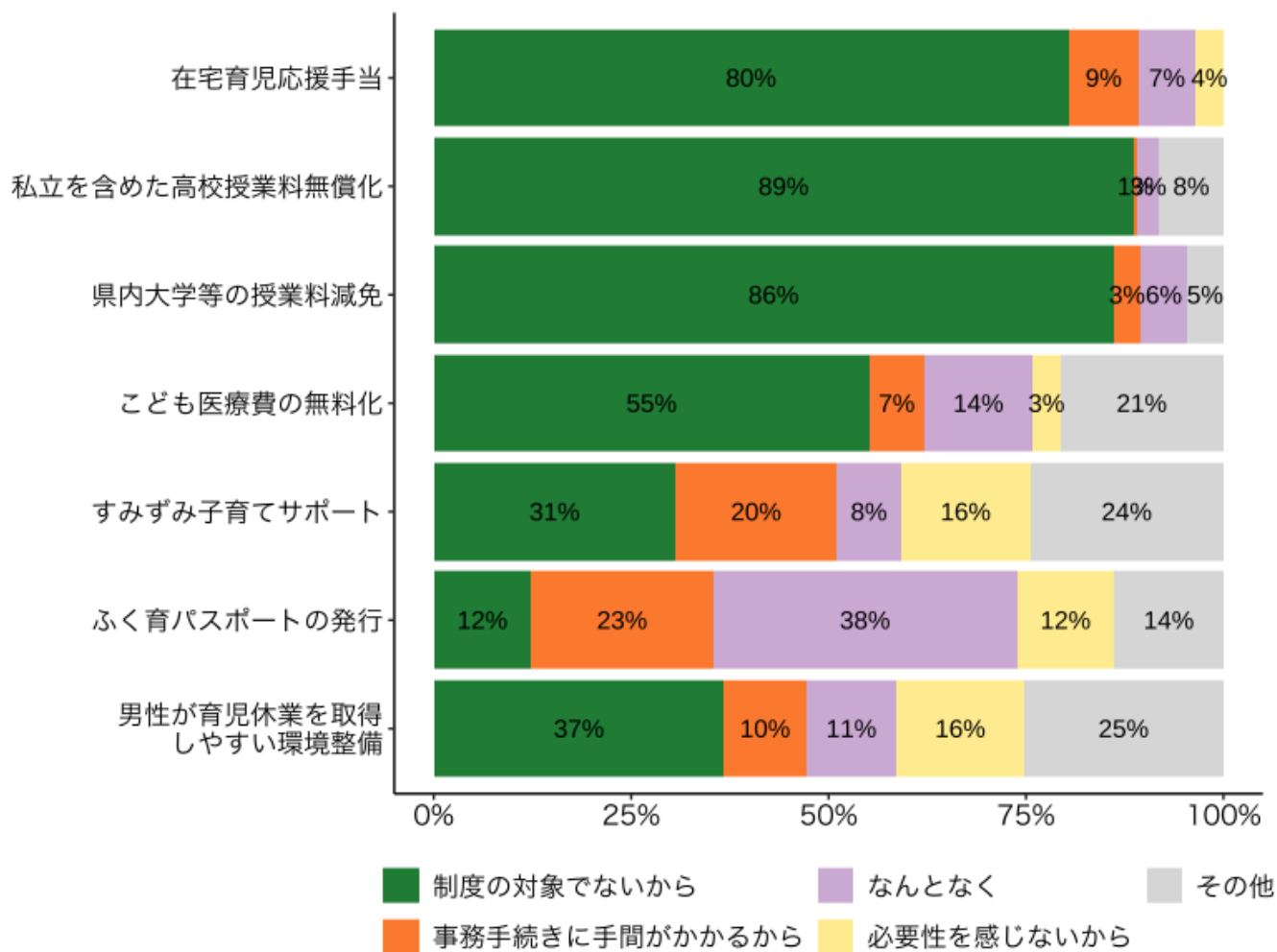


## 制度に対する評価

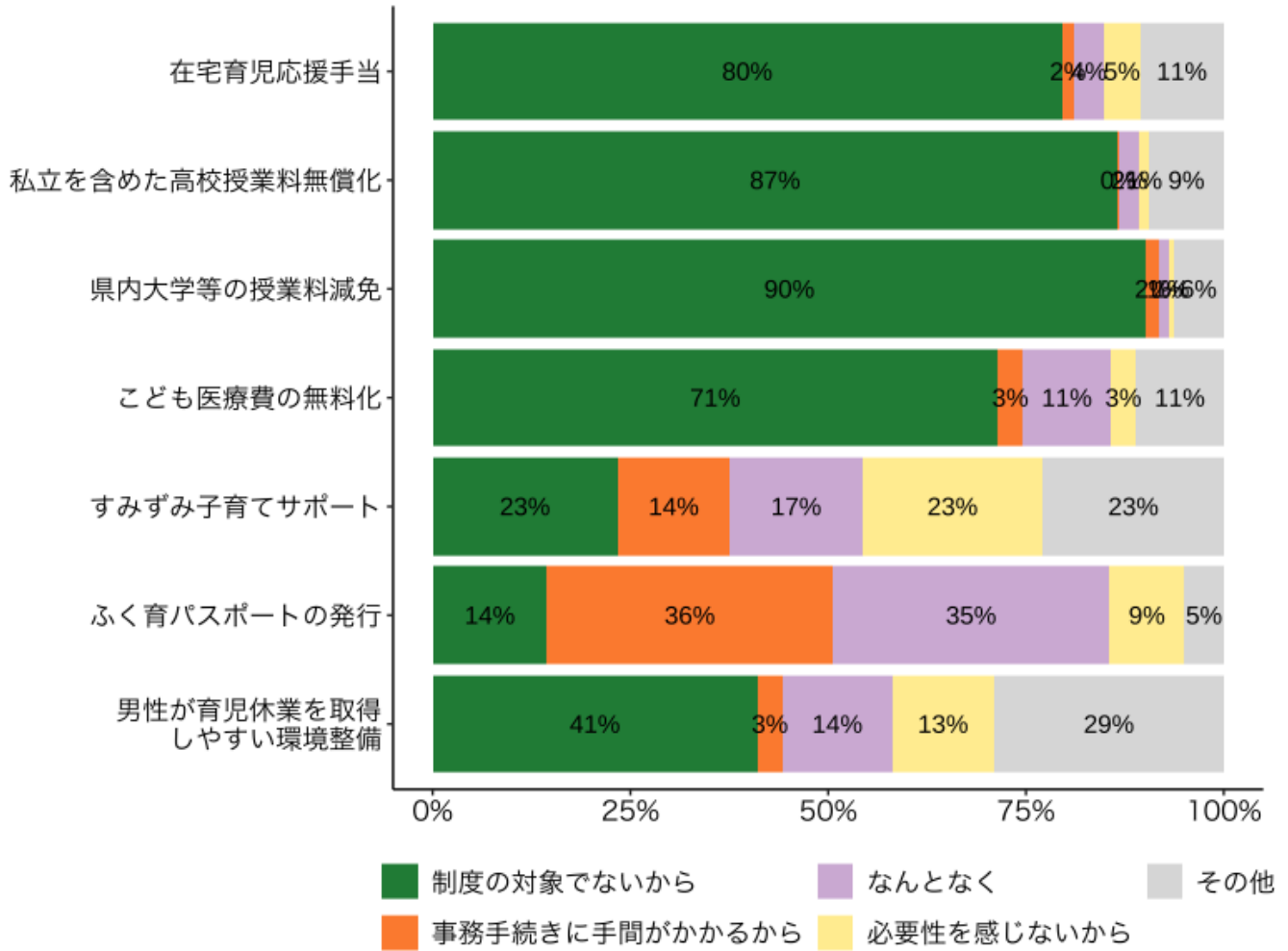


## 利用していない理由

男性



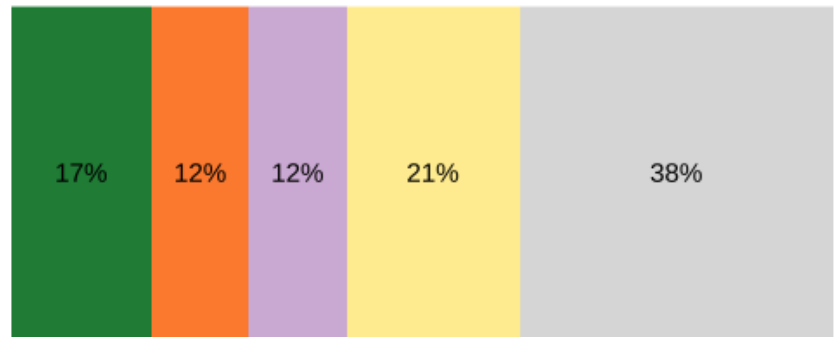
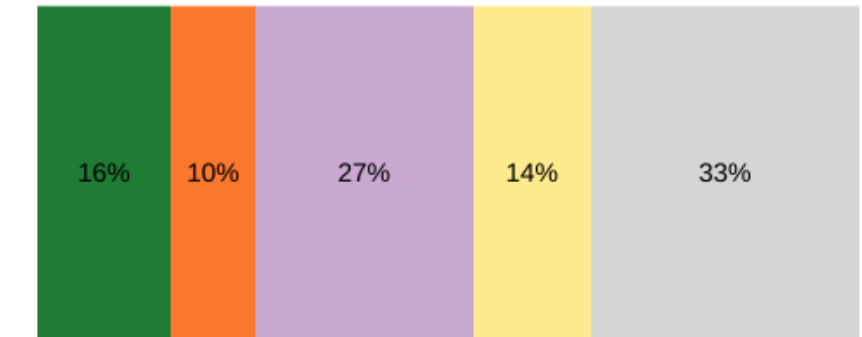
女性



男性

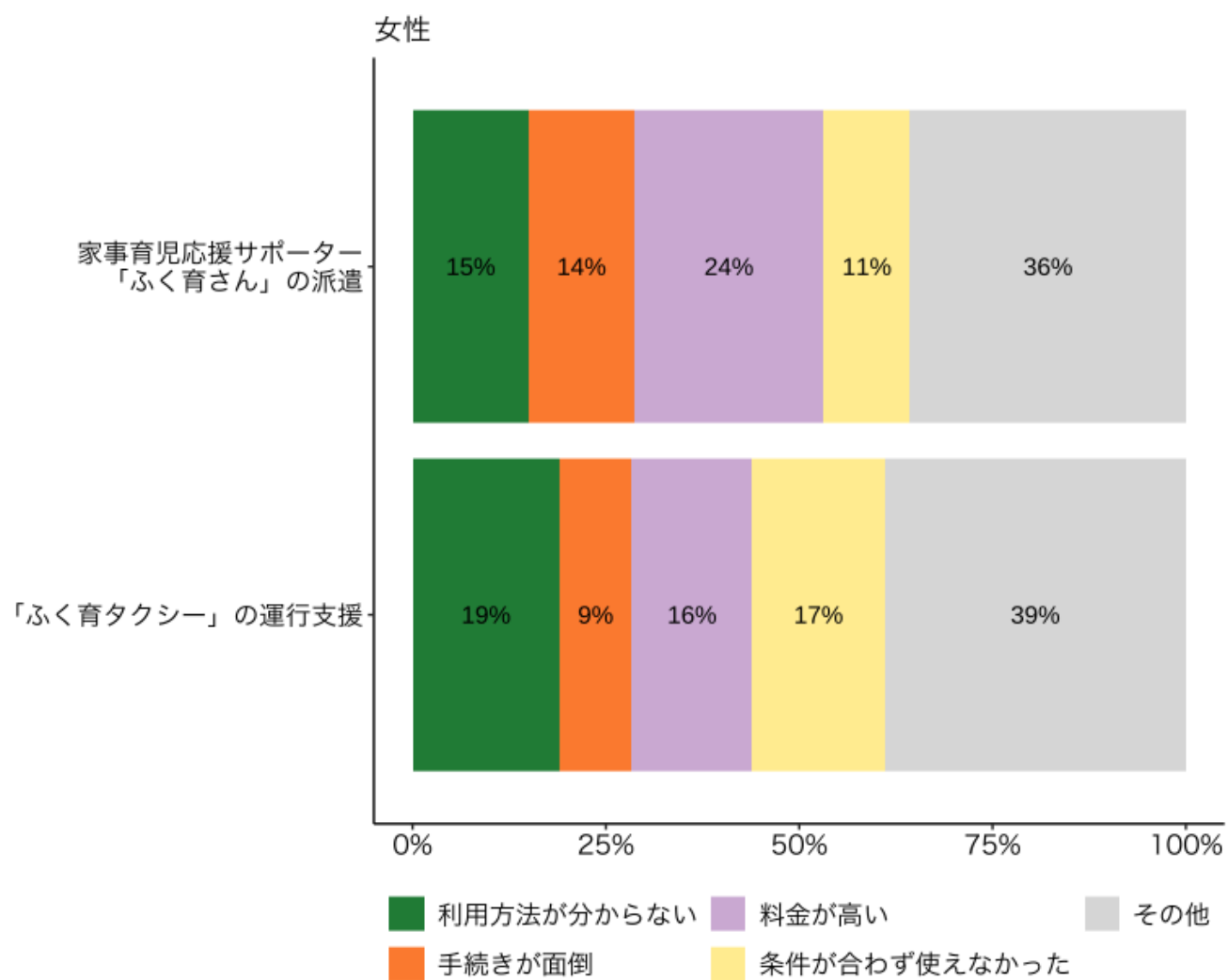
家事育児応援サポーター  
「ふく育さん」の派遣

「ふく育タクシー」の運行支援

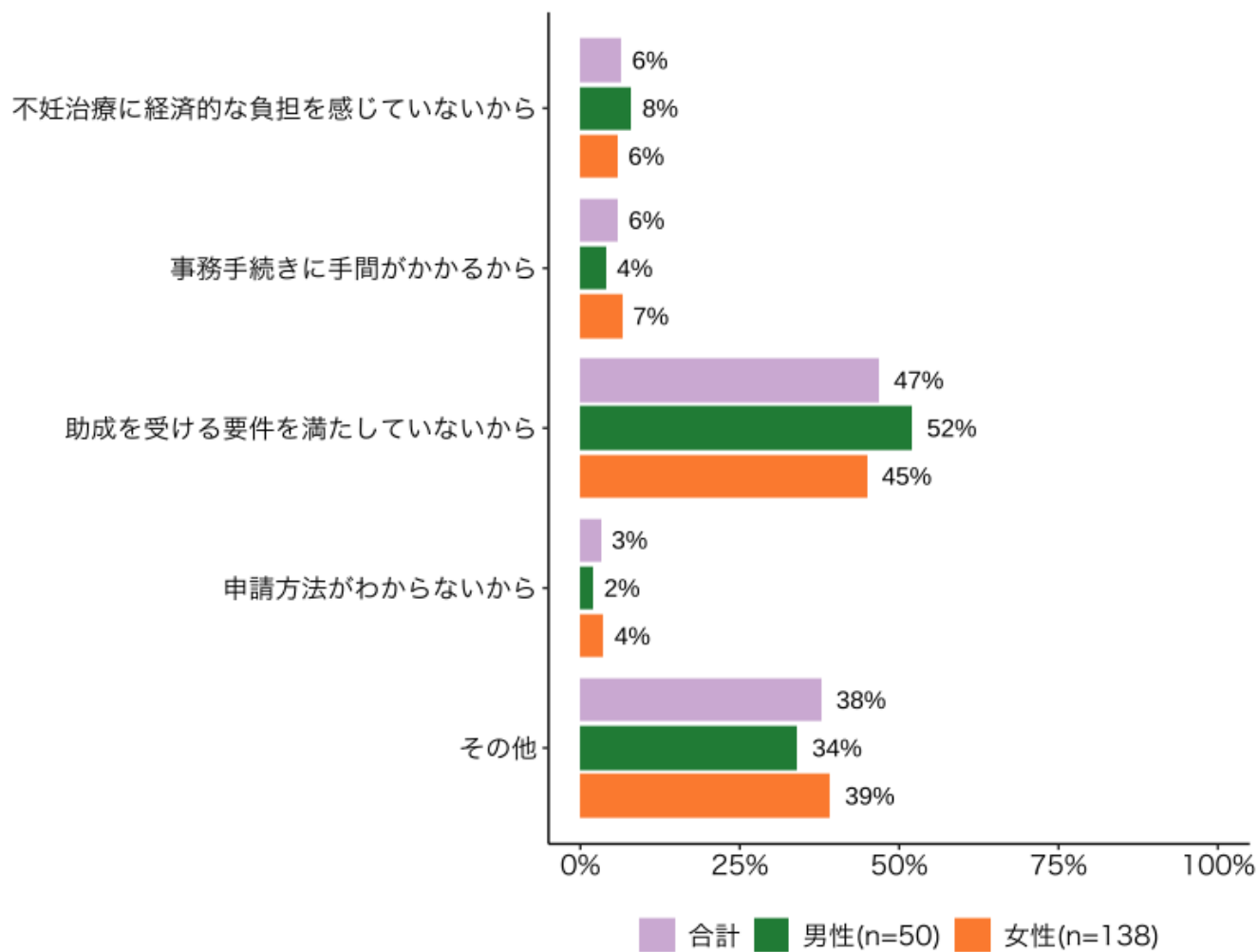


0% 25% 50% 75% 100%

■ 利用方法が分からない ■ 料金が低い ■ その他  
■ 手続きが面倒 ■ 条件が合わず使えなかった

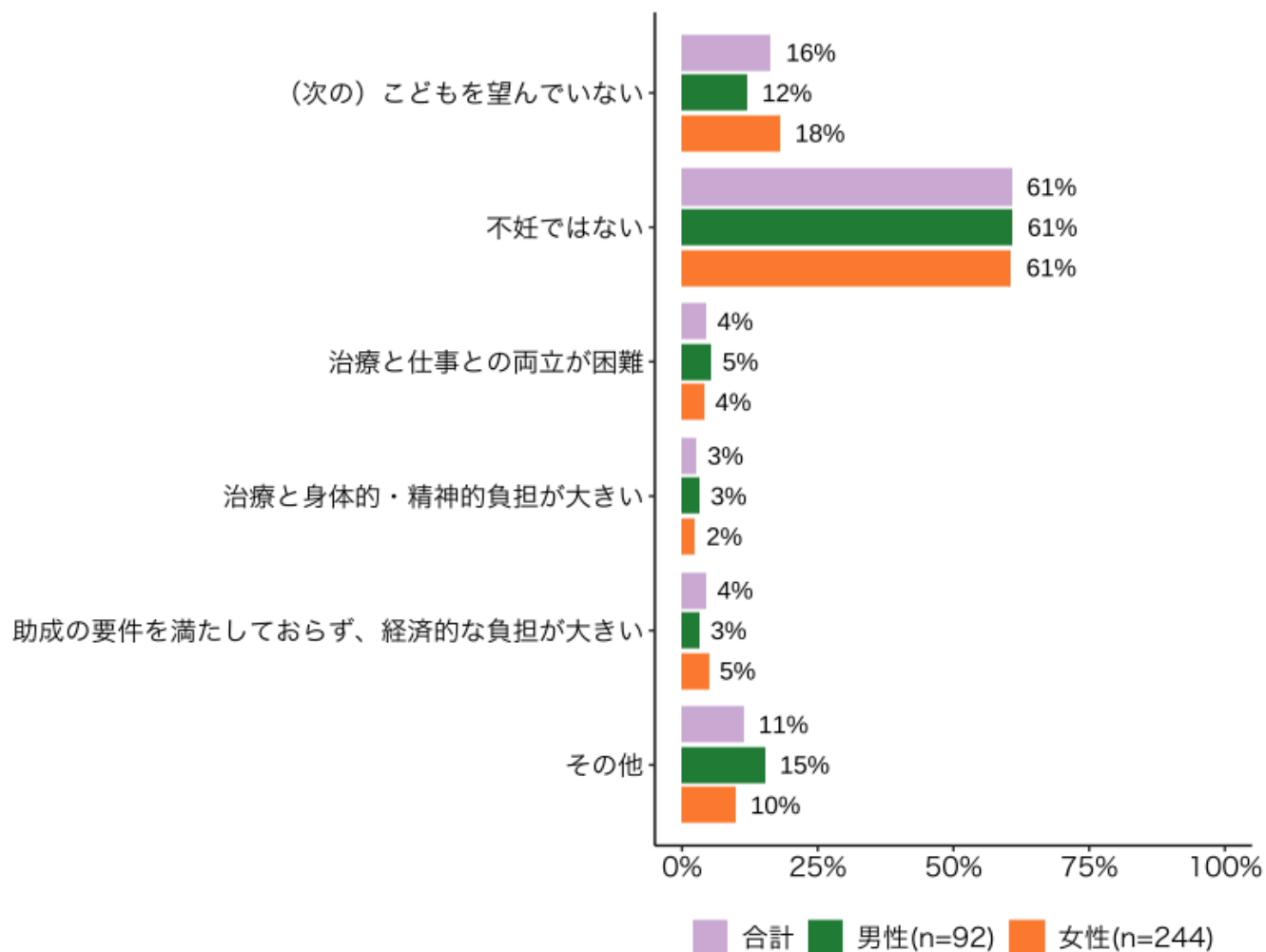


不妊治療費の助成について。 不妊治療を受けているが、制度を利用していない理由



欠損値：男性に50ケース; 女性に142ケース

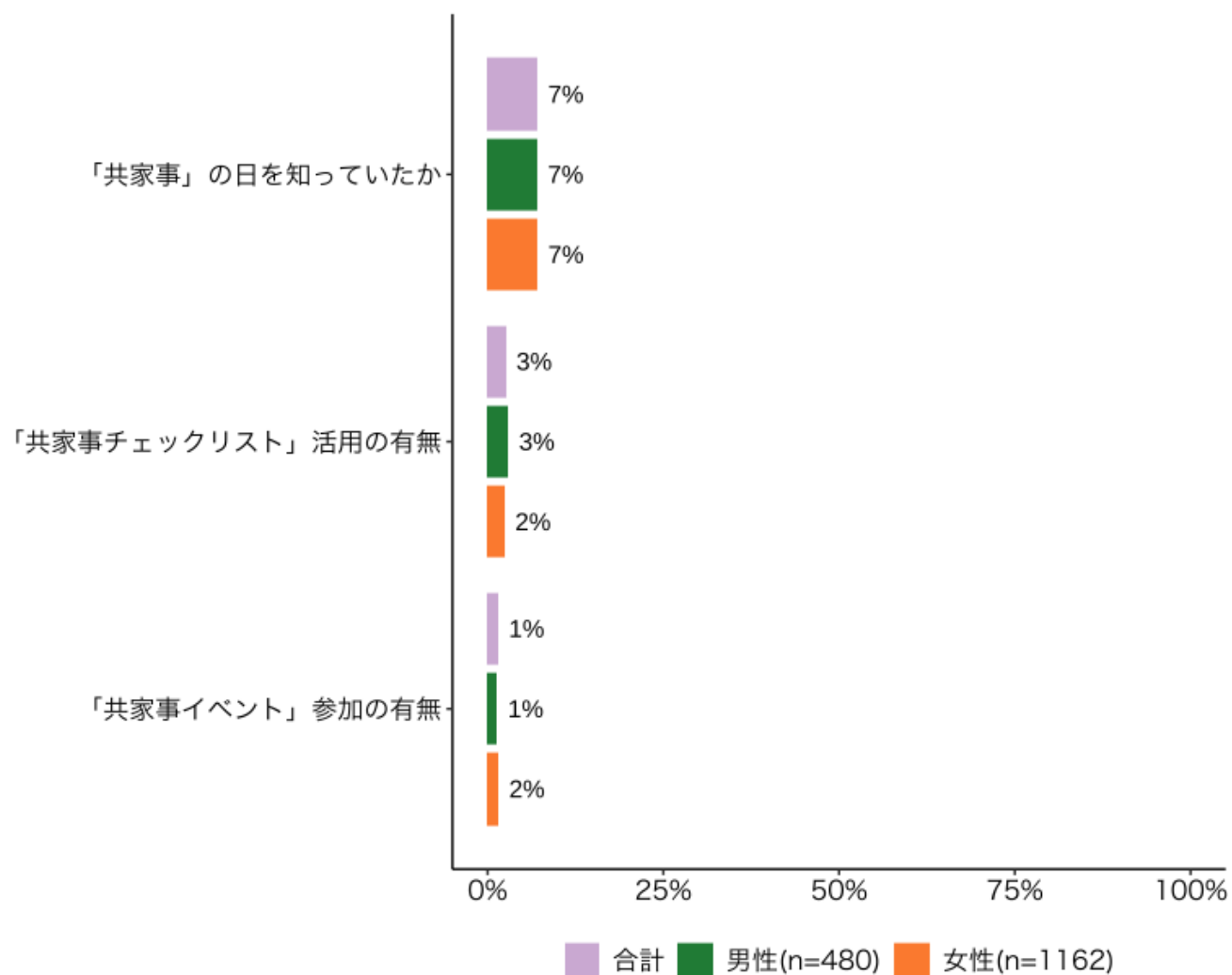
# 不妊治療を受けておらず、制度を利用していない理由



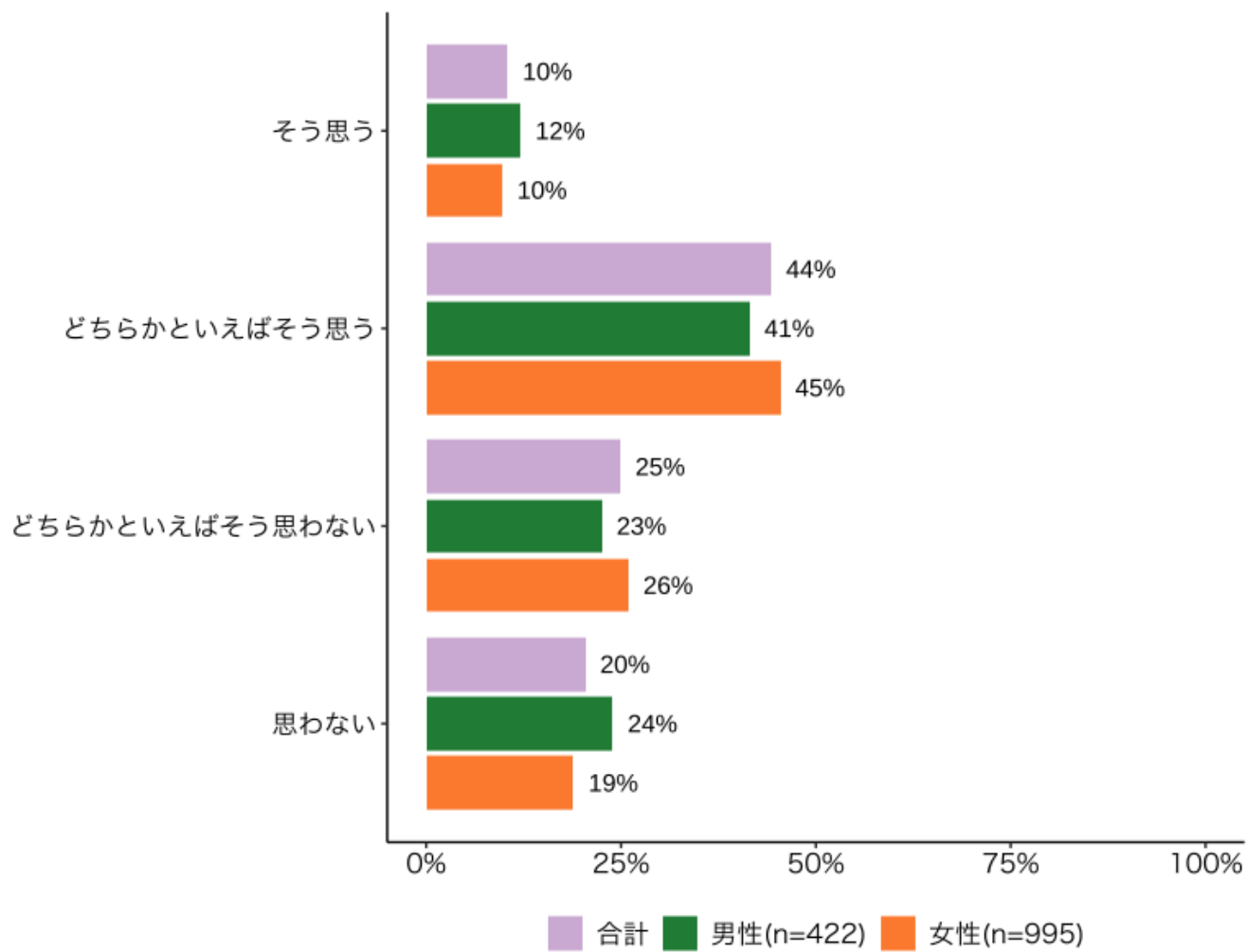
欠損値：男性に8ケース; 女性に36ケース



## 共家事の促進について



本制度が夫と妻の理想の家事育児分担に向けて有効だと思うか



欠損値：男性に58ケース; 女性に167ケース